

きべりはむし

第45巻 第2号

2022



「きべりはむし」編集委員会

委員長	池田 大
編集委員	近藤伸一・阪上洸多・末宗安之・中峰 空・安岡拓郎

三田市における蝶類の記録

谷野 温¹⁾

はじめに

三田市は、兵庫県の南東部に位置し、北摂三田ニュータウンの整備によって発展した都市である。地形としては、四方を山に囲まれた盆地であり、北西部から南東部へと武庫川が蛇行しながら流れている。冬の気温が周辺地域に比べても低いことも特徴と言える。市内のほとんどの地域はアカマツとコナラの林であり、照葉樹林やその他の針葉樹林はほとんど見られない。

さて、筆者が三田市民になったのが2013年。当時より蝶を採集していたが、真面目な調査を始めたのは2019年からである。その後、約3年半の間に生息が考えられるおおよその種類が採集できたので、ここにまとめることにする。

1. 調査概要

調査は2019年の3月頃から開始した。方法は、フィールドに出て蝶を採集するという簡単なものである。採集には1m～5mの長竿を使用した。まとめるに当たっては、作成した標本のラベルをもとにデータを出した。なお、できるだけ多数の種を採集することに重点を置いたため、データの個数が少なく、採集地にも偏りがあることはお許し願いたい。

2. 各種の解説

生態などの解説は、すでに様々な図鑑や論文などに挙げられているので、ここではデータの補足や特に必要と思われることを書く。和名・学名は日本産蝶類標準図鑑(白水, 2006)に従った(なお、記載者名は省略)。データの最後に飼育羽化の旨があるものは、日付が羽化日となっている。特に注意書きのない地名は三田市内のもの。

1. ギフチョウ *Luehdorfia japonica*

個体数は少なくない。三田市ではヒメカンアオイが食草。ミヤコアオイの生えている場所もあるが、ギフチョウは確認出来ていない。

有馬富士公園, 2♂, 13. IV. 2019; 2♂, 7. IV. 2020; 4♂, IV. 2019; 1ex., 10. IV. 2022. 大畑, 2♂, 8. IV. 2020. 志手原, 1♂ 2♀, 17. IV. 2020. 大原, 1♀, 3. III. 2021.

2. アゲハ *Papilio xuthus*

市内で最もよく見られるアゲハチョウ。春型は3～5月に見られ、6月の中旬頃には夏型が出始める。以後は継続的に10月中頃まで見られる。市内において筆者は、春型の♂は山頂付近に飛来するものが多く見られるが、夏はごく僅かしか山頂に飛来しない、という行動を観察している。他の地域ではどうだろうか。

志手原, 1♂, 10. V. 2019. 有馬富士公園, 1♀, 11. V. 2019. 大原, 1♂, 11. IX. 2021; 1♀, 28. IX. 2021, 幼虫採集・飼育羽化。有馬富士, 1♀, 10. IV. 2022.

3. キアゲハ *Papilio machaon*

アゲハより若干遅れて発生する。低地から山頂まで見られ、やや多い。

有馬富士, 1♂, 3. V. 2019; 1♂, 24. III. 2021; 1♂, 20. VI. 2021; 1♂, 4. IV. 2022. 大原, 1♂, 7. IV. 2022; 1♂, 7. IV. 2022. 中央公園, 1♀, 28. VII. 2019.

4. クロアゲハ *Papilio protenor*

市内ではどこにでも見られ、黒系アゲハの中では最も多い。春型は例年5月になる直前に発生するが、これが年々早くなっているように思う。これは他の黒系アゲハでも同様に思う。

有馬富士, 1♂, 19. V. 2019; 1♂, 9. V. 2021; 1♂, 23. IV. 2022; 1♂, 7. V. 2022. 大原, 1♀, 2. VIII. 2021; 1♂, 15. X. 2021, 幼虫採集・飼育羽化。

5. オナガアゲハ *Papilio macilentus*

少ない。市内で比較的多数が見られるのは東部地域のみで、他ではほとんど見たことがない。

波豆川, 2♂, 24. V. 2020. 有馬富士公園, 1♂, 1. VIII. 2020.

¹⁾ Atsu TANINO 三田市立上野台中学校

6. モンキアゲハ *Papilio helenus*

クロアゲハ、カラスアゲハに次いで多い。春型は例年5月中旬からの発生だが、驚いたことに7月上旬まで見られる。夏型は7月の下旬から見られる。本種は翅の破損が早く、データが少ないのはこの為である。

有馬富士, 1 ♂, 25. V. 2019; 1 ♂, 28. V. 2021; 1 ♀, 7. V. 2022.

7. カラスアゲハ *Papilio dehaanii*

個体数は多い。発生はミヤマカラスアゲハより若干遅れ、その差は夏型でより際立つ。

有馬富士, 1 ♂, 3. V. 2019; 1 ♂, 19. V. 2019; 1 ♂, 25. V. 2020; 1 ♂, 28. V. 2020; 1 ♂, 9. V. 2021; 1 ♂, 15. V. 2021; 1 ♂, 19. VII. 2021; 2 ♂, 23. IV. 2022; 3 ♂, 3. V. 2022; 2 ♂, 7. V. 2022. 小野, 1 ♂, 5. VI. 2021. 大原, 1 ♀, 15. VIII. 2021. 母子, 1 ♂, 23. V. 2022.

8. ミヤマカラスアゲハ *Papilio maackii* (図1)

他の黒系アゲハに比べると少ない。4月の中旬から発生するが、これは以前より1週間程も早くなっているように思う。三田市ではほとんどの山で見られる。

有馬富士, 2 ♂, 26. V. 2019; 1 ♂, 9. V. 2021; 1 ♂, 7. V. 2022. 虚空蔵山, 1 ♂, 11. V. 2020. 三国ヶ岳, 1 ♂, 10. VIII. 2020; 1 ♂, 3. V. 2021. 千丈寺山, 1 ♂, 24. IV. 2021. 大原, 1 ♀, 11. IX. 2021.

9. ジャコウアゲハ *Byasa alcinous*

発生地がごく限られる。データに載っていない場所では、加茂、東野上、香下、波豆川で過去に目撃したことがある。

小柿, 2 ♂, 1. V. 2020. 観福の森, 1 ♀, 3. V. 2021.

10. アオスジアゲハ *Graphium sarpedon*

個体数は少なくないが、採集が難しい。データが少ないのはその為。ニュータウン地域ではもっと数が多いかもしれないが未調査。

有馬富士, 1 ♂, 12. V. 2019; 1 ♂, 15. V. 2021.

11. モンシロチョウ *Pieris rapae*

数多く見られる。5月の下旬頃には夏型に変わる。

志手原, 1 ♀, 19. IX. 2020. 深田公園, 1 ♂, 14. III. 2021.

大原, 1 ♂ 1 ♀, 2. VI. 2019; 1 ♂, 17. III. 2021; 1 ♀, 29. III.



図1 ミヤマカラスアゲハ

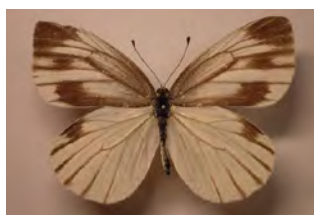


図2 スジグロシロチョウ

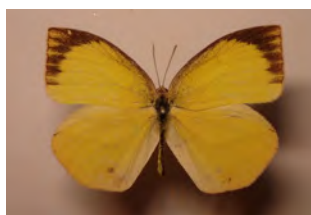


図3 ツマグロキチョウ



図4 ウラミスジジミ

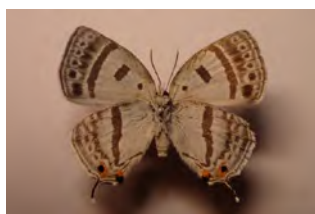


図5 ミズイロオナガジミ



図6 オオミドリシジミ

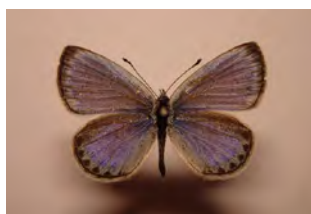


図7 ヤマトシジミ



図8 ルリシジミ



図9 ヒオシチョウ

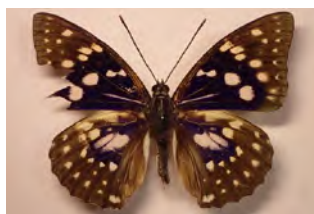


図10 オオムラサキ (スギタニ型)

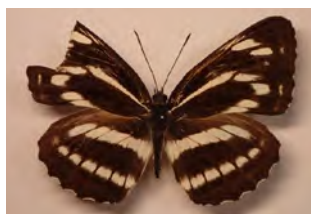


図11 ミスジチョウ



図12 ウラギンスジヒョウモン

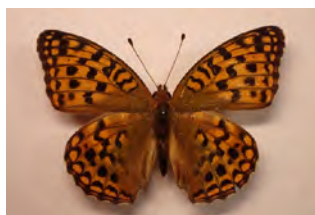


図13 ウラギンヒョウモンの一種

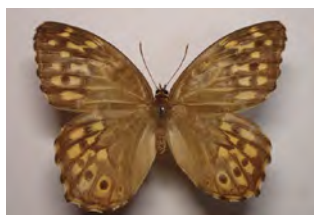


図14 ヤマキマダラヒカゲ



図15 ギンイチモンジセリ

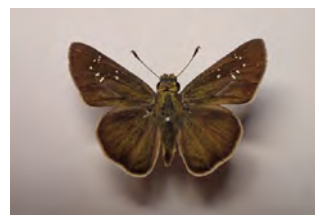


図16 チャバネセリ

2021; 1 ♂, 7. IV. 2021; 1 ♂, 22. V. 2021; 1 ♀, 23. IX. 2022. 母子, 1 ♂, 23. V. 2021. 有馬富士公園, 1 ♀, 31. V. 2021. 下深田, 2 ♂, 21. III. 2022.

12. スジグロシロチョウ *Pieris melete* (図 2)

非常に稀. 4 年間はおろか, 三田市に住み始めてから 1 ♀しか採集できていない.

小野, 1 ♀, 4. VI. 2021.

13. ツマキチョウ *Anthocharis scolymus*

数はやや少ないが, 広範囲で見られる.

香下, 1 ♂, 14. IV. 2020. 志手原, 1 ♂, 27. III. 2021. 有馬富士公園, 1 ♂ 1 ♀, 11. IV. 2021; 1 ♀, 10. IV. 2022.

14. キタキチョウ *Eurema mandaria*

数は多く, 黄色いのでよく目立つ.

有馬富士公園, 1 ♀ (秋型), 11. V. 2019; 1 ♂ (秋型), 7. IV. 2021. 小野公園, 1 ♂ (中間型), 3. XI. 2019. 志手原, 1 ♂ 1 ♀ (夏型), 19. IX. 2020; 1 ♀ (秋型), 29. III. 2021. 藍本, 1 ♂ (秋型), 3. XI. 2020; 1 ♂ (秋型), 5. XI. 2020. 蛹採集・飼育羽化; 1 ♂ (秋型), 7. XI. 2020. 蛹採集・飼育羽化. 深田公園, 1 ♂ 1 ♀ (秋型), 14. II. 2021. 大原, 1 ♂ (夏型), 15. VI. 2019; 1 ♂ (中間型), 4. X. 2020; 3 ♂ (夏型 1 中間型 2), 23. IX. 2022; 7 ♂ (夏型 6 秋型 1), 26. IX. 2022.

15. ツマグロキチョウ *Eurema laeta* (図 3)

この 4 年間で 1 頭しか採集しておらず, 極めて数が少ない. 過去には大畑でも採集したことがある.

有馬富士公園, 1 ♀, 11. IV. 2021.

16. モンキチョウ *Colias erate*

春早くから発生し, 数は多い. 低温期の個体は橙紋が発達し, 白い♀も含めて前翅裏面が橙色になる個体がいる.

大原, 1 ex., 2. VI. 2019; 1 ♂, 26. III. 2021; 1 ♀, 29. III. 2021; 1 ♀ 2 exs., 7. IV. 2021; 1 ♂, 27. III. 2022; 1 ex., 23. IX. 2022; 1 ex., 24. IX. 2022. 有馬富士公園, 1 ♂, 17. III. 2021. 深田公園, 1 ♀, 20. VIII. 2021.

17. ウラギンシジミ *Curetis acuta*

やや多い. 8 月の後半から特に個体数を増すように思う.

波豆川, 1 ♂, 29. VIII. 2019. 有馬富士公園, 1 ♂, 19. VII. 2020. 深田公園, 1 ♀, 23. VIII. 2020. 城山公園, 1 ♂, 8. XI. 2020. 志手原, 1 ♂, 11. X. 2022.

18. ムラサキシジミ *Narathura japonica*

カシ類が何らかの理由で伐採されたあとには多数飛

んでいることがある.

志手原, 1 ♀, 18. VI. 2019; 1 ♀, 19. IX. 2020. 有馬富士公園, 1 ♂, 20. VI. 2020. 城山公園, 1 ♂, 8. XI. 2020.

19. ウラゴマダラシジミ *Artopoetes pryori*

少ない. 食樹であるイボタ類の分布にかたよがあるように思うので, もっと多数が見られるところもあるかもしれない.

有馬富士公園, 1 ♂, 31. V. 2021. 飯盛山公園, 1 ♀, 5. VI. 2021.

20. ウラキンシジミ *Ussuriana stygiana*

少ない. データに示したのが全ての採集個体である. 昼間の叩き出しによって得られた.

有馬富士公園, 1 ♂, 12. VI. 2020; 1 ♀, 16. VI. 2020; 1 ♀, 12. VI. 2021.

21. ウラミスジシジミ *Wagimo signatus* (図 4)

非常に稀. 4 年間で採集できたのはデータに示した記録のみ. 採集したときの感動は今でも忘れられない.

有馬富士公園, 2 exs., 13. VI. 2020.

22. ミズイロオナガシジミ *Antigius attilia* (図 5)

ゼフィルスの中では多い. 2022 年 6 月 11 日に採集したもの (データにも示した) のうち 1 個体は前翅基部に黒点のあるタイプ.

有馬富士公園, 1 ex., 6. VI. 2019; 3 exs., 12. VI. 2020; 1 ex., 12. VI. 2021; 2 exs., 11. VI. 2022. 尼寺, 1 ex., 6. VI. 2021.

23. アカシジミ *Japonica lutea*

やや多い. ミズイロオナガシジミと同じぐらい見られる.

有馬富士公園, 1 ♂, 4. VI. 2019; 1 ex., 30. V. 2021; 1 ex., 6. VI. 2021; 2 exs., 12. VI. 2021; 2 exs., 11. VI. 2022.

24. ウラナミアカシジミ *Japonica saepestrata*

三田市にはクヌギがほとんどないので, 代わりにアベマキを食樹としていると考えられる (確認はしていない). ゼフィルス類の中ではアカシジミに次いで多い個体数だが, アベマキが大木ばかりなので採集困難.

有馬富士公園, 1 ♀, 4. VI. 2019; 1 ♂, 18. VI. 2019; 1 ♀, 20. VI. 2020; 1 ♂, 12. VI. 2021; 1 ♂, 11. VI. 2022. 大川瀬, 1 ♀, 26. VI. 2021.

25. ミドリシジミ *Neozephyrus Japonicus*

ハンノキがあればどこにでもいるように思う. 個体数も比較的多い.

- 有馬富士公園, 2 ♂, 20. VI. 2019; 1 ♂, 17. VI. 2020; 1 ♀, 20. VI. 2020; 1 ♂, 30. V. 2021, 幼虫採集・飼育羽化. 観福の森, 1 ♂, 5. VI. 2020, 幼虫採集・飼育羽化. 尼寺, 1 ♂, 31. V. 2021, 幼虫採集・飼育羽化. 大川瀬, 2 ♀, 26. VI. 2021.
26. オオミドリシジミ *Favonius orientalis* (図6)
少ない. コナラは多く生えているが, 全然見られない.
有馬富士公園, 1 ♂, 21. VI. 2020. 大川瀬, 1 ♀, 27. VI. 2021.
27. ベニシジミ *Lycaena phlaeas*
多い. 草地があればほとんどどこにでもいる. 雨の時は樹上にいることもある.
大原, 1 ♀, 16. IV. 2020. 城山公園, 1 ♀, 8. XI. 2020. 有馬富士公園, 1 ♂, 24. X. 2020; 1 ♂, 17. III. 2021; 1 ♂, 24. III. 2021; 1 ♂, 27. III. 2022; 1 ♀, 2. IV. 2022.
28. ヤマトシジミ *Zizeeria maha* (図7)
多い. 森林を除きどこにでもおり, 秋遅くまで見られる.
大原, 1 ♀, 30. IV. 2020; 4 ♂ 1 ♀, 17. VIII. 2020; 1 ♂, 4. X. 2020. 尼寺, 1 ♀, 31. X. 2020. 藍本, 1 ♀, 3. XI. 2020. 志手原, 1 ♂, 6. IV. 2021. 有馬富士公園, 1 ♂, 19. IX. 2021.
29. ツバメシジミ *Everes argiades*
草丈が少し高めの草地にいる.
大原, 1 ♂, 16. IV. 2020; 1 ♂, 17. VIII. 2020; 1 ♂, 23. IX. 2022. 志手原, 1 ♀, 13. IX. 2020; 1 ♂, 19. IX. 2020. 宮脇, 1 ♂ 1 ♀, 4. V. 2021. 有馬富士公園, 2 ♂, 19. IX. 2021.
30. ルリシジミ *Celastrina argiolus* (図8)
数は多い. 図に示すように, 翅表の色味が若干違う個体がたまにいる.
友が丘, 1 ♂, 4. VI. 2019; 1 ♀, 11. VI. 2019. 有馬富士, 2 ♂ 2 ♀, 24. III. 2020; 1 ♂, 2. VIII. 2020; 3 ♂, 26. III. 2021; 2 ♂, 27. III. 2022. 志手原, 1 ♀, 19. IX. 2020. 大原, 1 ♂, 29. III. 2021. 有馬富士公園, 1 ♀, 17. III. 2021; 1 ♂, 5. IV. 2021; 1 ♀, 30. V. 2021; 1 ♂, 2. IV. 2022.
31. コツバメ *Collophrys ferrea*
少ないものではない. アセビの花に来ているのがよく見られる.
有馬富士公園, 1 ♀, 7. IV. 2020; 1 ♂, 26. III. 2021; 1 ♂, 7. IV. 2021; 1 ♀, 11. IV. 2021; 1 ♂, 27. III. 2022.
32. トラフシジミ *Rapala arata*
数は少ない. 6月下旬頃に夏型を採ったことがある.
有馬富士, 1 ♂, 7. IV. 2020. 観福の森, 1 ♀, 30. IV. 2020.
33. ウラナミシジミ *Lampides boeticus*
秋には個体数を増す. 天気が悪いと飛ばないので, 狙って採ろうとすると採れない.
藍本, 1 ♀, 5. XI. 2019. 大原, 1 ♀, 27. IX. 2020. 成谷, 1 ♂, 1. X. 2022.
34. クロマダラソテツシジミ *Chilades pandava*
データに示した1個体だけ採れた. 発生しているかは不明.
深田公園, 1 ♂, 23. VIII. 2020.
35. テングチョウ *Libythea lepita*
6月と秋, 翌年の春に多い. それ以外の時期はあまり見られない.
有馬富士公園, 1 ex., 2. VI. 2020; 1 ex., 7. VI. 2020. 奥山公園, 1 ex., 2. X. 2022.
36. ヒメアカタテハ *Vanessa cardui*
秋に個体数を増すようである.
有馬富士公園, 1 ♀, 5. VI. 2019. 大原, 1 ex., 6. XII. 2020. 成谷, 1 ex., 1. X. 2022.
37. アカタテハ *Vanessa indica*
普段はあまり見ない. 夕方には山頂で占有していることもある.
有馬富士, 1 ex., 2. VIII. 2020; 1 ♂, 24. X. 2020.
38. キタテハ *Polygonia c-aureum*
秋にはよく見られる. 割とどこにでもいる.
有馬富士公園, 1 ex., 20. X. 2019; 1 ex., 24. IX. 2022. 大原, 1 ex., 24. IX. 2022.
39. ヒオドシチョウ *Nymphalis xanthomeles* (図9)
数は少なくないが, 初夏の頃にはあまり見られない. 鮮やかな赤で, 鮮烈な印象.
有馬富士公園, 1 ♂ 1 ♀, 30. V. 2021. 大原, 1 ex., 27. V. 2022.
40. ルリタテハ *Kaniska canace*
アカタテハ同様, 普段あまり見ない. 夕方には時々路上で占有しているのを見かける.
有馬富士, 1 ex., 20. VI. 2020. 有馬富士公園, 1 ♀, 7. IV. 2021; 1 ♂, 4. IV. 2022.

41. コムラサキ *Apatura metis*

やや多い. 池の周りで見る.

有馬富士公園, 1 ♀, 10. VIII. 2019; 1 ♂, 16. VI. 2020; 1 ♀, 4. VI. 2022.

42. ゴマダラチョウ *Hestina japonica*

エノキの木で待っているとよく見られる. 春型は割と長く見られるように思う.

有馬富士公園, 1 ♀, 11. V. 2019, 幼虫採集・飼育羽化; 1 ♂ 1 ♀, 1. VIII. 2020. 有馬富士, 1 ♂, 20. VI. 2021; 1 ♂, 5. VIII. 2021.

43. オオムラサキ *Sasakia charonda* (図 10)

普段から見られるものではないが, 北部には広く生息している模様. 稀にスギタニ型が採れる.

有馬富士, 1 ♂ (スギタニ型), 29. VI. 2019; 1 ♂ (スギタニ型), 7. VII. 2019; 4 ♂ (うち 1 ♂はスギタニ型), 24. VI. 2021; 1 ♂, 22. VI. 2022. 有馬富士公園, 1 ♂, 2. VII. 2020; 1 ♀, 7. VIII. 2020.

44. スミナガシ *Dichorragia nesimachus*

やや少ない. 他に 2020 年 8 月 9 日三国ヶ岳でも採集している.

有馬富士, 1 ♂, 2. VIII. 2020; 2 ♂, 28. V. 2022; 1 ♂, 22. VI. 2022.

45. イチモンジチョウ *Ladoga camilla*

次種アサマイチモンジよりかなり少ない. 8 月にも見られる.

有馬富士公園, 1 ♂, 29. V. 2020; 1 ♀, 7. VI. 2020.

46. アサマイチモンジ *Ladoga glorifica*

市内ではイチモンジチョウより多い. データにはないが 7 ~ 9 月にも見られる.

有馬富士公園, 1 ex., 26. V. 2019; 1 ex., 29. V. 2020; 1 ex., 1. VI. 2021.

47. コミスジ *Neptis sappho*

やや多い. 7 月 ~ 9 月頃にも見られる.

有馬富士公園, 1 ex., 5. V. 2020. 母子, 1 ex., 23. V. 2021.

48. ホシミスジ *Neptis pryri*

前種コミスジよりも若干局所的. 数はそれなりに多く見られる.

大原, 1 ex., 30. V. 2020. 有馬富士公園, 1 ex., 6. VI. 2021.

49. ミスジチョウ *Neptis phillyra* (図 11)

少ない. 他に母子でも成虫を目撃.

城山公園, 1 ex., 16. VI. 2019. 有馬富士公園, 1 ex., 30. V. 2021.

50. ツマグロヒョウモン *Argyreus hyperbius*

ヒョウモン類の中で最も多い. (アサギマダラを呼ぶための) フジバカマの花壇にも多数が飛来している.

下里, 1 ♂, 22. IX. 2019. 深田公園, 1 ♂, 23. VIII. 2020. 志手原, 1 ♀, 2. X. 2021. 虫尾, 2 ♀, 23. IX. 2022; 1 ♂, 26. IX. 2022. 成谷, 3 ♂, 1. X. 2022.

51. ミドリヒョウモン *Argynnis paphica*

やや少ない. ヒョウモン類の中では前種について多いが, 初夏には僅かしか見られない.

有馬富士公園, 1 ♂, 10. X. 2020. 小野公園, 1 ♀, 11. X. 2020. 乙原, 1 ♂ 1 ♀, 20. IX. 2021. 母子, 3 ♂, 20. IX. 2021; 1 ♀, 3. X. 2021. 有馬富士, 1 ♂, 22. VI. 2022. 成谷, 1 ♂ 1 ♀, 3. X. 2022.

52. メスグロヒョウモン *Damora sagana*

少ない. 僕が小学校低学年の頃よりも減っているように思う.

有馬富士公園, 1 ♀, 10. X. 2020. 大川瀬, 1 ♂, 27. VI. 2021; 1 ♀, 2. X. 2022. 成谷, 1 ♀, 1. X. 2022.

53. オオウラギンスジヒョウモン *Argyronome ruslana*

やや少ない. ミドリヒョウモン, メスグロヒョウモンと異なり, 秋には♀しか見られない.

大原, 1 ♂, 12. VI. 2020. 大川瀬, 3 ♂, 27. VI. 2021. 乙原, 1 ♀, 20. IX. 2021. 母子, 2 ♀, 20. IX. 2021. 志手原, 1 ♀, 30. IX. 2022. 成谷, 2 ♀, 1. X. 2022.

54. ウラギンスジヒョウモン *Argyronome laodice* (図 12)

非常に稀. 市内で見たのはデータに示した 2 ♀のみ. 大川瀬, 1 ♀, 26. VI. 2021. 志手原, 1 ♀, 27. IX. 2021.

55. ウラギンヒョウモンの一種 *Fabriciaca* sp. (図 13)

正確な同定はしていないが, おそらくサトウラギンの方. 少ない. この 2 年の間全く見ていない.

志手原, 1 ♀, 25. VI. 2019; 1 ♀, 4. X. 2020.

56. アサギマダラ *Parantica sita*

上野台中学校ではフジバカマを植えて本種を呼ぶ活動をしている (そのためあまり採集しないようにしている). 例年, 9 月下旬 ~ 10 月中旬に飛来する.

大原, 1 ♂, 3. X. 2021.

57. ヒメウラナミジャノメ *Ypthima argus*

多い. 草地にかなり見られる.

尼寺川, 1ex., 2. V. 2020. 志手原, 2exs., 13. IX. 2020. 大原, 1ex., 23. IX. 2022.

58. ヒメジャノメ *Mycalesis gotama*

やや多い. 林縁部などに見られる. 次種コジャノメより遅く発生する.

大原, 1ex., 8. VI. 2020. 三田駅, 1 ♀, 19. VI. 2022.

59. コジャノメ *Mycalesis francisca*

前種ヒメジャノメより少なく, 若干高いところに見られる.

有馬富士, 1 ♂, 12. V. 2019; 1 ♂, 7. V. 2020; 1 ♂, 7. VIII. 2020.

60. ジャノメチョウ *Minois dryas*

市内では, ススキがあれば割とどこにでもいるように思う. データの他に狭間が丘, 三国ヶ岳でも確認している.

中央公園, 1 ♂, 6. VII. 2019. 有馬富士公園, 1 ♂, 17. VI. 2020; 1 ♀, 19. VI. 2021.

61. クロコノマチョウ *Malanitis phedima*

少ないものではないが, あまり見られない. データの他には小野, 福島などでも目撃している.

中央公園, 1 ♂, 4. XI. 2019. 志手原, 1 ♂, 7. V. 2020. 乙原, 1 ♀, 20. IX. 2021. 友が丘, 1 ♂, 9. IV. 2022. 大原, 2 ♀, 3. X. 2022, 幼虫採集・飼育羽化.

62. ヒカゲチョウ *Lethe sicelis*

記録場所が偏っているが, 三田市では広い範囲で見られる.

有馬富士公園, 1 ♂, 5. VI. 2019; 1ex., 31. V. 2021; 1ex., 12. VI. 2021.

63. クロヒカゲ *Lethe diana*

前種より早く発生し, 5月下旬から見られる.

有馬富士, 1 ♂, 26. V. 2019; 1 ♂, 30. V. 2021; 1 ♀, 6. VI. 2021.

64. サトキマダラヒカゲ *Neope goschkevitschii*

数多く見られる. 4月の下旬から発生.

母子, 1 ♂, 17. VIII. 2020; 1ex., 23. V. 2021. 大原, 1ex., 1. V. 2021; 1 ♀, 5. VIII. 2021. 宮脇, 1ex., 29. IV. 2022.

65. ヤマキマダラヒカゲ *Neope nipponica* (図 14)

前種に比べてかなり少なく, データに示した 1 頭しか採れていない. 同定が非常に難しい個体で, 八木 剛氏に同定してもらった. 採集地の標高からしても本種で

良いと思う.

母子, 1 ♀, 17. VIII. 2020.

66. アオバセセリ *Choaspes benjaminii*

やや少ない. 一度に多くが見られることはほとんどない.

三国ヶ岳, 1 ♂, 9. VIII. 2020. 有馬富士, 1 ♂, 19. V. 2019; 1 ♂, 3. V. 2022; 1 ♂, 7. V. 2022.

67. ミヤマセセリ *Erynnis montanus*

やや多い. 雑木林の林床に生息し, 春早くから発生する.

有馬富士公園, 1 ♂, 23. III. 2020; 1 ♂, 24. III. 2021; 1 ♀, 26. III. 2021; 2 ♂, 4. IV. 2022; 1 ♀, 23. IV. 2022.

68. ダイミョウセセリ *Daimio tethys*

やや多いが, 普段見るものではない.

有馬富士, 1 ♂, 26. V. 2019; 1 ♂, 7. V. 2022. 三国ヶ岳, 1 ♂, 4. VIII. 2020.

69. ギンイチモンジセセリ *Leptalina unicolor* (図 15)

産地はかなり限定され, 個体数も多くはない. 個体数は減少しているようにも思える.

宮脇, 2exs., 24. IV. 2020; 4 ♂ 1 ♀, 4. V. 2021; 1ex., 29. IV. 2022.

70. ホソバセセリ *Isoteinon lamprospilus*

非常に少ない. 市内で採集したのはデータの他に 1 頭のみ (調査期間外).

有馬富士公園, 1ex., 4. VIII. 2020.

71. キマダラセセリ *Potanthus flavus*

データは少ないが, 個体数は多い. 9月頃にも見られる. 有馬富士公園, 1ex., 19. VI. 2020.

72. ヒメキマダラセセリ *Ochlodes ochraceus*

やや多いが, 前種キマダラセセリよりは少ない. 5月の下旬から発生.

波豆川, 1ex., 24. V. 2020. 母子, 1ex., 17. VIII. 2020; 1ex., 23. V. 2021.

73. コチャバネセセリ *Thoressa varia*

やや多い. 林縁部などによく見られるが, 春には田の畔などを飛んでいることもある.

有馬富士公園, 1ex., 26. V. 2019. 大原, 1ex., 23. V. 2021; 1ex., 19. VIII. 2022.

74. チャバネセセリ *Pelopidas mathias* (図 16)

5月下旬には見られる。個体数が多い。

大原, 1 ♀, 13. IX. 2020; 2exs., 26. IX. 2022.

75. オオチャバネセセリ *Polytremis pellicida*

6月と9月頃に林縁部などで見られ、個体数も多い。

大原, 1ex., 22. VI. 2019. 有馬富士公園, 1ex., 20. VI. 2020. 宮脇, 1ex., 26. VI. 2021.

76. イチモンジセセリ *Parnara guttata*

6月頃から見られ、秋にかけて増える。個体数はやや多い。

大原, 1ex., 2. VI. 2019; 1ex., 24. IX. 2022; 1ex., 26. IX. 2022. 母子, 1ex., 23. V. 2021.

まとめ

4年に渡る調査の結果、計76種を採集した。生息する種のほとんどは採集できたのではないだろうか。しかし筆者は、あと数種は記録される可能性があると思っている。既に確認した種についても、分布や発生時期などの細かい部分を調べるには、まだまだデータが不十分であり、今後も調査を続けていく予定である。

謝辞

本稿をまとめるにあたって、執筆を薦めてくださった八木 剛氏、採集に連れて行っていただいた服部 泰樹氏、森 聡子氏、蝶の採集の面白さを教えてくれた父に厚く感謝を申し上げます。

参考文献

白水 隆, 2006. 日本産蝶類標準図鑑. 336pp. 学習研究社, 東京.

ツマグロキチョウの阪神間での確認記録

神吉 正雄¹⁾

1. はじめに

ツマグロキチョウ (*Eurema laeta*) は、食草環境の悪化等で減少し兵庫県レッドリストの要注目種に指定されている。特に、阪神間では近年その姿を見る機会は極めて少なくなっていた。ところが2015年秋季に西宮市、宝塚市の7カ所で15頭を確認し、さらに三田市藍本の一カ所で11頭を確認した。しかし、これらは何れも秋型のみであった。

そこで筆者は、大阪昆虫同好会や西宮オサムシグループの方々の情報提供も得て、神吉弘視と共にツマグロキチョウの確認場所の追跡調査とその生態について調査・研究を続けてきた(神吉弘視・神吉正雄, 2017; 2018; 2019; 2020)。しかし、2018年以降その確認数は暫時減少し、2020年にはわずか2カ所での2頭の確認をするにとどまったが、2021年秋季にはかなりの出現確認をすることができた。

ここでは、2020年、2021年の確認場所とその確認数とその調査時で得た知見を報告し、さらに2015年からの発生推移についても述べておく。

なお、本文でツマグロキチョウの確認に関する表現は、「発生」の用語は避けて「確認」あるいは「出現」と記述する。これは、これまで阪神間での調査結果として、新成虫が発生している事実を確認できていないこと、食草のカワラケツメイ類(アレチケツメイを含む)を西宮市で3カ所、宝塚市で1カ所確認しているがそれらに食痕や幼虫が未だ確認できていないためである。阪神間で確認されるツマグロキチョウはいずれかの地から秋季に飛来したのではないかと現在のところは考えている。

2. 調査地域と調査方法

調査地域は、西宮市と芦屋市の全域、宝塚市南部および神戸市、尼崎市、大阪市の埋立地を対象とした(図1)。三田市藍本と丹波篠山市今田町については他の昆虫調査時に偶然発見した場所である。また、藍本は食草の確認はできていないが秋型が狭い範囲で多く確認している。今田町は食草のカワラケツメイが広く自生してお

り発生地である可能性がある。このため阪神間の出現と比較するのに好適であり調査対象とした。

調査方法は、2015～2017年の確認地を参考にして、調査指標地点として重点調査地域6カ所を含む18カ所を決め、調査地での生息環境とその変化、ツマグロキチョウの年別出現数の確認と増減傾向を判断した。

重点調査指標地で出現の確認ができると、調査指標地へ調査範囲を広げると共に、ツマグロキチョウが移動時に休息しそうな場所(図7)や吸蜜しそうな草を広く調査をした。調査地域をくまなく回る6カ所の重点調査指標地には、春季、夏季にも1～2回の調査をし、越冬後の個体が見られないかの確認と、夏型の発生がないかも調査してきた。秋季に入ると9月後半から12月下旬にかけて各ポイントでそれぞれ3～5回の調査を行っているが、西宮市仁川町6丁目は最重点調査指標地として9月上旬から10回前後調査に入り、その年の初期から採集までの出現状況の把握に努めた。

重点調査地：西宮市仁川町6、同鷺林寺町1、芦屋市岩園町46、同山手町12、宝塚市川面1、同美座2



図1 2021年ツマグロキチョウ調査地点と確認地点。

¹⁾ Masao KAMIYOSHI 兵庫県宝塚市

3. 出現地に見られる生息環境

調査地域内でこれまでツマグロキチョウの出現数の多い重点調査地における生息環境については、次の共通点が観察できた。

日当たりの良い南面が拓けた草地ないし畑地でしかも北側に林があること、草地にはイネ科植物やススキ類、ヌスビトハギ等の雑草類が密生していること、河川や灌漑用水等に近接している場所が共通して見られる好適地を好むことが判明した。これらの条件の中でも特にイネ科植物の枯草を好むのは、根に近い茎にツマグロキチョウが翅を閉じて止まると、ツマグロキチョウの裏面が保護色となり極めて見つけにくくなるためと考えられる(図2, 図4, 図5, 図6, 図7)。

またツマグロキチョウの秋型の特性として、経験上飛翔していることは少なく、草の根に近い茎や木に静止していることが多い。このため、静止している草地に深く入り込み、周りの草や周辺の木を強くビーティングする必要がある。ツマグロキチョウは草地でも特にヌスビトハギやセンダングサの密集した場所を好む。このツマグロキチョウの生態を理解した採集方法を実施しないと、本種の実態調査は難しいことを体感した(図4, 図5, 図6)。

この調査は7年間続けているため、生息好適地である場所も土地開発や住宅建設、土地利用の用途変更等の環境変化で出現しなくなったり、調査地内への立ち入りが認められなくなった場所もあった。また晩秋になると草刈りが行われ越冬までせず移動する場合も多い。逆に用地の管理がされなくなることによる新しい草地の出現で、ツマグロキチョウを確認できた場所もあった。そのため常に新しい好環境の場所を求めて調査を進めてきた。

4. 2020年における出現状況について

2020年は、8月30日に兵庫県神鍋山山麓で石川延寛が採集したツマグロキチョウのメスを産卵させて、飼育し40頭程が羽化した。この羽化した個体は夏型と秋型の中間的な個体であった。さらに9月21日に筆者と

石川延寛で神鍋山に採集に行き、山麓部で夏型の痛んだ個体1頭と秋型の個体を採集し、幼虫2頭も採集した。山頂部では全て秋型であった。山麓部の幼虫を飼育し羽化させたら2頭とも秋型が羽化した。これらの発生時期による個体と阪神間の個体との比較もし、現在その時期による発生の分析を進めている。

阪神間での2020年は、春季の越冬個体の出現は見られず、秋季に入り調査を進めていたが全く確認できずにいた。10月20日に最重点確認指標地点である西宮市仁川町6丁目でやっと1♂を採集した。これまでより随分遅い確認であった。続いて10月21日に芦屋市三条町でも1♀を確認することができた(表1)。

この年は、その後も初冬まで32ヶ所の調査を繰り返して試みたが、上記の2カ所2頭のみの確認に終わった。採集した個体は、これまでと同じく秋型の新鮮な個体であった。

また三田市藍本、丹波篠山市今田町の調査においてもツマグロキチョウの確認をすることができなかった。

以上の如く2020年の阪神間におけるツマグロキチョウの出現は極めて少ない年であった。

5. 2021年における出現状況について

2021年の春季の越冬個体の出現は確認できなかった。しかし、秋季に入り10月11日に最重点指標地点の仁川町6丁目で新鮮な1♀を確認できた。そこで本格的な広域調査に入り、10月12日に西宮市の埋め立て地である鳴尾浜3丁目で1♂が確認できた。その後も、西宮市、宝塚市南部、芦屋市の調査を進めるとともに、六甲山地北部に当たる西宮市名塩赤坂(標高307m)の調査をし、それぞれのポイントでツマグロキチョウを確認することができた(表2)。さらに阪神間の出現傾向と比較するための重点指標地点である三田市藍本の出現状況の調査に入ると4♂2♀を確認することができた。これにより2021年は広域に出現している可能性を強く感じた。

調査を進めると、2021年は久しぶりにかなり出現し

表1 2020年ツマグロキチョウ確認記録.

確認日	場所	確認数	型	備考
8月30日	兵庫県神鍋山山麓	3♂2♀	夏型	採集者石川氏。2♀を飼育採卵。飼育⇒羽化
9月21日	兵庫県神鍋山山麓	7頭	混在	石川氏と神吉。幼虫2頭採集。飼育⇒羽化
	兵庫県神鍋山山頂	2頭	秋型	石川氏と神吉。
10月20日	西宮市仁川町6丁目	1♂	秋型	新鮮個体
10月21日	芦屋市三条町	1♀	秋型	新鮮個体。その他、鷲林寺・芦屋山手町26河川敷はいなかった。
計		2カ所2頭		

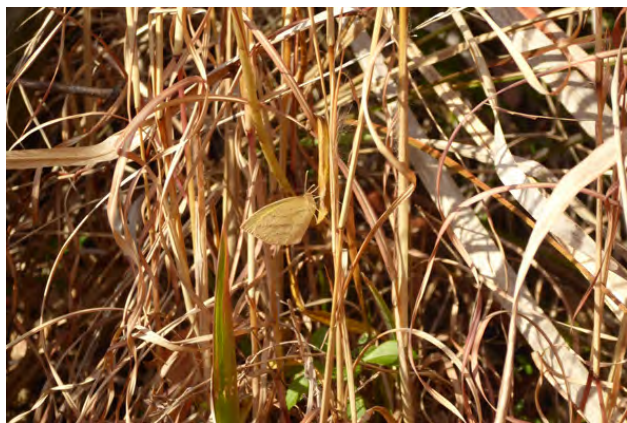


図2 越冬中、芦屋市朝日ヶ丘 2021.12.11



図3 越冬中、芦屋市岩園町、2021.12.11



図4 環境：公園、芦屋市朝日ヶ丘、2021.12.11



図5 環境：旧畑地、芦屋市岩園町、2021.12.11



図6 環境：道路沿い、西宮市甲子園浜、2021.12.12



図7 環境：住宅地内空地、西宮市鳴尾、2021.12.21



図8 環境：畑と林、西宮市赤坂峠、2021.11.7



図9 環境：畑と林、三田市藍本、2021.10.28

表 2 2021 年ツマグロキチョウ確認記録.

確認日	場所	確認数	型	備考
10 月 11 日	西宮市仁川町 6 丁目	1 ♀	秋型	調査指標地
10 月 12 日	西宮市鳴尾浜 3 丁目	1 ♂	秋型	調査指標地
10 月 15 日	芦屋市山手町 12	1 ♂	秋型	調査指標地
10 月 28 日	三田市藍本	4 ♂ 2 ♀	秋型	調査指標地
10 月 30 日	芦屋市山手町 12	1 ♂	秋型	調査指標地
	芦屋市三条町	1 ♀	秋型	調査指標地
	芦屋市山手町 23 前山公園	1 ♂	秋型	
	芦屋市岩園町 46	2 ♂	秋型	調査指標地
10 月 31 日	西宮市仁川町 6 丁目	1 ♀	秋型	調査指標地
11 月 1 日	西宮市鷺林寺町 1 丁目	2 ♂ 4 ♀	秋型	調査指標地
11 月 3 日	西宮市仁川町 6 丁目	1 ♀	秋型	調査指標地
11 月 5 日	宝塚市美座 2 丁目	1 ♂	秋型	調査指標地
	宝塚市川面 1 丁目	1 ♂	秋型	調査指標地
11 月 6 日	宝塚市清荒神 3 丁目	2 ♀	秋型	
11 月 7 日	西宮市塩瀬町名塩赤坂峠	1 ♂ 1 ♀	秋型	
11 月 15 日	西宮市西宮浜 1 丁目	1 ♂	秋型	
11 月 20 日	芦屋市朝日ヶ丘町	1 ♂ 2 ♀	秋型	
12 月 11 日	芦屋市岩園町 46	1 ♂ 1 ♀	秋型	調査指標地
	芦屋市朝日ヶ丘町	1 ♂	秋型	
12 月 12 日	西宮市甲子園浜 1 丁目	1 ♂	秋型	調査指標地
計		15 カ所 36 頭		

ていることが明らかになってきた。そこで、2017 年に初めて湾岸部の埋立地にまでツマグロキチョウが出現し、その後確認記録が出来ていなかった神戸市六甲アイランドから大阪市南港舞洲までの湾岸部調査を実施した。西宮市では鳴尾浜埋立地、今津の甲子園浜埋立地、西宮浜埋立地の全ての湾岸部で確認することができた。ただ、その確認数は 2017 年に比較すると圧倒的に少なかった。特に、甲子園浜埋立地は初秋からキタキチョウの異常発生が見られ、5 回目の 12 月 11 日の調査でやっと確認できた。この 12 月中旬は既に越冬態勢に入っており、イネ科植物やススキ、その背後の灌木類を強くビーティングしやと姿を見せた。この時は、キタキチョウも小型の 1 頭が見られただけであった。秋季においてもキタキチョウが多産しているところではツマグロキチョウは極めて少なく、両種の主な生息場所の違いを反映していると考えられる。特に、越冬時期にはビーティングしてもツマグロキチョウが出てくる環境とキタキチョウの出てくる環境は異なっている場合が多い。

西宮の湾岸部での確認ができたが、2017 年に多くの確認ができた神戸市六甲アイランドの棲息ポイントを調査したが確認できなかった。さらに、2017 年時も確認頭数は少なかった尼崎市扇町の埋立地と芦屋浜埋立地には 3 回調査に入ったが確認できなかった。大阪市南港の舞洲埋立地には同地に詳しい、2017 年に同行願った

神吉弘視と二人で草地や林縁を徹底してビーティングをしながら歩き回ったがキタキチョウは飛び出すがツマグロキチョウは確認できなかった（表 2）。2021 年は内陸部ではかなりの出現数を見たが、広域の湾岸部への飛来は極めて少なかったか無かったものと考えられる。

2021 年のツマグロキチョウ出現確認調査は、44 カ所実施し 15 カ所で 36 頭を確認できた。2017 年の 129 頭の多量の出現にはおよばないが、2017 以降出現が減少していた中で 4 年目の出現増加であった。しかも、調査域の北部から南部までかなり広域での出現が見られた。

出現したツマグロキチョウの個体はごく一部を除き、大部分が新鮮な個体であった。阪神間での新成虫の発生が未だ確認できない中で、飛翔力の弱いツマグロキチョウが、阪神間の北部の山麓部から湾岸地まで新鮮な個体がなぜ確認できるのか、今回も大きな疑問点として残った。阪神間における食草のカワラケツメイを筆者が確認している生息地は、既に確認している西宮市の市街地にある芦原町の事務所敷地内、北部の名塩の新興住宅地内とゴルフ場周辺部の 2 カ所、宝塚市の美座付近の武庫川河川敷である。この 4 カ所での春季や夏季における成虫の飛来、卵や幼虫、食草の食痕の確認はこれまで同様一切見られていない。また、代替の食草の存在も調査時に調べているが確認できていない。

表3 ツマグロキチョウの確認場所とその環境 (2015 年～ 2021 年).

調 査 地 点		標 高 (m)	確 認 個 体 数 *							備考
◎：調査指標地点			2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	
＜西宮市＞										
1	塩瀬町名塩	149.8	1	0	0	0	—	—	—	
2	名塩赤坂	307.0	—	1	1	0	0	—	2	
3	山口町名来	199.9	1	0	0	0	0	0	—	
4	◎仁川町 6-8・11	68.7	—	2	4	7	1	1	3	最重点調査地
5	仁川町 6-24	63.3	—	—	—	—	2	0	0	
6	仁川町 6、仁川広河原	151.6	0	1	0	0	0	0	0	
7	田近野町	19.5	1	0	0	2	0	0	0	
8	◎甲山町、神呪寺下	172.3	1	2	2	0	0	0	0	
9	甲山森林公園	157.3	—	2	2	0	0	0	0	
10	甲山山頂	309.2	—	—	2	0	0	—	0	
11	甲山町北山観察池	221.7	—	—	1	0	0	0	0	
12	◎鷺林寺町 墓地	266.1	—	12	24	3	0	0	6	重点調査地
13	鷺林寺町、甲山高校前	272.2	—	—	1	0	—	—	—	
14	越水字社家郷山	251.3	—	—	1	0	0	0	0	
15	剣谷町	220.0	1	0	0	—	—	—	—	
16	上鳴尾 神社	1.5	—	—	—	1	—	—	0	
17	浜町 1	3.1	—	—	4	0	0	0	0	
18	西宮浜 1（西宮浜埋立地）	3.1	—	—	—	—	—	—	1	
19	西宮浜 4（西宮浜埋立地）	3.5	—	—	1	0	0	0	0	
20	◎西宮浜 3（西宮浜埋立地）	4.0	—	—	3	0	0	0	0	
21	◎甲子園浜 1（甲子園浜埋立地）	3.4	—	—	9	0	0	0	1	
22	鳴尾浜 1（鳴尾浜埋立地）	3.1	—	—	2	0	0	0	0	
23	◎鳴尾浜 3（鳴尾浜埋立地）	2.1	—	—	5	0	0	0	1	
＜芦屋市＞										
24	奥池町 16	515.8	—	—	1	0	0	—	0	
25	◎奥池南町	502.5	—	2	0	0	0	—	0	
26	六麓荘緑地	115.2	—	4	1	0	0	0	0	
27	六麓荘西緑地	101.6	—	1	1	0	0	—	0	
28	◎岩園町 46 畑	77.6	—	6	2	1	0	0	4	重点調査地
29	岩園町 39	76.6	—	—	1	0	0	0	0	
30	朝日ヶ丘町	67.9	—	—	0	0	—	—	4	
31	東山町 15	55.1	—	—	2	0	—	—	—	
32	東山町 12 東山公園	55.1	—	—	—	1	0	—	—	
33	山手町 23 前山公園	165.0	—	0	0	0	0	0	1	
34	◎山手町 12 芦屋川河川敷	44.9	—	7	4	1	4	0	2	重点調査地
35	山手町 26 芦屋川沿い	60.0	—	4	3	0	—	—	0	
36	◎三条町 39	119.2	—	—	—	—	2	1	1	
37	業平サクラ通り（芦屋川河川敷）	27.5	—	1	0	0	0	0	0	
38	◎海洋町（南芦屋浜埋立地）	7.0	—	—	1	0	0	0	0	
＜宝塚市＞										
39	◎御殿山 1 大林寺	133.6	—	—	7	1	0	0	0	
40	◎川面 1 畑	43.0	9	—	2	0	0	0	1	重点調査地
41	◎川面 6 千吉神社	65.2	—	—	1	1	0	0	0	
42	清荒神 3 参道横畑	46.9	—	—	1	1	0	0	2	
43	◎美座 2、武庫川河川敷	28.6	—	2	1	0	1	0	1	重点調査地
44	美幸町	24.5	—	—	—	1	0	0	0	

表3 続き.

調 査 地 点		標 高 (m)	確 認 個 体 数 *							
◎：調査指標地点			2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	備考
45	ゆずり葉台 2	185.1	—	—	1	0	—	—	—	
46	千種、逆瀬川河原	67.8	1	—	0	0	—	—	—	
47	仁川高丸 古墳跡	142.8	—	—	3	0	0	0	0	
<三田市>										
48	◎藍本	192.4 ~ 209.6	11	12	7	1	3	0	6	
49	有馬富士		—	—	—	1	—	—	—	
<丹波篠山市>										
50	今田町釜屋	230.1	—	—	2	—	0	—	—	
51	今田町間新田、神社付近	204.3	—	—	14	3	0	0	—	
52	今田町間新田、墓地の西	204.3	—	—	1	0	0	0	—	
<尼崎市>										
53	◎扇町（扇町埋立地）	4.2	—	—	1	0	0	0	0	
<神戸市>										
54	港島南町 3（ポートアイランド）	5.2	—	—	1	—	—	—	—	
55	◎向陽町中 8（六甲アイランド）	5.1	—	—	5	0	0	—	0	
56	向陽町中 9（六甲アイランド）	4.5	—	—	2	0	0	—	0	
<大阪市>										
57	◎北港緑地（舞洲埋立地）	10.5	—	—	2	0	—	—	0	
調査カ所合計（カ所）			9	20	50	51	44	35	44	
確認個所合計（カ所）			8	15	40	14	6	2	15	
確認頭数（頭）			26	59	129	25	13	2	36	

6. 2015 ~ 2021 年の確認頭数の推移

ツマグロキチョウが阪神間でかなりの数の飛来を確認した 2015 年から本年の 2021 年までの確認頭数の推移についてその概略を述べておく (表 3, 図 1)。

筆者が阪神間で最初に確認したのは 2015 年 10 月 11 日に友人である西宮自然保護協会の川瀬信一が西宮市田近野の武庫川堤防付近で見つけ撮影したものを見せてくれた時である。その後、筆者の主宰する西宮のオサムシグループの西沢柊から 10 月 18 日に西宮市剣谷町で採集したとの報告が来た。筆者も 10 月 22 日にオサムシの調査時に三田市藍本で 2 頭を採集し、24 日に神吉弘視含む 3 名で藍本の調査に入り 7 頭を確認した。以降 11 月 5 日までに西宮の 3 カ所で 4 頭を確認した。一方、足立勲から宝塚の 2 カ所で 10 頭の採集情報を聞き、この年は 9 カ所調査し、8 カ所で 26 頭を確認した。

それまで、近年減少が著しいツマグロキチョウは阪神間の都市周辺では姿を見ないチョウとして認識していたので、神吉弘視と共に詳細な調査に入ることとした。2016 年は 20 カ所を調査し 15 カ所で 59 頭の確認ができた。

調査を進める中で、阪神間でツマグロキチョウが出現する環境も把握でき、2017 年には 50 カ所を調査し 40 カ所で 129 頭の確認ができた。特に 2017 年は多く

出現したため、ツマグロキチョウの秋季に飛来する環境、その後、越冬する環境の把握ができてきた。そのことにより 2017 年は 40 カ所で確認できたが、その中でも西宮市の鷲林寺町や仁川町 6 丁目、甲子園浜 1 丁目、芦屋市岩園町や山手町 12、宝塚市御殿山や川面、三田市藍本など現地へ飛来し、そのまま越冬まですることが判明した。そのためそれらの場所では飛来してきたツマグロキチョウが次第に集団化していくことが見られ、数頭から 20 頭を超える確認もできた。

一方で、出現した個体が極めて新鮮な秋型であることから、長距離の移動後の個体とは考えにくい。そのため確認場所での発生が起こっていないかの調査も並行して行うこととした。その調査対象は、食草であるカワラケツメイの存在、あるいは、アレチケツメイの存在や代替食草の存在を明らかにすることであった。しかし、調査の甲斐なく発生確認ができなかった。

ところが 2018 年から出現数が減少し始め、2018 年は 51 カ所調査し 14 カ所で 25 頭の確認と急減した。さらに 2019 年は 44 カ所調査し 6 カ所で 13 頭の確認、2020 年は 35 カ所調査し 2 カ所で 2 頭を確認するにとどまった。多く出現する三田市藍本でも 2018 年に 1 頭、2019 年に 3 頭、2020 年には 0 頭となり、阪神間での出現数と同傾向を見せた (表 4, 図 10)。このため、

2018 年度からの急減は阪神間のみの現象でなく、広域で見られた現象ではないかと考えられた。すなわち阪神間へ飛来するツマグロキチョウの発生元で起こっている急減ではないかとも考えられた。

調査の継続の可否を迷う中で、2021 年になり、重点調査指標地点の西宮市仁川町 6 丁目で 10 月 11 日に 1 ♀が確認できた。以降調査指標地点を中心に各地で確認ができ、44 カ所調査し 15 カ所で 36 頭の確認となった。しかも、西宮では湾岸埋立地まで出現が広まっていることも確認できた。

2015 年から 2021 年までの出現地別の出現数の推移を見ると、阪神間の西宮市の仁川町 6 丁目、鷲林寺町、芦屋市の岩園町 46、山手町 12 では 2018 年までは毎年かなりの数が出現していた。その他の場所では 1～2 年出現しても、その後確認できたりできなかったりと不安定であった。2019 年以降は全体の出現数も減少傾向が明白となった。ところが 2021 年には再び多くの出現が見られた。この 4 カ所は 2021 年までは大きな環境変化が無く、ツマグロキチョウが越冬場所として好む南向きの畑地か草地に、後背部が林になっている好環境が維持されていた。ただ芦屋市の岩園町 46 の畑地は住宅地内で残されていた貴重な飛来場所であったが、2022 年 2 月から開発事業が行われ、環境が破壊されるため、この場所への飛来は 2022 年以降は見られなくなるだろう。

7. おわりに

筆者は 2015 年に阪神間にツマグロキチョウが秋季になると出現するようになったことを把握し、その動向と生態について調査を続けてきた。2015 年から 2017 年にかけてその出現数は増加していき、219 頭まで確認するようになった。その範囲も北は西宮市北部の山口、名塩まで見られ、南は大阪市南港舞洲から尼崎、西宮、神戸市六甲アイランドの埋立地まで広がっていることを確認できた。重点調査指標としてきた場所では 12 月に入ってから確認もでき、ほぼその場で越冬していることが判明した。

ところが 2018 年以降は出現数が減少し、2020 年には 2 頭の確認までに止まった。しかし 2021 年にはかなり増加し 36 頭の確認ができた。この出現数の推移は、三田市藍本での調査結果と相関するので、これらの出現推移の傾向は阪神間独特のものでなく、広域的な発生に伴うものと考えられる。

一方、阪神間で確認されたツマグロキチョウは新鮮な秋型のみが見られること。夏型は未確認であること、食草のカワラケツメイも極一部で見られても、卵や幼虫、食痕が見られないことから、出現確認場所での発生が考えられない。このことから阪神間で確認されているツマグロキチョウは何処から来たものかという疑問が依然として残ったままである。さらに、2015 年から急に阪神間へ出現し始めた要因は何かも判明しておらず、これらを合わせ、今後の課題として残った。

表 4 阪神間と三田・篠山におけるツマグロキチョウの確認頭数 (2015 年～2021 年)。

場所 \ 年次	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	計
阪神間	15	47	105	20	10	2	30	229
三田・篠山	11	12	24	4	3	0	6	40

* 阪神間＝西宮市・芦屋市全域、宝塚市南部、尼崎市・神戸市・大阪市の埋立地。
三田・篠山＝三田市藍本、丹波篠山市今田。

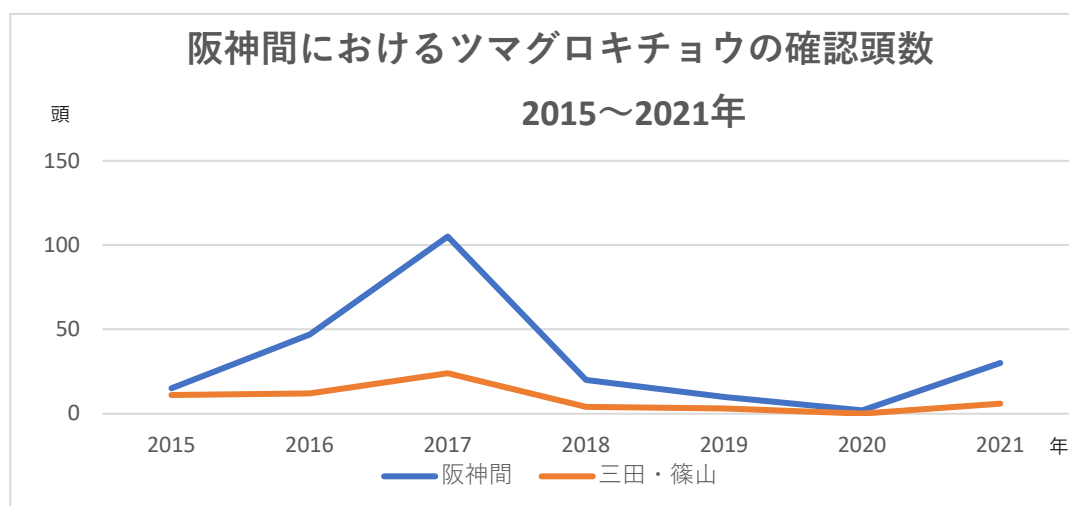


図 10 阪神間と三田・篠山におけるツマグロキチョウの確認頭数 (2015 年～2021 年)。

2022 年には多くのツマグロキチョウが阪神間に飛来することを願いながら、課題の解決のための調査・研究を続けていきたい。

謝辞

阪神間で 2015 年にツマグロキチョウの出現が見られて以来、2021 年までの長期におよぶ調査を行うにあたり、近藤伸一氏には文献資料と助言を頂いた。兵庫県西宮市鷲林寺町 1, 仁川町 6 丁目, 芦屋市岩園町, 三条町, 山手町 26, 宝塚市川面 6 丁目, 清荒神 3 丁目, 三田市藍本の地元の方々, および西宮市環境学習サポートセンターの私有地への立ち入り調査にご協力いただいた。石川延寛, 能登康夫には度々の調査時の同行を頂いた。足立勲, 石川佳史, 川瀬信一, 岸本由美子, 島岡優, 島岡良治, 高岡拓未, 中本和枝, 中本南, 西沢柊, 山田洋三の各氏にはツマグロキチョウの出現情報を頂いた。諸氏に厚くお礼を申し上げる。なお, 本調査に関しては神吉弘視の指導・助言で行えたことを感謝と共に記しておく。

参考文献

- 神吉弘視・神吉正雄. 2017. ツマグロキチョウの棲息環境と生態についての考察—主に秋季, 兵庫県南東部における観察から—。大昆 Crude(61):48-55
- 神吉弘視・神吉正雄. 2018. ツマグロキチョウの棲息環境と生態についての考察(Ⅱ)—主に秋季, 兵庫県南東部における観察から—。大昆 Crude(62):42-55
- 神吉弘視・神吉正雄. 2019. ツマグロキチョウの棲息環境と生態についての考察(Ⅲ)—主に秋季, 兵庫県南東部における観察から—。大昆 Crude(63):50-56
- 神吉弘視・神吉正雄. 2020. ツマグロキチョウの棲息環境と生態についての考察(Ⅳ)—秋季, 兵庫県南東部における観察から—。大昆 Crude(64):52-55
- 近藤伸一. 2015. 兵庫県におけるツマグロキチョウの大発生について(みんなで調べよう 2015)。きべりはむし 38 (1): 6-12
- 長谷川順一. 2007. 晩秋のキタキチョウとツマグロキチョウ。蝶研フィールド 22 (11/12): 32-35
- 福田晴夫他. 1982. 原色日本蝶類生態図鑑(1)。保育社。大阪

みんなでつなぐ 初蝶リレー

久保 弘幸¹⁾

はじめに

2013年に始まった初蝶リレーも、2022年の春で10年目を迎えました。10年間お付き合いいただいた方々、毎年新たに参加して下さる、こどもとむしの会の新しい仲間の皆さん、そして会員外から参加していただいた皆さんには、改めて感謝を申し上げます。最近では、子どもたちの参加が増えていることも、筆者にとっては特に嬉しいことです。

子どもたちが、純粋な目で虫たちを探し、虫たちを見つめる心が育ってくれるなら、これほど素晴らしいことはありません。

初蝶リレーは、こどもとむしの会会員でなくても、気軽に参加していただけるイベントです。今後も参加する方が増え、虫仲間のつながりも広がってゆくことを、心から願っています。

1. 実施方法

これまでと同じく、立春（2022年は2月4日）から、4月3日の昆虫館開館（虫開き）までの間に、参加者が目撃した蝶の種類、日時、場所を、筆者に送るという方法で実施した。情報の送信は、これまではeメールのみであったが、今年からは、佐用町昆虫館のホームページ上に情報記入フォームが開設され、情報の投稿がより簡

便になった。筆者は寄せられた情報をとりまとめ、「初蝶ニュース」として週に1回メール配信した。本年の配信回数は9回であった。

期間中、31種の蝶について253件、78種の蛾について118件、その他の昆虫17種について19件の情報が寄せられた。なお蛾類については、紙面の都合もあり、初蝶リレー開始日以降の、その地域での本年初見種を掲載させていただいた。ご容赦いただきたい。頂戴した情報は、文末の付表1～4にまとめて掲載している^[1]。

2. 2022年冬の気温傾向と初蝶

【気温傾向】

神戸市内の記録に基づく^[2]、2022年の冬～春（前年12月～当年3月）は、2021年と比較して寒い冬であった。この間の積算温度を見ると、非常に暖冬であった2020年の冬は1161.5℃・日、2021年の冬が1089.3℃・日であったのに対し、2022年は123℃低い966℃・日であった（図1）。とは言え、この積算温度は、10年間の平均値997.2℃・日に近い。

気温変化の傾向を見ると、2021年は1月の上旬～中旬に寒さの底があり、そこから急激に気温が上昇した後、小さな寒暖を繰り返しながら、春に向かって気温が上昇しているのに対して、2022年は寒さの底こそ

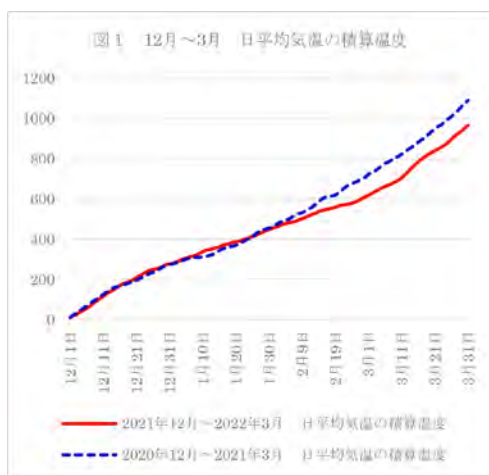


図1 12～3月 日平均気温の積算温度。



図2 冬～春 気温変化の比較。

¹⁾ Hiroyuki KUBO 兵庫県明石市 兵庫ウスイロヒョウモンモドキを守る会

2021 年より浅いものの、鍋底のように寒い状況が続き、2 月にはやや寒さが緩んだものの、2 月下旬に強い寒さが訪れている（図 2）。2021 年には、初蝶リレーの初見日新記録が続出したのに対し、2022 年の初蝶はこうした気温傾向を反映してか、やや遅めの記録が多かった。

3. 蝶の出現時期（付表 1・2）

【初蝶組】

蝶の出現は全般に去年より遅れ気味で、最も早い初蝶は、2 月 26 日（洲本市）のモンキチョウであった。モンシロチョウは 3 月 10 日と、昨年よりも 17 日も遅れた確認となった。

アゲハチョウ科は全般的に見れば出現は遅く、キアゲハ・ギフチョウ・アオスジアゲハなどでは、去年と比較して 10 日から 3 週間の遅れとなり、去年は期間内に観察されたクロアゲハ・カラスアゲハなども観察されなかった。一方でアゲハチョウは、去年と大差ない時期に初見記録が出ており、種ごとの差が顕著であった。

シジミチョウ科も出現は遅く、10 日から、種によってはひと月近く遅い出現となった。また、ツマグロヒョウモンは 5 年ぶりに期間内での記録無しという結果に終わっている。

【越冬組】

1 月上旬～中旬に寒さの底があったため、この期間の越冬組の活動は、1 月 26 日のテングチョウ確認のみで、全般に低調に終わったものであろう。例年 2 月から活動が見られることの多いキタキチョウも、初確認は 3 月に入ってからであった。

タテハチョウ科では、ヒメアカタテハが非常に早く確認されたものの（2 月 9 日周南市）、キタテハの活動は 2 月末、ルリタテハ・ヒオドシチョウなどは 3 月上旬、アカタテハは 3 月下旬になってようやく目撃されるようになった。昨年、3 月半ばには目撃があったイシガケチョウは、今年の初確認 4 月上旬となった。こうした越冬組の出現の遅れは、2 月の低温が原因であろう。

4. 初蛾とその他の昆虫（付表 3・4）

蛾に関しては、年々情報量が増加しており、ここに掲載したものだけで 78 種 118 件に上る。蛾の観察例が増えているにもかかわらず、筆者の知識不足から、これらの情報を正しく評価できない点をご容赦いただきたい。

これほど多くの蛾に関するデータが集まるようになったのはこの数年間のことであり、今年はとりわけファミリー、キッズスタッフによる情報が増加した。今後も蛾情報は充実してゆくものと思われ、いずれ専門家によって詳細に検討されるべきものと考えている。

蝶の群では気温変化の傾向を反映した出現時期を示

すものが多かったが、蛾の場合は、トビモンオオエダシャク・マイコトラガ・オオシモフリスズメ・オカモトトゲエダシャクのように、昨年とあまり変わらない時期に初見記録が出たものが見られた。特に目立つ種、大型の種でみると、オオシモフリスズメ・マイコトラガは、これまでで最も早い確認記録であった。こうした点からみると、早春に出現する蛾の一部には、気温変化の傾向による影響を受けにくい種があるのかもしれない。

その他の昆虫については、17 種 19 件と、情報は少なめであった。テントウムシに関する情報は特に少なく、2 月の寒さが、観察にも影響を及ぼしたのかと想像している。

5. 初蝶リレーの 10 年間

【初蝶 No. 1 に輝いた種】

ここで、初蝶リレー 10 年分の記録を振り返ってみたい。付表 5 には、初蝶リレーでこれまでに報告された全 21 種の蝶と、目につきやすい代表的な春の蛾 5 種について 10 年分の初見日を示している（付表 5）。

これを見ると、最も多くその年の初蝶となった種はモンキチョウの 6 回である。次いでモンシロチョウが 2 回、そしてアゲハチョウ・ツマグロヒョウモンがそれぞれ 1 回となっており、兵庫県を中心とした地域での栄えある初蝶 No. 1 は、モンキチョウとなった。

アゲハチョウとツマグロヒョウモンが初蝶となるのは稀有な例だと思われる。特に後者は南方系の蝶であり、いかに温暖化が進んでいるとは言え、2 月上旬の出現は驚くほど早い事例である。

【初蝶最高記録が多かった年】

21 種の蝶のうち、2021 年には 11 種が過去最も早く記録され、同様に 2020 年には 7 種が最も早く記録された（同日記録を含む 付表 6）。初蝶リレーで報告があった種全体のうち 86% の種が、この 2 年間の春で最も早い確認となったわけである。この 2 年間の 12 月～3 月の積算温度が 10 年間で 1 位と 2 位であったことから、この結果は当然と言えるのかもしれない（図 3）。

【初蝶出現時期を決める条件は何か】

しかし 12 月～3 月の積算温度を見ると、2020 年は明らかに 2021 年より高く、「頭ひとつ抜けている」状況であるにもかかわらず、観察された全 21 種の半数に近い初見日記録が、2021 年に生まれている。これは蝶の出現が、12 月～3 月の、積算温度のみに影響されているのではないことを示している。そこで、期間全体の積算温度ではなく、冬から春に向かう温度変化の傾向に注目してみた。

積算温度では過去 10 年間で最高だった 2019 年 12 月～2020 年 3 月は、12 月～1 月が非常に温暖で、2

月中旬に1度、寒さの底が訪れている。それに対して2020年12月～2021年3月は、1月の半ばに寒さの底があった後は、急激に暖かくなり、2月以降は大きな冷え込みがなく3月末に至っている(図4)。このことから見ると、寒さの底が訪れる時期と底の回数、そして底からの気温上昇の程度が、初蝶の出現時期に影響を与えている可能性は高いだろう。野外の複雑な温度変化の中で、蛹は「冷え込みの底」と「底からの気温上昇の程度」を感じているのではないだろうか。

【10年間の冬から春の気温傾向】

そこで10年間について、各月の日平均気温の積算温度を表にしてみた(表4)。これを見ると、冬から春への温度変化は、①1・2月が続いて寒い鍋底型、②全体に寒さの底が浅い浅底型、③1月が寒い前半冷え込み型、④2月が寒い後半冷え込み型、という4つの類型に分けられそうである(図5)。

これに、各年のモンキチョウ・モンシロチョウの初見日を重ねると、鍋底型の年には両種とも出現がやや遅く、浅底型の年にはともに早く、後半冷え込み型では、モンシロチョウが顕著に遅れる傾向がありそうに見える。ただしその中でも、2013年のように、モンシロチョウが非常に早く出現した例も認められる。

【成長零点温度・有効積算温度から見ると】

卵や幼虫、蛹などが成長するには、種ごとに最低限必要な温度がある。これより低い温度では成長できないという最低温度が成長零点温度である。そして成長零点温度を超えた温度が、どれだけ積み重なったら次の段階に進めるか(例えば蛹→成虫)を示すのが、有効積算温度である。例えば、ある種の蛹の成長零点温度が10℃、有効積算温度が100℃・日であったとすると、20℃の気温では有効温度は10℃である。これが10日間積み重なると、10℃×10日間で100℃・日となり、

蛹は羽化することができる。

表1に示したのは、モンシロチョウとモンキチョウの卵、幼虫、蛹の成長零点温度と、有効積算温度である。これを基に、神戸市の冬期の気温を見てみると、2022年の1月の日平均気温は5.7℃、2月は5.6℃である。瀬戸内海沿岸の平野部では、冬期でも日の平均気温が3.4℃を下回る日は少ないので、モンキチョウの蛹は厳寒日を除けば、冬の間も緩やかに成長を続けて、羽化に至ることができる。一方でモンシロチョウは、蛹の成長零点温度がモンキチョウよりかなり高いため、冬期に連続して成長することは難しい。従ってモンシロチョウの蛹は、冬期には成長が止まる日が多いと思われる。

多くの場合、初蝶がモンキチョウになるのは、蛹の成長温度が関わっている可能性があるだろう。また前項で、後半冷え込み型の気温変化の場合に、モンシロチョウの出現が顕著に遅れたのも、成長零点温度が関連しているのかもしれない。そこで筆者は、モンシロチョウとモンキチョウについて、1月以降の日最高気温から蛹の成長零点温度を引いた値を、初蝶確認日まで積算してみた(表2)^[3]。

成長零点に達しない日を除外して積算すると、モンシロチョウ蛹の場合は、すべての年で蛹の成長に必要な有効積算温度以下となり、最も低い2013年では有効積算温度のわずか14%しかなかった。モンキチョウ蛹の場合は、2021年を除くといずれも有効積算温度の1.5倍超となった。この数値を見ると、モンキチョウとモンシロチョウが同時に蛹化して冬を迎えた場合、モンキチョウが常に、圧倒的に早く羽化するはずである。しかし現実にはそうなってはいないことから、

①モンシロチョウがモンキチョウより早く蛹化して冬を迎え、最も寒冷的な時期の前に、蛹はある程度成長を済ませ、冬の終わりに訪れる温暖な日に最後の成長をして羽化しているのではないか

②これに対してモンキチョウは、モンシロチョウより遅くまで幼虫で過ごし、緩やかに成長しながら、最も

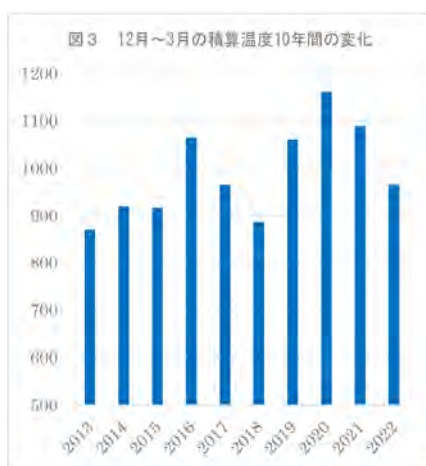


図3 12～3月の積算温度10年間の変化。



図4 2020年・2021年の気温変化の比較 (日平均気温の10日間移動平均)。

寒冷な2月を迎える前に、蛹化しているのではないかという推測ができるのではないだろうか。

しかしそれでもなお、2013年のように12月～3月の累積温度が10年間で最も低かった年に、モンシロチョウが過去最も早く確認されたことや2015年のアゲハチョウ、2020年のツマグロヒョウモンのような極めて早い時期の出現は、有効積算温度を単純に適用しただけでは説明できない。

これらのことは、初蝶の出現がたいいていの場合はその年の全体的気温傾向に合致してはいるものの、個別の出現記録には、よりミクロな環境条件（蛹直近の気温・日射条件・蛹化場所の蓄熱量等）が強く影響している場合があることを示唆していると筆者は考えている。しかしこうした点について、筆者は今のところ具体的な事実を解明するための有効なデータを持ち合わせていないので、会員諸氏のご教示をお願いしたいところである^[4]。

また10年間の、モンシロチョウ・モンキチョウの初確認日の最高気温を見ると、2013年を除けば、概ね13℃～15℃の間にあることがわかる（表3）。これまで筆者は『初蝶ニュース』で「最高気温が12℃を超えたら初蝶」と書いてきたが、今後はこれを少し上方修正しなくてはならないようだ。

6. 終わりに

2022年の初蝶リレーと、10年間の成果をまとめてみたが、データが積み重なるごとに、「たかが春の蝶の登場」だけをとりまいても、よくわからない点が多数あることを、改めて認識した。今後も、初蝶リレーに参加して下さる皆さんと、春のイベントを楽しみながら、データを積み重ねてゆきたいと願っている。

注)

1 情報掲載については最大限の注意を払いましたが、万一、漏れがある場合は、すべて筆者の責任です。お気づきの方は、

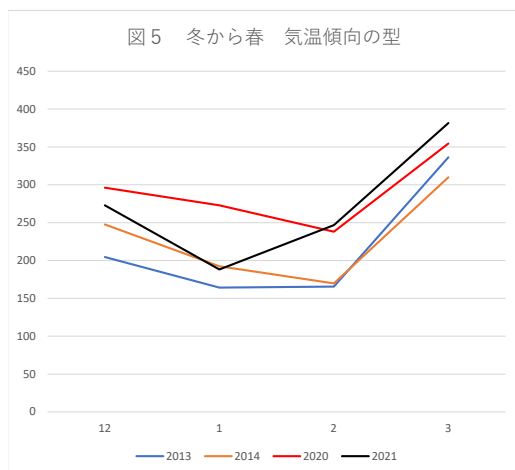


図5 冬から春への気温変化の型。

筆者にお知らせいただければ幸いです。次号にて、追加訂正をさせていただきます。

2 以下、本稿で用いた気温データは、すべて神戸地方気象台による、神戸市のものである。

3 一日の温度変化が大きい野外では、有効積算温度はこのように単純な計算で導くことはできないが、ここでは考え方の一助とするためにおこなってみた。

4 たとえば、同日に蛹化したものを、蓄熱量の大きな素材上と、小さな素材上に置いて、羽化日に差が出るかどうかといった、実験なども検証の一助となるだろう。

引用文献

- 桐谷圭治, 2012. 日本産昆虫、ダニの発育零点と有効積算温度定数 (2). 農業環境技術研究所報告 31
安藤秀俊・小林瑞樹・永盛俊行, 2018. モンキチョウの教材化に向けての越冬に関する基礎的研究. 北海道大学紀要（教育科学編 68（2））

表1 モンシロチョウとモンキチョウの発育零点温度・有効積算温度。

		卵	幼虫	蛹
モンキチョウ	発育零点温度	9.271	11.979	3.397
	有効積算温度	56.905	184.368	223.042
モンシロチョウ	発育零点温度	10	8.2	11.2
	有効積算温度		204	99

表2 各年1月～3月の有効積算温度。

	2013	2014	2015	2016	2017
モンキチョウ	378.3	393.1	492.2	476.9	401.5
モンシロチョウ	14.1	41.4	21.9	51.6	47.5
	2018	2019	2020	2021	2022
モンキチョウ	331.6	392.5	431.7	191.8	315.8
モンシロチョウ	46.2	46.4	63.3	70.9	20.4

*単位は℃・日

表3 初見日の最高気温。

	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	平均
モンキチョウ	15.4	12.3	18.1	16.7	14.3	15.2	15.6	13.9	14.2	13.6	14.9
モンシロチョウ	10.2	16.2	13.1	14.3	11.6	18.5	13.9	13.9	19.8	14.0	14.6

表4 各月の日平均気温による積算温度。

	12月	1月	2月	3月
2013	204.7	164.2	165.5	336.3
2014	247.6	192.5	169.7	309.9
2015	212.6	196	191	316.8
2016	323.5	215.8	221.2	304.7
2017	306.3	195	179.8	284.4
2018	223	161.3	148.7	354.2
2019	296.4	207.4	223.8	333.6
2020	296.1	272.9	238.1	354.4
2021	272.9	188.2	246.7	381.5
2022	276.6	176.9	156.6	355.9

表5 各月の日平均気温による積算温度からみた気温変化の4つの類型。

型	気温の動き	年				モンキチョウ 初見日	モンシロチョウ 初見日
鍋底型	1～2月が続いて寒い	2013	2015	2018	2022	3/6, 3/16, 3/3, 2/26	2/14, 3/8, 3/5, 3/10
浅底型	全体に寒さの底が浅い	2020				2/21,	2/21,
前半冷え込み型	1月が寒い	2016	2019	2021		3/4, 2/25, 2/2	3/3, 3/5, 2/21
後半冷え込み型	2月が寒い	2014	2017	2022		3/4, 3/2	3/12, 3/12

図5に示した年

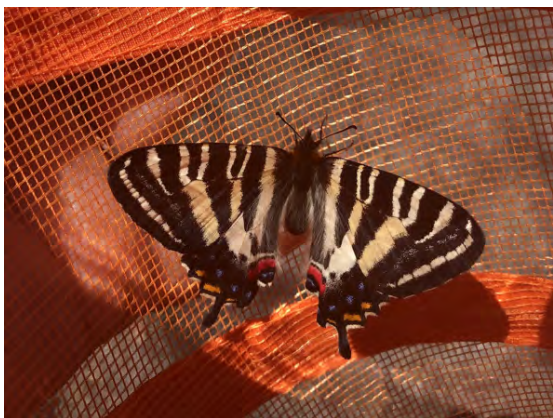


図6 ギフチョウ (吉田 現さん).

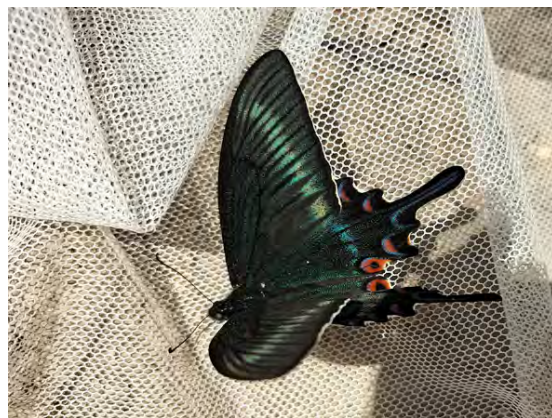


図7 ミヤマカラスアゲハ (谷野 温さん).



図8 ツマキチョウ (島岡 優さん).



図9 ヤマトシジミ (林 太郎さん).

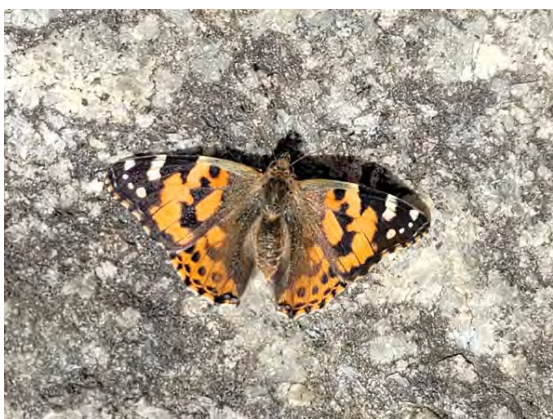


図10 ヒメアカタテハ (塩田紗希さん).



図11 イシガケチョウ (石川元貴さん・三村剣義さん).



図12 スジボソヤマキチョウ (石川葉奈さん).



図13 キタテハ (すねやゆうたさん).



図 14 ツマグロキチョウ (東 輝弥さん).



図 15 ナシケンモン (仲山 颯祐さん).



図 16 スギタニキリガ (高橋弘樹さん).

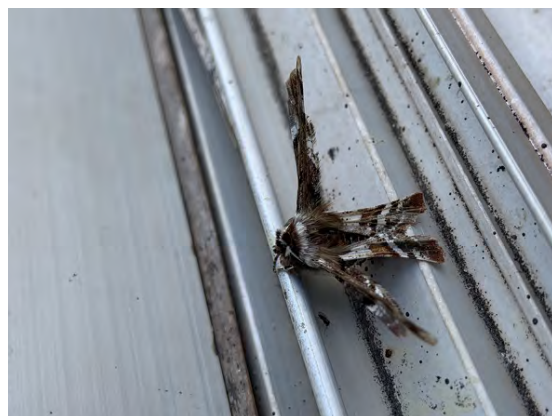


図 17 オカモトゲエダシャク (井嶋 航さん).



図 18 キハラゴマダラヒトリ (三村剣義さん).



図 19 ピロードツリアブ (石川大馳さん).



図 20 ハンミョウ (北中悠真さん).



図 21 ハンミョウ (袴田理月さん).

付表 1 初蝶組の記録.

種名	確認日	確認数	確認場所	確認者	備考
モンシロチョウ	3月10日	1 ex.	高砂市	三村剣義	
	3月11日	1 ex.	高砂市	三村剣義	
	3月11日	1 ex.	三田市	島岡 優	
	3月12日	1 ex.	洲本市	山本典子	
	3月12日	1 ♂	洲本市	山本明生	
	3月12日	3 exs.	神戸市西区	仙石かおり	
	3月12日	1 ex.	たつの市	八木裕樹	
	3月12日	1 ♂	神戸市北区	谷野 温	
	3月12日	3 exs.	榑原市	林 太郎	
	3月14日	6 exs.	榑原市	池田 大	
	3月16日	10 + exs.	明日香村	池田 大	
	3月16日	1 ex.	たつの市	前田啓治	
	3月17日	多数	高砂市	三村剣義	
	3月17日	1 ex.	神戸市兵庫区	八田康弘	
	3月21日	3 ♂	三田市	谷野 温	
	3月21日	1 卵ほか成虫多数	たつの市	八木裕樹	
	3月27日	2 ♂	三田市	谷野 温	
	3月30日	2 exs.	神戸市北区	八田康弘	
	3月30日	+	高砂市	島崎正美	
	3月30日	3 ♂	榑原市	宮武頼夫	
	3月30日	1 ex.	神戸市長田区	吉田浩史	
	3月30日	2 exs.	神戸市北区	谷野 温	
	4月2日	2 ♂	三田市	谷野 温	
	4月10日	18exs.	榑原市	宮武頼夫	
モンキチョウ	2月26日	1 ♀	洲本市	山本明生	
	2月27日	2 ♂	淡路市	井嶋 航	
	2月28日	1 ♂	明日香村	林 太郎	
	3月10日	1 ex.	淡路市	井嶋幸司	
	3月11日	1 ex.	高砂市	三村剣義	
	3月17日	1 ex.	姫路市	清流祐昭	
	3月21日	1 ex.	枚方市	植田義輔	
	3月25日	+	高砂市	島崎正美	
	3月27日	1 ♂	三田市	谷野 温	
	3月27日	2 ♂	三田市	谷野 温	別地点
	3月27日	3 exs.	三田市	島岡 優	
	3月30日	多数	高砂市	島崎正美	
	4月2日	1 ♂	三田市	谷野 温	
	4月10日	32exs.	榑原市	宮武頼夫	
スジグロシロチョウ	3月15日	1 ex.	五條市	林 太郎	
ツマキチョウ	4月5日	1 ♂	三田市	島岡 優	
アゲハチョウ	3月8日	1 ex.	茨城県結城市	茂見節子	
	3月14日	1 ex.	明日香村	池田 大	
	3月21日	1 ♂ 1 ♀	榑原市	林 太郎	配偶行動
	3月25日	+	高砂市	島崎正美	
	3月27日	1 ex.	三田市	島岡 優	
	3月30日	1 ex.	三田市	島岡 優	
	4月4日	1 ♂	三田市	谷野 温	
	4月10日	4 ♂ 1 ♀	三田市	谷野 温・島岡 優	
	4月10日	5 exs.	榑原市	宮武頼夫	
	4月10日	1 ex.	淡路市	井嶋幸司	
キアゲハ	3月27日	1 ex.	交野市	すねやゆうた	
	3月30日	1 ex.	三田市	島岡 優	
	4月4日	1 ♂	三田市	谷野 温	
	4月10日	4 ♂	三田市	谷野 温・島岡 優	
ミヤマカラスアゲハ	4月10日	1 ♂	三田市	谷野 温・島岡 優	島岡優 採集
	4月10日	2 exs.	榑原市	宮武頼夫	
アオスジアゲハ	4月8日	1 ex.	高砂市	三村剣義	
ギフチョウ	4月9日	6 exs.	三田市	吉田 現	
	4月10日	5 ♂ 1 ♀	三田市	谷野 温・島岡 優	
ジャコウアゲハ	4月10日	2 exs.	榑原市	宮武頼夫	
ヤマトシジミ	3月29日	3 exs.	高砂市	三村剣義	
	3月30日	1 ex.	榑原市	林 太郎	
	3月30日	+	高砂市	島崎正美	
	4月10日	5 exs.	榑原市	宮武頼夫	
ベニシジミ	3月10日	1 ex.	淡路市	井嶋幸司	
	3月27日	3 exs.+	三田市	谷野 温	
	3月27日	1 ex.	交野市	すねやゆうた	
	3月24日	多数	三田市	島岡 優	
	3月29日	1 ex.	岸和田市	林 太郎	
	3月30日	+	高砂市	島崎正美	
	4月2日	1 ♀	三田市	谷野 温	
	4月4日	2 ♂	三田市	谷野 温	
	4月9日	1 ex.	たつの市	前田啓治	
	4月10日	12exs.	榑原市	宮武頼夫	

付表 1 続き.

種名	確認日	確認数	確認場所	確認者	備考
ルリシジミ	3月12日	1 ex.	三田市	島岡 優	
	3月12日	1 ex.	神戸市北区	谷野 温	
	3月16日	1 ex.	榑原市	林 太郎	
	3月17日	2 exs.	枚方市	植田義輔	
	3月21日	1 ♂	枚方市	植田義輔	
	3月25日	+	高砂市	島崎正美	
	3月27日	4 ♂+	三田市	谷野 温	
	3月27日	8 ♂	穴粟市	高橋弘樹	
	3月27日	+	加古川市	島崎正美	
	4月2日	1 ♂	三田市	谷野 温	
	4月4日	3 ♂	三田市	谷野 温	
	4月10日	3 ♂	三田市	谷野 温・島岡 優	
	4月10日	1 ex.	榑原市	宮武頼夫	
	4月10日	1 ♂	枚方市	植田義輔	
ツバメシジミ	3月21日	1 ♂	枚方市	植田義輔	
	3月30日	1 ex.	明日香村	林 太郎	
	3月30日	5 exs.	三田市	島岡 優	
	4月10日	3 exs.	榑原市	宮武頼夫	
コツバメ	3月21日	1 ex.	三田市	島岡 優	
	3月27日	1 ♂	三田市	谷野 温	
	3月30日	2 exs.	明日香村	林 太郎	
	4月4日	1 ex.	三田市	谷野 温	
コムシジ	4月10日	1 ex.	榑原市	宮武頼夫	
ヒメウラナミジャノメ	4月10日	2 exs.	榑原市	宮武頼夫	
ミヤマセセリ	3月15日	1 ex.	高砂市	東 輝弥	
	3月27日	多数	三田市	島岡 優	山頂にも飛来
	3月30日	3~4 exs.	宝塚市	齋藤泰彦	
	4月4日	3 ♂ 1 ex.	三田市	谷野 温	
	4月10日	1 ♂ 1 ♀	三田市	谷野 温・島岡 優	
屋外飼育羽化個体					
種名	確認日	確認数	確認場所	確認者	備考
ジャコウアゲハ	3月12日	1 ♂	高砂市	島崎正美	
キアゲハ	3月16日	1 ♂	高砂市	島崎正美	
ギフチョウ	3月21日	+	高砂市	島崎正美	

付表2 続き.

付表2 越冬組の記録.

越冬組 早期活動					
種名	確認日	確認数	確認場所	確認者	備考
テングチョウ	1月26日	1ex	西宮市	八田康弘	
越冬組					
種名	確認日	確認数	確認場所	確認者	備考
キタキチョウ	3月5日	1♂	たつの市	八木裕樹	
	3月10日	1♂	橿原市	宮武頼夫	
	3月10日	1♂	三田市	島岡 優	
	3月11日	1♂	橿原市	宮武頼夫	
	3月11日	1♂	高砂市	三村剣義	
	3月11日	1ex.	明石市	久保弘幸	
	3月11日	1♀	朝来市	近藤伸一	
	3月12日	1♀?	三田市	谷野 温	
	3月12日	1♂?	神戸市北区	谷野 温	
	3月12日	1ex.	三田市	吉田 現	
	3月13日	2exs.	三木市	堀越優希	
	3月14日	1ex.	高砂市	東 輝弥	
	3月14日	+	たつの市	茂見節子	
	3月15日	2exs.	神戸市北区	八田康弘	
	3月16日	1ex.	神戸市灘区	吉田浩史	
	3月16日	多数	明日香村	池田 大	
	3月17日	2exs.	枚方市	植田義輔	
	3月17日	1ex.	高砂市	島崎能子	
	3月25日	1ex.	たつの市	前田啓治	
	3月25日	+	高砂市	島崎正美	
	3月27日	2exs.	三田市	谷野 温	
	3月27日	2exs.	三田市	吉田 現	
	3月27日	1ex.	交野市	すねやゆうた	
	3月27日	2exs.	三木市	堀越優希	
	3月27日	+	加古川市	島崎正美	
	3月29日	4exs.	宝塚市	八田康弘	
	3月30日	10exs.	神戸市北区	八田康弘	
	3月30日	1ex.	神戸市須磨区	吉田浩史	
キタキチョウ	3月30日	1ex.	神戸市長田区	吉田浩史	
	4月4日	3exs.	三田市	谷野 温	
	4月10日	1♂1♀	三田市	谷野 温・島岡 優	
	4月10日	42exs.	橿原市	宮武頼夫	
ツマグロキチョウ	3月6日	1ex.	高砂市	東 輝弥	
	3月30日	1ex.	西宮市	匿名	
スジボソヤマキチョウ	3月27日	1♀	豊岡市	石川菜奈	
アカタテハ	3月25日	2exs.	三田市	島岡 優	
	3月27日	1ex.	三田市	吉田 現	
	3月27日	4exs.	宍粟市	高橋弘樹	
	4月2日	1ex.	佐用町	石川大聡	
	4月2日	1ex.	三田市	谷野 温	
	4月4日	2exs.	三田市	谷野 温	
ヒメアカタテハ キタテハ	4月10日	4exs.	橿原市	宮武頼夫	
	2月9日	1ex.	山口県周南市	塩田紗希	
	2月27日	2exs.	淡路市	井嶋幸司	
	2月28日	1ex.	神戸市西区	久保嘉靖	
	2月28日	1ex.	明石市	久保弘幸	
	3月5日	1ex.	三田市	島岡 優	
	3月5日	1ex.	高砂市	三村剣義	
	3月10日	1ex.	橿原市	宮武頼夫	
	3月10日	1ex.	高砂市	三村剣義	
	3月10日	2exs.	三田市	谷野 温	
	3月11日	1ex.	神戸市北区	中川貴美子	
	3月12日	1ex.	加古川市	垣内咲那	
	3月12日	4exs.	三田市	谷野 温	
	3月12日	3exs.	神戸市北区	谷野 温	
	3月13日	1ex.	三木市	堀越優希	
	3月13日	2exs.	三木市	堀越優希	
	3月13日	1ex.	神戸市	すねやゆうた	
	3月13日	2exs.	上郡町	東 輝弥	
	3月13日	1ex.	上郡町	東 輝弥	2exs. とは別地点
	3月13日	1ex.	佐用町	八田康弘	
	3月14日	1ex.	高砂市	島崎正美	
	3月15日	1ex.	高砂市	東 輝弥	
	3月15日	1ex.	神戸市北区	八田康弘	
	3月16日	1ex.	明日香村	池田 大	
	3月21日	2exs.	三田市	谷野 温	
	3月27日	1ex.	豊岡市	石川大聡	
	3月27日	1ex.	交野市	すねやゆうた	
	3月30日	1ex.	神戸市北区	八田康弘	
	3月30日	2exs.	神戸市長田区	吉田浩史	

種名	確認日	確認数	確認場所	確認者	備考
ルリタテハ	3月11日	1ex.	京田辺市	阪本宏子	
	3月11日	1ex.	朝来市	近藤伸一	
	3月12日	2exs.	たつの市	八木裕樹	
	3月12日	1♂?	神戸市北区	谷野 温	
	3月13日	1ex.	三田市	吉田 現	
	3月13日	1ex.	上郡町	東 輝弥	
	3月13日	1ex.	上郡町	東 輝弥	別地点
	3月13日	1ex.	三田市	谷野 温	
	3月14日	1ex.	明日香村	池田 大	
	3月16日	1ex.	神戸市中央区	鶴田 琳太郎	
	3月16日	2exs.	三田市	島岡 優	
	3月17日	1ex.	高砂市	三村剣義	
	3月27日	+	加古川市	島崎正美	
	3月29日	1ex.	高砂市	松口郁人	
	4月4日	2exs.	三田市	谷野 温	
ヒオドシチョウ	3月5日	1ex.	三田市	島岡 優	
	3月10日	1ex.	橿原市	宮武頼夫	
	3月11日	1ex.	神戸市北区	中川貴美子	
	3月27日	5exs. +	三田市	谷野 温	
	3月29日	1ex.	宝塚市	八田康弘	
	4月4日	3exs.	三田市	谷野 温	
	4月10日	3exs.	三田市	谷野 温・島岡 優	
	4月10日	2exs.	橿原市	宮武頼夫	
イシガケチョウ	4月10日	1ex.	宍粟市	石川元貴・三村剣義	
	4月10日	2exs.	橿原市	宮武頼夫	
クロコノマチ	3月29日	1ex.	高砂市	三村寛子	
テングチョウ	2月12日	1ex.	佐用町	三村剣義	
	2月12日	1ex.	相生市	高橋弘樹	
	2月15日	1ex.	神戸市東灘区	石川大聡	
	2月26日	1ex.	三田市	島岡 優	
テングチョウ	2月28日	1♂1♀	上郡町	東 輝弥	♂♀は同町内別地点
	3月11日	2exs.	橿原市	宮武頼夫	
	3月11日	1ex.	神戸市東灘区	吉田浩史	
	3月11日	2exs.	朝来市	近藤伸一	
	3月12日	1ex.	神戸市西区	仙石かおり	
	3月13日	1ex.	三田市	吉田 現	
	3月13日	6exs.	上郡町	東 輝弥	
	3月13日	多数	佐用町	久保弘幸	
	3月14日	+	たつの市	茂見節子	
	3月14日	3exs.	高砂市	島崎正美	
	3月15日	1ex.	高砂市	東 輝弥	
	3月15日	5exs.	三田市	八田康弘	
	3月16日	1ex.	神戸市灘区	吉田浩史	
	3月16日	1ex.	神戸市灘区	吉田浩史	別地点
	3月17日	1ex.	枚方市	植田義輔	
	3月25日	+	高砂市	島崎正美	
	3月27日	4exs. +	三田市	谷野 温	
	3月27日	1ex.	三田市	吉田 現	
	3月27日	6exs.	三木市	堀越優希	
	3月27日	+	加古川市	島崎正美	
ムラサキシジミ	3月27日	多数	佐用町	東 輝弥	
	3月29日	3exs.	宝塚市	八田康弘	
	3月30日	2exs.	神戸市北区	八田康弘	
	4月4日	3exs.	三田市	谷野 温	
	4月10日	5exs.	三田市	谷野 温・島岡 優	
	4月10日	11exs.	橿原市	宮武頼夫	
	3月13日	1ex.	上郡町	東 輝弥	
	3月16日	1ex.	高砂市	三村寛子	
	3月30日	1ex.	三田市	島岡 優	
	4月10日	1♀	三田市	谷野 温・島岡 優	島岡優 採集
ウラギンシジミ	4月10日	3exs.	橿原市	宮武頼夫	
	3月5日	1ex.	明石市	中谷	
	3月16日	1ex.	高砂市	三村寛子	
	3月16日	1ex.	明日香村	池田 大	

付表 3 蛾の記録.

種名	確認日	確認数	確認場所	確認者
ウスバフユシャク	2月8日	1♂	明石市	山本明生
	3月3日	1♂	神戸市北区	仲山颯祐
ホソウスバフユシャク	2月19日	1♂	相生市	高橋弘樹
	3月3日	1♂	神戸市北区	仲山颯祐
フユシャク SP.	2月26日	1♀	三田市	島岡 優
シモフリトゲエダシャク	2月9日	1♂	淡路市	井嶋幸司
	2月10日	1♂	神戸市北区	仲山颯祐
ヒロバフユエダシャク	2月11日	1♂	淡路市	井嶋幸司
チャオピフユエダシャク	2月12日	3♂	相生市	高橋弘樹
クロモンキリバエダシャク	2月15日	1♂	相生市	高橋弘樹
トビモンオオエダシャク	2月16日	1 ex.	宝塚市	島岡良治
	2月26日	1 ex.	淡路市	井嶋幸司
	2月26日	1♂	上郡町	高橋弘樹・三村剣義
	3月10日	1 ex.	淡路市	井嶋幸司
シロフフユエダシャク	2月25日	1♂	神戸市北区	仲山颯祐
	2月26日	1♂	三田市	島岡 優
	3月6日	1♂	三木市	堀越優希
オカモトトゲエダシャク	2月26日	1♂	上郡町	高橋弘樹・三村剣義
	3月1日	1♂	淡路市	井嶋幸司
	3月10日	1 ex.	淡路市	井嶋 航
ホソバトガリエダシャク	3月4日	1 ex.	赤穂市	高橋弘樹
チャオピフユエダシャク?	2月28日	1♀	神戸市西区	久保嘉晴
チャオピフユエダシャク	3月4日	1♂ 1 ex.	淡路市	井嶋幸司
シロトゲエダシャク	3月3日	1 ex.	相生市	高橋弘樹
ハスオビエダシャク	3月14日	1♂	相生市	高橋弘樹
	4月3日	1 ex.	西宮市	ずねやけいと
アトジロエダシャク	3月8日	1♂	相生市	高橋弘樹
チャオピトビモンエダシャク	3月11日	6♂	上郡町	高橋弘樹
	3月11日	1♂	相生市	高橋弘樹
シロテンエダシャク	3月11日	2♂	上郡町	高橋弘樹
	3月11日	1 ex.	相生市	高橋弘樹
ヒロバトガリエダシャク	3月12日	2♂	上郡町	高橋弘樹
ヒゲマダラエダシャク	3月14日	1 ex.	相生市	高橋弘樹
ウスバキエダシャク	3月21日	3 exs.	たつの市	高橋弘樹
	3月21日	2 exs.	相生市	高橋弘樹
ウスバシロエダシャク	3月24日	1 ex.	上郡町	高橋弘樹
	3月24日	1 ex.	相生市	高橋弘樹
ミスジツマキリエダシャク	3月16日	1 ex.	相生市	高橋弘樹
ニッコウエダシャク	3月18日	1♂	相生市	高橋弘樹
フトタオビエダシャク	3月18日	1 ex.	相生市	高橋弘樹
ホソバトガリエダシャク?	3月25日	1 ex.	神戸市北区	仲山颯祐
ヒロバトガリエダシャク?	3月25日	1 ex.	神戸市北区	仲山颯祐
フチグロトゲエダシャク	3月27日	多数	豊岡市	三村ファミリー 石川ファミリー 高橋弘樹
フタホシシロエダシャク	3月31日	2 exs.	相生市	高橋弘樹
アカモンナミシャク	3月1日	1 ex.	相生市	高橋弘樹
	3月11日	1 ex.	三田市	吉田 現
ギフウスキナミシャク	3月5日	1 ex.	相生市	高橋弘樹・三村剣義
ミカツキナミシャク	3月11日	1 ex.	相生市	高橋弘樹
ウスベニスジナミシャク	3月12日	1 ex.	上郡町	高橋弘樹
ナカモンキナミシャク	3月21日	3 exs.	たつの市	高橋弘樹
	3月21日	2 exs.	相生市	高橋弘樹
オオハガタナミシャク	3月26日	1 ex.	相生市	高橋弘樹
モンキナミシャク	3月18日	1 ex.	相生市	高橋弘樹
フトジマナミシャク	3月24日	1 ex.	神戸市北区	仲山颯祐
シタコバネナミシャク	3月24日	1 ex.	上郡町	高橋弘樹
ナカオビカバナミシャク?	3月5日	1 ex.	神戸市灘区	稲垣まさ
シャクガ SP.	3月13日	1 ex.	姫路市	岡本光正
ホソバキリガ	2月23日	1♀	相生市	高橋弘樹
スギタニモンキリガ	2月23日	1 ex.	相生市	高橋弘樹
スモモキリガ	3月4日	1 ex.	赤穂市	高橋弘樹
ウスミモンキリガ	3月4日	1 ex.	赤穂市	高橋弘樹
クロテンキリガ	3月5日	1 ex.	相生市	高橋弘樹・三村剣義
シロヘリキリガ	3月5日	1 ex.	相生市	高橋弘樹・三村剣義
	3月14日	2 exs.	相生市	高橋弘樹
	3月15日	2 exs.	神戸市北区	仲山颯祐
カバキリガ	3月11日	1 ex.	上郡町	高橋弘樹
マツキリガ	3月24日	1 ex.	上郡町	高橋弘樹
チャイロキリガ	3月11日	1 ex.	上郡町	高橋弘樹
	3月25日	1 ex.	神戸市北区	仲山颯祐
スギタニキリガ	3月11日	1♂・1 ex.	上郡町	高橋弘樹
	3月27日	1 ex.	加西市	石川大馳
クロミミキリガ	3月17日	1 ex.	神戸市北区	仲山颯祐
	3月25日	2 exs.	神戸市北区	仲山颯祐
カシワキリガ	3月24日	1 ex.	神戸市北区	仲山颯祐
アカバキリガ	3月20日	1 ex.	たつの市	高橋弘樹
ブナキリガ	3月20日	1 ex.	たつの市	高橋弘樹

付表 3 続き.

種名	確認日	確認数	確認場所	確認者
カシワキボシキリガ	3月20日	2 exs.	たつの市	高橋弘樹
ケンモンキリガ	3月30日	1♀	相生市	高橋弘樹
カギモンキリガ	4月1日	1 ex.	相生市	高橋弘樹
ナシケンモン	3月14日	1 ex.	神戸市北区	仲山颯祐
ブライヤキリバ	3月12日	多数	上郡町	高橋弘樹
アカエグリバ	3月12日	2 ex.	上郡町	高橋弘樹
トビモンアツバ	3月12日	1 ex.	上郡町	高橋弘樹
ナニワクビグロクチバ	3月12日	1 ex.	上郡町	高橋弘樹
アケビコノハ	2月13日	1 ex.	たつの市	茂見節子
フクラスズメ	3月7日	1 ex.	たつの市	前田啓治
	3月11日	1 ex.	奈良市	坂本貴海
	3月15日	1 ex.	高砂市	東 輝弥
マイコトラガ	3月10日	1 ex.	淡路市	井嶋幸司
	3月20日	3 exs.	加西市	石川大馳
	3月22日	1 ex.	奈良市	坂本貴海
	3月24日	多数	姫路市	三村剣義
	3月25日	2 exs.	上郡町	高橋弘樹
	3月26日	2 exs.	加西市	石川大馳
	3月27日	1 ex.	淡路市	八木 剛
マユミトガリバ	3月15日	1 ex.	相生市	高橋弘樹
ホシボシトガリバ	3月18日	1 ex.	相生市	高橋弘樹
	3月25日	1 ex.	神戸市北区	仲山颯祐
ウスベニトガリバ	3月24日	1 ex.	上郡町	高橋弘樹
サカハチトガリバ	3月31日	1 ex.	相生市	高橋弘樹
ウスギヌカギバ	3月30日	1♂	相生市	高橋弘樹
イボタガ	3月24日	1♂	姫路市	三村剣義
	3月24日	1 ex.	串本町	坂本貴海
	3月24日	1♂	上郡町	高橋弘樹
エソゾツメ	3月24日	1♂	上郡町	高橋弘樹
	3月26日	1 ex.	相生市	石川大馳
オオシモフリスズメ	3月30日	2 exs.	姫路市	三村剣義
	3月31日	1♂	相生市	高橋弘樹
ハウジャク	3月15日	1 ex.	高砂市	東 輝弥
クワゴマダラヒトリ	3月28日	1 幼虫	西宮市	石川大馳
キハラゴマダラヒトリ	4月3日	1 ex.	姫路市	三村剣義
ハイロフユハマキ	2月9日	1 ex.	相生市	高橋弘樹
	3月15日	1 ex.	神戸市北区	仲山颯祐
マエアカスカシノメイガ	2月10日	1 ex.	高砂市	三村剣義
	2月16日	1 ex.	三田市	島岡良治
	3月12日	1 ex.	神戸市北区	仲山颯祐
	3月14日	3 exs.	神戸市北区	仲山颯祐
	3月15日	1 ex.	相生市	高橋弘樹

付表 4 その他の昆虫.

種名	確認日	確認数	確認場所	確認者	備考
ハチの仲間					
キムネクマバチ	3月27日	1♂	西宮市	石川元貴	
ハエ・アブの仲間					
ピロウドツリアブ	3月27日	1 ex.	兵庫県	高橋弘樹	
	3月27日	2 exs.	西宮市	石川大馳	
ハマダラハルカ	3月30日	1 ex.	三田市	八木 剛	
トンボの仲間					
オツネントンボ	3月3日		高砂市	東 輝弥	
ホソミオツネントンボ	3月10日	1 ex.	淡路市	井嶋幸司	
ホソミイトンボ	3月27日	7 exs.	佐用町	東 輝弥	1♂採集
カゲロウ・トビケラの仲間					
ヒゲナガカワトビケラ	3月28日	1 ex.	たつの市	高橋弘樹	
バッタの仲間					
クビキリギス	2月15日	1♂	明石市	井嶋幸司	
コバネコロギス	2月25日	1 ex.	淡路市	井嶋幸司	
ケラ	3月30日	1 ex.	姫路市	三村剣義	
コオロギの一種	3月27日	1 ex.	三木市	堀越優希	
甲虫の仲間					
ナナホシテントウ	2月12日	1 ex.	洲本市	山本明生	
ハンミョウ	3月12日	1 ex.	姫路市	北中悠真	
	3月25日	1 ex.	市川町	袴田理月	
ゴミムシダマシの一種	3月13日	1 ex.	姫路市	岡本光正	
ヒメツチハンミョウ	3月16日	1♀	相生市	高橋弘樹	
モンオナシカワゲラの一種	3月18日	1 ex.	相生市	高橋弘樹	
クビアカジョウカイ	3月25日	1 ex.	上郡町	高橋弘樹	

付表 5 10年間の初蝶記録.

種 名	2013 年	2014 年	2015 年	2016 年	2017 年	2018 年	2019 年	2020 年	2021 年	2022 年
モンシロチョウ	2/14 姫路市	3/12 神戸市	3/8 姫路市	3/3 姫路市	3/12 姫路市・ 仙台市・播磨町・ 上牧町・明日香村	3/5 姫路市	3/5 橿原市	2/21 播磨町	2/21 橿原市・ 淡路市	3/10 高砂市
モンキチョウ	3/6 播磨町	3/4 大阪市	3/16 たつの市	3/4 姫路市	3/2 播磨町	3/3 たつの市	2/25 播磨町	2/21 播磨町	2/2 宝塚市	2/26 洲本市
スジグロシロチョウ			3/28 千葉市	3/21 村田町 3/30 橿原市		3/14 仙台市	3/27 吉野川市 宝塚市	3/26 御所市	3/10 橿原市	3/15 五條市
ツマキチョウ	4/5 橿原市	3/29 神戸市	3/30 橿原市	3/22 橿原市	4/10 大阪市	3/26 橿原市	4/7 三田市	3/18 丹波篠山市	3/20 姫路市	4/5 三田市
アゲハチョウ	3/7 大阪市	3/11 八尾市	2/24 姫路市	3/12 明石市	3/30 小野市	3/14 小野市	3/9 今治市 3/20 三田市	3/19 たつの市	2/22 橿原市* 3/10 姫路市	3/8 茨城県結城 市
キアゲハ	4/5 橿原市		3/27 橿原市			3/26 姫路市	3/26 松江市 3/27 三田市	3/24 太子町	3/17 橿原市	3/27 淡路市
クロアゲハ					3/11 神戸市*				3/30 たつの市	
ジャコウアゲハ			4/5 橿原市	4/3 橿原市					3/23 橿原市	
カラスアゲハ									4/3 加古川市	
ミヤマカラスアゲハ										4/10 三田市 ・橿原市
アオスジアゲハ	3/23 芦屋市						3/27 大阪市		4/2 橿原市	4/8 高砂市
ギフチョウ	3/31 宝塚市	4/3 小野市	3/31 倉吉市			3/28 宝塚市	4/4 御所市 ・倉吉市	3/25 宝塚市	3/29 三田市	4/9 三田市
ベニシジミ	3/9 宍粟市	3/23 神戸市	3/22 神戸市	3/5 神戸市	3/20 神戸市	3/13 新温泉町	2/26 播磨町	3/7 木津川町	2/14 淡路市	3/10 淡路市
ヤマトシジミ	4/4 播磨町	4/5 京田辺市	3/31 播磨町	3/5 神戸市	3/29 神戸市	3/18 枚方市	3/15 播磨町	3/13 橿原市	2/13 高砂市	3/29 高砂市
ルリシジミ	3/13 明石市		3/7 播磨町	3/7 姫路市	3/19 橿原市	3/12 高砂市	3/20 三田市	2/11 加古川市	3/1 神戸市	3/12 三田市 ・神戸市
スギタニルリシジミ	4/5 養父市									
ツバメシジミ	3/28 佐用町	4/9 京田辺市	3/17 明石市	4/3 橿原市		3/26 内子町	4/4 三田市	3/7 三田市	3/14 高砂市	3/21 枚方市
コツバメ		4/3 小野市	3/22 三田市	3/30 橿原市 ・明日香村	3/29 明日香村	3/13 橿原市	3/25 三木市	3/12 明日香村	2/28 三田市	3/21 三田市
トラフシジミ			3/31 橿原市			3/29 神戸市			4/1 三田市	
ツマグロヒョウモン						4/4 橿原市	4/16 橿原市	2/4 京田辺市	4/2 橿原市	
コミスジ						4/11 橿原市				4/10 橿原市
ヒメウラナミジャノメ						4/7 橿原市		3/13 三田市	3/29 橿原市	4/10 橿原市
ミヤマセセリ	3/31 川西市			3/31 仙台市	3/30 小野市	3/25 橿原市	3/25 三木市	3/20 三田市	3/20 三田市	3/15 高砂市
トビモンオオエダシャク	3/4 明石市	3/1 明石市	3/28 加古川市	2/22 宝塚市		3/18 奈良市	2/27 明石市	2/27 神戸市	2/21 相生市	2/16 宝塚市
オオシモフリスズメ	4/5 姫路市		3/28 姫路市					3/26 姫路市	3/25 姫路市	3/30 姫路市
イボタガ	4/5 加古川市		3/20 加古川市					3/24 千葉市	3/12 相生市	3/24 姫路市
エゾヨツメ	4/5 加古川市							3/26 加古川市	3/11 相生市	3/24 上郡町
マイコトラガ	4/5 加古川市		3/20 加古川市	3/14 神戸市	3/26 佐用町		3/25 明石市			3/10 淡路市
オオミズアオ	4/19 四條畷市									
オカモトゲエダシャク			3/7 箕面市						2/21 相生市	2/26 上郡町

* 屋外飼育個体の羽化

その年の初蝶

付表 6 種ごとの最も早い出現記録.

種 名	過去最も早かった記録	種 名	過去最も早かった記録
モンシロチョウ	2013/2/14 姫路市	ルリシジミ	2020/2/11 加古川市
モンキチョウ	2021/2/2 宝塚市	ツバメシジミ	2020/3/7 三田市
スジグロシロチョウ	2021/3/10 橿原市	コツバメ	2021/2/28 三田市
ツマキチョウ	2020/3/18 丹波篠山市	トラフシジミ	2018/3/29 神戸市北区
アゲハチョウ	2015/2/24 姫路市 2021/2/22 橿原市*	ツマグロヒョウモン	2020/2/4 京田辺市
キアゲハ	2021/3/17 橿原市	コミスジ	2022/4/10 橿原市
クロアゲハ	2021/3/30 たつの市	ヒメウラナミジャノメ	2020/3/13 三田市
ジャコウアゲハ	2021/3/23 橿原市	ミヤマセセリ	2020/3/20 三田市 2021/3/20 三田市
カラスアゲハ	2021/4/3 加古川市	トビモンオオエダシャク	2021/2/21 相生市
アオスジアゲハ	2013/3/23 芦屋市	オオシモフリスズメ	2021/3/25 姫路市
ギフチョウ	2020/3/25 宝塚市	イボタガ	2021/3/12 相生市
ベニシジミ	2021/2/14 淡路市	エゾヨツメ	2021/3/11 相生市
ヤマトシジミ	2021/2/13 高砂市	オカモトゲエダシャク	2021/2/21 相生市

* 屋外飼育個体の羽化

神戸市摩耶山における 2021 年度のアサギマダラの標識個体の移動結果

宮武 頼夫¹⁾・一井 弘行²⁾・徳増 実事²⁾

はじめに

摩耶山天上寺は、神戸市灘区摩耶山町 2-12 にあり（標高 715m）、大化 2 年（646）にインドの高僧法道仙人により創設されたと言われる古刹で、神仏霊場兵庫第四番に指定されている。関西花の寺第 10 番霊場にも指定されているだけあって、境内や周辺に各種の花が植えられており、コバノフジバカマも各所にパッチ状に植えられていて、秋のアサギマダラ *Parantica sita nipponica* の南下シーズンには、多くの個体が見られる格好のマーキングポイントとなっている。

2021 年 10 月 4 日（月）、午前 10 時から午後 3 時半の間、我々は天上寺下周辺のコバノフジバカマ園（標高 690m）でアサギマダラの移動調査を行った。当日は、アサギマダラが乱舞状態で、非常に個体数が多かった（図 1）。我々が当日マークした個体数は以下の通りで、総数 361 個体である。当日の天候は終日晴で、気温はおおむね 23℃から 26℃を推移し、風はほとんどなかった。

一井弘行 HCH1 - HCH101 MY 10・4

99 ♂ 2 ♀（交尾済み 1、不明 1）

徳増実事 TKM1 - TKM160 MY 10・4

157 ♂ 3 ♀（未交尾 1、不明 2）

宮武頼夫 YMK1 - YMK100 MY 10・4

93 ♂ 7 ♀（交尾済み 5、未交尾 1、不明 1）

なおその後、徳増と妻は 10 月 9 日にも同地を訪れて、

午前 10 時から 12 時までの約 2 時間で多くのマーク個体を再観察したので、それらのデータも本報告に含めた。これらには追記のマーキングはせず、そのまま放蝶した。

本報告では、再捕獲地（再観察地も含む）と標識地については、「摩耶山」とのみ記し詳しくは省略したが、すべて以下の通りである。ごく一部であるが、天上寺境内で標識・再捕獲（再観察）した個体も含まれる。

摩耶山：神戸市灘区摩耶山町天上寺下のコバノフジバカマ園
標高 690m N34°44'20" E135°12'16"

asagi の ML で再捕獲情報や移動情報を寄せてくださった方々には、厚くお礼を申し上げる。

再捕獲記録

1. 標識：UZU 10 AS 10.3

性別：♂

標識日：2021 年 10 月 3 日 14:40

標識地：兵庫県神戸市東灘区渦森台 4 丁目展望台公園

フジバカマ園 標高：341m

緯度経度：N34°44'31.36"E 135°14'46.80"

標識者：Anja Sliwa

備考：フジバカマに吸蜜。

↓ 西南西へ 3.8 km 移動 1 日間



図 1 摩耶山天上寺付近で飛翔するアサギマダラ（10 月 9 日）

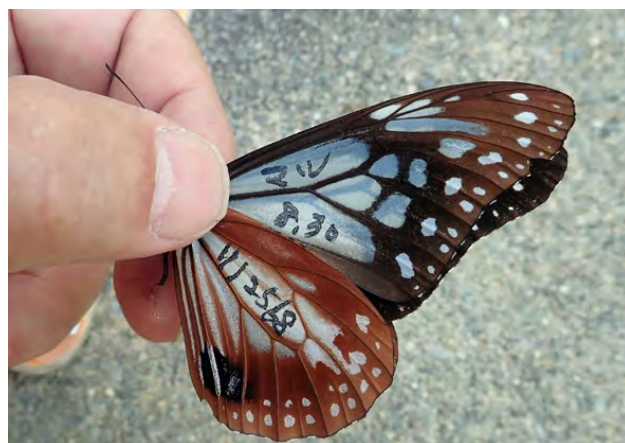


図 2 群馬県からの移動個体（マルリノ 2568）

¹⁾ Yorio MIYATAKE アサギマダラの会；²⁾ Hiroyuki ICHII トンボ研究会；²⁾ Makoto TOKUMASU トンボ研究会

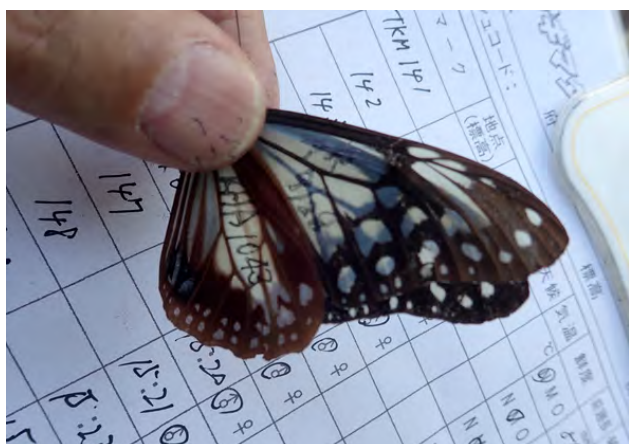


図3 京都府綾部市からの移動個体 (アヤ KHA 1043)

再捕獲地：摩耶山 15：05 pm
 再捕獲者：一井弘行
 備考：コバノフジバカマに飛来. HCH101 MY 10.4 と追記.

2. 標識：マル8.30 リノ 2568 (図2)

性別：♂
 鮮度：N
 標識日：2021年8月30日 15：37
 標識地：群馬県片品村丸沼四郎沢 (標高 1500 m)
 緯度経度：36.8401N 139.3447E
 標識者：井上浩
 天気：晴れ 気温：22℃
 備考：ヨツバヒヨドリ訪花.

↓ 南西へ440.9km移動 35日間

再捕獲地：摩耶山 10.21 am
 再捕獲者：徳増実事
 備考：コバノフジバカマに飛来. TKM17 MY 10.4 と追記.

3. 標識：アヤ9/28 KHA 1043 (図3)

性別等：♂
 標識地：京都府綾部市戸奈瀬町 (128m)
 緯度経度：N35°16'46" E135°20'08" (十進法では 35.279841-135.335352)
 標識日：2021年9月28日8時50分
 標識者：林 賀寿美
 代理報告者：金田 忍

↓ ほぼ西南西へ49km移動 11日間

再捕獲地：摩耶山 12：05 pm
 再捕獲者：徳増実事
 備考：コバノフジバカマに飛来. TKM 155 MY 10.4 と追記して放蝶.

4. 標識：白山9.19 AN1300 (図4)

性別：♂
 標識地：石川県白山市瀬戸「アサギマダラ空の駅・白山」



図4 石川県白山市からの移動個体 (白山 AN1300)

標高 312m 36°17'23.1"N 136°38'54"E
 標識日：2021年9月19日
 標識者：中村明男
 標識状況：フジバカマに訪花

↓ 南南西に216km移動 15日間

再捕獲地：摩耶山 10：40 am
 備考：コバノフジバカマに飛来. YMK15 MY 10.4 と追記.

5. 標識：白山9/20 JMC1167

性別：♂
 標識地：石川県白山市瀬戸「アサギマダラ空の駅・白山」
 標高 312m
 緯度経度：36°17'23.1"N 136°38'54"E
 標識日：2021年9月20日
 標識者：西村武資
 標識状況：フジバカマに訪花.

↓ 南南西に216km移動 14日間

再捕獲地：摩耶山 14：13 pm
 再捕獲者：宮武頼夫
 備考：コバノフジバカマに飛来. YMK73 MY 10.4 と追記.

6. 標識：TAT 7.30 JET 334 (図5)

性別：♂
 前翅長：49 mm
 標識日：2021年7月30日
 標識地：長野県立科町 白樺高原 標高 1474m 地点
 緯度経度：36.1618 N, 138.2799 E
 標識者：Masuzawa
 備考：ヨツバヒヨドリ訪花. 緯度経度, 標高は GPS 端末から取得.

↓ 西南西 (241度) に320km移動 66日間

再捕獲地：摩耶山 12：17 pm
 再捕獲者：宮武頼夫
 備考：コバノフジバカマに飛来. YMK42 MY 10.4 と追記.



図5 長野県からの移動個体 (TAT JET 334)



図6 富山県からの移動個体 (TSN 835)



図7 福島県からの移動個体 (デコ HK219)

7. 標識: TSN 835 9.7 (図6)

性別: ♂

標識日: 2021年09月07日 天候: 晴れ

標識地: 富山県黒部市僧ヶ岳林道 標高 1200 m

緯度経度: N 36°47'19" E 137°33'25"

標識者: 藤條好夫

備考: 林道飛翔「鮮度・新」.

↓ 南西方向 (223度) に 311.3km 移動 27日間

再捕獲地: 摩耶山 15:08 pm

再捕獲者: 宮武頼夫

備考: コバノフジバカマに飛来. YMK91 MY 10.4 と追記.

8. 標識: FUJI 8/28 RIN86

性別: ♂

鮮度: N

標識地: 山梨県南都留郡鳴沢村 富士林道 標高 1600 m

緯度経度: N 35°25'00" E 138°41'17"

標識日: 2021年8月28日 11時39分

天候: 晴れ

標識者: 高橋凜

備考: ヨツバヒヨドリに訪花

↓ 西に 326 km 移動 37日間

再捕獲地: 摩耶山 15:18 pm

再捕獲者: 宮武頼夫

備考: コバノフジバカマに飛来. YMK94 MY 10.4 と追記.

再観察記録 (他地からの移動記録)

(10月9日, 徳増による)

1. 標識: デコ 8/26 HK 219 (図7)

性別: ♂

鮮度: M

破損: なし

前翅長: 51 mm

標識日: 2021年8月26日 11:24

標識地: 福島県耶麻郡北塩原村松原荒砂沢山 グランデコス

キー場 標高 1,394 m

緯度経度: 37.71638, 140.12666 (37°42'59.00"N, 140°07'36.00"E)

天気: 雨

気温: 20 °C

標識者: 小柴治紀

備考: アザミ訪花. 曇り空から小雨が降り出した中で捕獲した. 当日 135 ♂ 21 ♀ 計 156 頭マーキングした中の 1 頭.

↓ 南西方向に 552km 移動 39日間

再確認地: 摩耶山 10:10 am

再観察者: 徳増実事

備考: コバノフジバカマ訪花.

2. 標識: カラク mit 9.14 1405

性別: ♂

標識日: 2021年9月14日 13時01分

標識地: 群馬県中之条町入山 中之条山の上庭園 (旧花楽の里)

標高 980 m

標識者: 一場光次 フジバカマ訪花

↓ 西南西方向へ 375.4km 移動 25日間

再捕獲地: 摩耶山 11:39 am

再観察者：徳増実事 コバノフジバカマ訪花

3. 標識：Nみのわ N-199.17

標識日：2021 年 9 月 17 日

標識地：長野県箕輪町「知久沢自然体験の里公園」

緯度経度：北緯 35 度 56 分 02 秒 東経 138 度 00 分 11 秒

性 別：♂

標識者：田澤律子

↓ 南西に 287km 移動 22 日間

再捕獲地：摩耶山 11：33 am

再観察者：徳増実事

備 考：コバノフジバカマに飛来.

4. 標識：NP 9.24 JET 3224

性 別：♂

前翅長：57 mm

標識日：2021 年 9 月 24 日

標識地：長野県大町市 のっぺ山荘

緯度経度：36.5944 N, 137.8467 E

標識者：Masuzawa

備 考：フジバカマ訪花

↓ 南西 (230 度) へ 315km 移動 15 日間

再捕獲地：摩耶山 10：41 am

再観察者：徳増実事

備 考：コバノフジバカマに飛来.

5. 標識：タカラ チャオ 19.13

標識日：2021 年 9 月 13 日

標識地：岐阜県高山市高根町日和田 元チャオスキー場付近

標高：1731 m

緯度経度：緯度 35 度 57 分 15.61 秒 経度 137 度 29 分 09.16 秒

性 別：♂

標識者：宝田延彦

↓ 南西へ 247km 移動 26 日間

再捕獲地：摩耶山 10：45

再観察者：徳増実事

備 考：コバノフジバカマに飛来.

6. 標識：白山 9/16 JMC481

性 別：♂

標識地：石川県白山市瀬戸「アサギマダラ空の駅・白山」

標高 312m

緯度経度：36° 17′ 23.1″ N 136° 38′ 54″ E

標識日：2021 年 9 月 16 日

標識者：西村武資

標識状況：フジバカマに訪花

↓ 南西へ 216km 移動 23 日間

再捕獲地：摩耶山 11：31 am

再観察者：徳増実事

備 考：コバノフジバカマに訪花.

7. 標識：白山 9.26 TTY367

性 別：♂

標識地：石川県白山市鴫ヶ谷 標高：489m

緯度経度：北緯 36° 14′ 07″ 東経 136° 37′ 54″

標識日：2021 年 9 月 26 日

標識者：桑山尚美

標識状況：フジバカマに訪花

↓ 南西へ 216km 移動 13 日間

再捕獲地：摩耶山 11：45 am

再観察者：徳増実事

備 考：コバノフジバカマに訪花.

8. 標識：白山 9/20 JMC1014

性 別：♂

標識地：石川県白山市瀬戸「アサギマダラ空の駅・白山」

標高：312m

緯度経度：36° 17′ 23.1″ N 136° 38′ 54″ E

標識日：2021 年 9 月 20 日

標識者：西村武資

標識状況：フジバカマに訪花

↓ 南西へ 216km 移動 19 日間

再捕獲地：摩耶山 10：53 am

再観察者：徳増実事

備 考：コバノフジバカマに訪花.

9. 標識：白山 9.23 yasu122

性 別：♂

標識地：石川県白山市中宮 標高：778m

緯度経度：36° 17′ 5″ N 136° 41′ 23″ E

標識日：2021 年 9 月 23 日

標識者：米永弥代

標識状況：フジバカマに訪花

↓ 南西へ 218km 移動 16 日間

再捕獲地：摩耶山 10：19 am

再観察者：徳増実事

備 考：コバノフジバカマに飛来.

10. 標識：白山 9.25 AN2017

性 別：♂

標識地：石川県白山市瀬戸「アサギマダラ空の駅・白山」

標高：312m

緯度経度：36° 17′ 23.1″ N 136° 38′ 54″ E

標識日：2021 年 9 月 25 日

標識者：中村明男

標識状況：フジバカマに訪花

↓ 南西へ216km移動 15日間

再捕獲地：摩耶山 10:48 am

再観察者：徳増実事

備考：コバノフジバカマに訪花.

11. 標識：白山 9.25 MMA15

性別：♂

標識地：石川県白山市瀬戸「アサギマダラ空の駅・白山」

標高：312m

緯度経度：36°17' 23.1" N 136°38' 54" E

標識日：2021年9月25日

標識者：松井元雄

標識状況：フジバカマに訪花

↓ 南西へ216km移動 14日間

再捕獲地：摩耶山 11:25 am

再観察者：徳増実事

備考：コバノフジバカマ訪花.

12. 標識：白山 9/16 SDF 225

性別：♂

標識地：石川県白山市瀬戸「アサギマダラ空の駅・白山」

標高 312m

緯度経度：36°17' 23.1" N 136°38' 54" E

標識日：2021年9月16日

標識者：下出祐紀代

標識状況：フジバカマに訪花

↓ 南西へ216km移動 23日間

再捕獲地：摩耶山 10:48 am

再観察者：徳増実事

備考：コバノフジバカマに訪花.

13. 標識：KN 10.6 XX 187

性別：♂

標識日：2021年10月6日11時38分

標識地：京都市西京区大枝西長町(九社神社裏) 標高 180m

緯度経度：345817.79N・1353919.18E

標識者：金田 忍

↓ ほぼ西南西へ49km移動 3日間

再捕獲地：摩耶山 10:29 am

再観察者：徳増実事

備考：コバノフジバカマに飛来.

14. 標識：アヤ 9/28 KHA 1003

性別：♂

標識地：京都府綾部市戸奈瀬町(128m)

緯度経度：N35°16'46" E135°20'08"(十進法では
35.279841-135.335352)

標識日：2021年9月28日8時50分

標識者：林 賀寿美

報告者：金田 忍

↓ ほぼ西南西へ49km移動 11日間

再捕獲地：摩耶山 12:05 pm

再観察者：徳増実事

備考：コバノフジバカマに飛来.

15. 標識：YWA 176 M 9.28

性別：♂

標識日：2021年9月28日 午前9時

標識地：兵庫県宝塚市美座2丁目(荒神川・武庫川左岸合流点
付近) 標高 30m

標識者：渡辺康之

備考：♂, 前翅長 55mm. 新鮮でわずかに擦れがある個体.
ミズヒマワリ群落に飛来.

↓ 西南西方向(242°)へ15.5km移動 11日間

再捕獲地：摩耶山 10:37 am

再観察者：徳増実事

備考：コバノフジバカマに飛来.

↓ 西南西(258°)へ260.5km移動 16日間

再々捕獲日時：2021年10月11日 13:42

再々捕獲地：広島県呉市灰ヶ峰公園 標高 450 m

緯度経度：34.2758N, 132.5989E

再々捕獲者：川本昌一

報告者：井上浩

天気：晴れ

気温：20℃

状況：フジバカマに訪花

追記：再標識を追加記入(住岡昭彦)して放蝶(クレ灰
AKS05 10.11).

なお、再観察した「三田 UED 2021 0924」(兵庫県)
と「デコ YO 54 8/8」(福島県)については、MLで移
動情報が得られなかったので割愛する.

他地での再捕獲の記録(他地への移動記録)

1. 標識：HCH 3 10.2 (図8)

標識地：摩耶山 10:02 am

標識者：一井弘行

備考：コバノフジバカマ吸蜜.

↓ 南南西に約182.5km移動 27日間

標識：(右翅) KOBE 10/3 (左翅) HCH3 10.2

性別：♂

再捕獲日時：2021年10月31日14:42

再捕獲地：高知県室戸市スカイライン 標高約234.1 m

緯度経度：33.2670 N, 134.1788 E

天 候: くもり 20℃

再捕獲者: 木下敦貴

報告者: 木下智晴

備 考: ツワブキへの訪花. 「MRT 10/31 Aki682」を追記し放蝶. 10.2 は誤記, KOBE 10/3 は誰かが同所で標識したもののと思われる.

2. 標識: HCH 19 MY 10.2

標識地: 摩耶山 10:21 am

標識者: 一井弘行

備 考: コバノフジバカマに訪花.

↓ 南南西に 122.2km 移動 17 日間

性 別: ♂

再捕獲日: 2021 年 10 月 21 日 フジバカマに飛来

再捕獲地: 徳島県阿南市内原町長谷

緯度経度: N 33° 53' 15" E 134° 38' 05"

再捕獲者: 谷中 勝信

追 記: トクタニ 10.21 186

3. 標識: HCH46 MY 10.4 (図 9)

標識地: 摩耶山 11:18 am

標識者: 一井弘行

備 考: コバノフジバカマに飛来.

↓ 南西に 66.5km 移動 10 日間

性別等: ♂, 鮮度 N, 左触角半分なし

再捕獲地: 徳島県鳴門市撫養町小桑島 標高: 1.6 m

緯度経度: N34° 10' 56" E134° 36' 29"

再捕獲日時: 2021 年 10 月 14 日 (木) 11 時 56 分

再捕獲者: 天野 大

追加標識: (右前翅) 10.14 ア ナルト

備 考: 日陰のフジバカマの花で吸蜜中. 天候 快晴, 気温 27℃

4. 標識: HCH 57 MY 10.4

標識地: 摩耶山 11:53 am

標識者: 一井弘行

備 考: コバノフジバカマに訪花.

↓ 北北東に 68.2km 移動 12 日間

性 別: ♂

鮮 度: M

再捕獲地: 京都府南丹市美山町江和

緯度経度: 北緯 35 度 19 分 07 秒, 東経 135 度 39 分 10 秒

再捕獲日: 2021 年 10 月 16 日 (スマホで撮影)

再捕獲者: 河野昌子

飛来状況: 植栽フジバカマに飛来.

6. 標識: TKM11 MY 10.4

標識地: 摩耶山 10:12 am

標識者: 徳増実事

備考: コバノフジバカマに飛来.

↓ 南西へ約 28km 移動 5 日間

性 別: ♂

再捕獲日時: 2021 年 10 月 9 日 11:27

再捕獲地: 兵庫県淡路市城ノ瀬山 標高約 290 m

緯度経度: 34.5641 N, 134.9640 E

天 候: 晴れ

再捕獲者: 木下知子

備 考: ヒヨドリバナへの訪花. 「AWJ 10/9 Aki448」を追記し放蝶.

当日は、同所にて 58 頭マーク (♂ 48, ♀ 9 全て既交尾)

7. 標識: TKM 26 MY 10.4

標識地: 摩耶山 10:39 am

標識者: 徳増実事

備 考: コバノフジバカマ訪花.

↓ 南西へ 336.4km 移動 44 日間

性 別: ♂ 鮮度: M(翅に破損) 前翅長: 49 mm

再捕獲日時: 2021 年 11 月 17 日 13:00

再捕獲地: 高知県幡多郡大月町一切 標高 201m

緯度経度: 32° 46' 26" N 132° 38' 39" E



図 8 高知県室戸市で再捕獲された移動個体 (HCH3 MY)



図 9 徳島県鳴門市で再捕獲された移動個体 (HCH46 MY)

気象状況: 晴れ 20℃

再捕獲者: 土田章雄

備考: ツワブキ訪花

「オオドウ 11.17 AT 3234」追記後放蝶

8. 標識: TKM 27 MY 10.4

標識地: 摩耶山 10:40 am

標識者: 徳増実事

備考: コバノフジバカマに訪花.

↓ 南南西に122.2km移動 12日間

性別: ♂

再捕獲日: 2021年10月16日 フジバカマに飛来

再捕獲地: 徳島県阿南市内原町長谷

緯度経度: N 33° 53' 15" E 134° 38' 05"

再捕獲者: 米山喜義

追記: トクウチ kys 10.16

9. 標識: TKM 35 MY 10.4

標識地: 摩耶山 10:58 am

標識者: 徳増実事

備考: コバノフジバカマ吸蜜.

↓ 南南西に約182.5km移動 24日間

性別: ♂

再捕獲地: 高知県室戸市室戸スカイライン

再捕獲日: 2021年10月28日

再捕獲者: 小松佳代

報告者: 土居あさぎ

追記: KAY177

10. 標識: TKM46 MY 10.4

標識地: 摩耶山 11:24 am

標識者: 徳増実事

備考: コバノフジバカマに飛来.

↓ 南西へ28km移動 5日間

性別: ♂

再捕獲日時: 2021年10月10日 10:30

再捕獲地: 兵庫県淡路市城ノ瀬山 標高約290m

緯度経度: 34.5641 N, 134.9640 E

天候: 晴れ

再捕獲者: 木下敦貴

備考: ヒヨドリバナへの訪花. 「AWJ 10/10 Aki528」を追記し放蝶.

当日は, 同所にて58頭マーク(48♂9♀全て既交尾)

11. 標識: TKM 53 MY 10.4 (図10)

標識地: 摩耶山 11:34 am

標識者: 徳増実事

備考: コバノフジバカマに訪花.

↓ 南南西に105km移動 20日間

性別: ♂

再捕獲日: 2021年10月24日

再捕獲地: 徳島県阿南市椿町須屋 牧場東

緯度経度: N33° 48' 47.9" E 134° 40' 52.7"

再捕獲者: 米山喜義

報告者: 大原賢二

備考: フジバカマに飛来

追記: トクスヤ kys 440 10.24

12. 標識: TKM 96 MY 10.4

標識地: 摩耶山 13:57 pm

標識者: 徳増実事

備考: コバノフジバカマ吸蜜.

↓ 南南西に約870km移動 28日間

性別: ♂

再捕獲日時: 2021/11/1 10:00

再捕獲地: 鹿児島県大島郡喜界町 滝川林道

緯度経度: 28 18 45.92N 129 58 32.53E

再捕獲者: 福島 誠

備考: ヤマヒヨドリバナ訪花 「キカイ MF 2104 11/1 T」

追記放蝶

画像: <http://www.synapse.ne.jp/makoto-f/>

13. 標識: TKM 98 MY 10.4

標識地: 摩耶山 13:59 pm

標識者: 徳増実事

備考: コバノフジバカマに飛来.

↓ 北東へ約65.9km移動 11日間

性別: ♂. 鮮度: O

再捕獲地: 京都市左京区大原勝林院町

緯度経度: 北緯35度07分18秒、東経135度49分47秒

再捕獲日: 2021年10月15日 12:25

再捕獲者: 小松清弘

飛来状況: 植栽フジバカマに飛来. 晴れ, 微風



図10 徳島県阿南市で再捕獲された移動個体 (TKM53 MY)

備考: kk-56OH10/15 を追記, 放蝶.

14. 標識: TKM 99 MY 10.4

標識地: 摩耶山 14:00 pm

標識者: 徳増実事

備考: コバノフジバカマ吸蜜.

↓ 南南西に約 182.5km 移動 22 日間

性別: ♂

鮮度: M 前翅長: 47mm 破損なし

再捕獲地: 高知県室戸市室戸岬町室戸スカイライン

緯度経度: 北緯 33 度 15 分 46 秒、東経 134 度 10 分 44 秒

再捕獲日: 2021 年 10 月 26 日

再捕獲者: 長崎志津男

報告者: 藤野適宏

飛来状況: アザミ・ツワブキに飛来.

備考: 当日室戸市で 84 頭 (43 ♂ 41 ♀) に標識

15. 標識: TKM140 MY 10.4

標識地: 摩耶山 15:08 pm

標識者: 徳増実事

備考: コバノフジバカマに飛来.

↓ 南西へ 28km 移動 5 日間

性別: ♂

再捕獲日時: 2021 年 10 月 10 日 9:27

再捕獲地: 兵庫県淡路市城ノ瀬山 標高約 290 m

緯度経度: 34.5641 N, 134.9640 E

天候: 晴れ

再捕獲者: 木下敦貴

備考: ヒヨドリバナへの訪花. 「AWJ 10/10 Aki496」を追記し放蝶.

当日は, 同所にて 101 頭にマーク (♂ 74, ♀ 27 うち既交尾 24)

16. 標識: YMK17 MY 10.4

標識地: 摩耶山 10:50 am

標識者: 宮武頼夫

備考: コバノフジバカマに飛来.

↓ 西南西に 20.9km 移動 3 日間

性別: ♂

再捕獲日時: 2021 年 10 月 7 日 07:30

再捕獲地: 兵庫県明石市大久保町 標高約 22 m

緯度経度: 34.6818 N, 134.9483 E

天候: 晴れ

再捕獲者: 木下智晴

備考: 自宅庭のフジバカマへの訪花. 通勤前で急いでいたの
で手で捕獲. 「ASK Aki393」を追記し放蝶.

17. 標識: YMK 23 MY 10.4

標識地: 摩耶山 11:15 am

標識者: 宮武頼夫

備考: コバノフジバカマに訪花.

↓ 東南東に 55.4km 移動 15 日間

性別: ♂

再確認日時: 2021 年 10 月 19 日 14:00

再確認地: 兵庫県洲本市千草 戊 6 0 観光農園「あわじ花山水」

緯度経度: 34.30356199738848 N, 134.90481715531772 E

再確認者: 水田進

報告者: 愛媛県立とべ動物園の北本氏

状況: 鉢植えフジバカマに飛来.

18. 標識: YMK 58 MY 10.4

標識地: 摩耶山 13:25 pm

標識者: 宮武頼夫

備考: タオルキャッチ

↓ 東南東に 167.5km 移動 19 日間

性別: ♂

再捕獲日: 2021 年 10 月 23 日

再捕獲地: 三重県鳥羽市答志島和具

再捕獲者: 中西元男

備考: 追記せずに放蝶.

考察

2021 年はアサギマダラの個体数が非常に多く, とても標識が追いつかないような状態であった. 他地からの移動個体の再捕獲は, 東北・関東・中部・北陸地方からが主で, 東海地方からの移動は見られなかった. 摩耶山からの移動ルートとしては, 淡路島, 徳島東部, 高知南部を通るものが多い. ごく一部の個体は東北東や東南東へ移動しているが, 高温が続いていたせいかと推察される. 摩耶山で一日でマークされた 3 頭が, 淡路島で 2 日にわたって同じ地点で再捕獲されているところを見ると, 南下移動は集団でおきる可能性も示唆している. 主にコバノフジバカマに訪花した個体を標識したためか, メスの比率は 3.4% と低く, 交尾済みの個体の方が多かった.

兵庫県におけるシルビアシジミの吸蜜植物－第5報

島崎 正美¹⁾・島崎 能子²⁾

筆者らは兵庫県加古川市と高砂市で確認できたシルビアシジミの吸蜜植物について報告（島崎, 2015, 2016, 2019, 2020）してきているが, 2021年4月に報告済みのアリアケスミレとは異なる種類のスミレで吸蜜する♂を観察記録（図1）し, 次いで2022年7月にベニバナセンブリでの吸蜜例を観察記録できた. 新たなスミレについてはノジスミレとマスミレとのいずれかで, 2022年10月のノジスミレの開花を待ってその距の形態からマスミレだと同定した. ベニバナセンブリでの吸蜜場面はズームアップ撮影ができないうちに飛ばれたせいで証拠程度の画像記録（図2）となってしまうが, すでに報告をしているヒメジョオン, ブタナおよびオオイヌノフグリについてのより鮮明な吸蜜場面の撮影記録（図3, 4, 5）と合わせて報告する.

筆者らは別途「加古川の蝶：年間発生状況」についてのまとめを発表（島崎, 2010）していてその後も調査を続けている過程で, シルビアシジミに関しては7月

上 - 中旬の記録がとれていなく, 今回はその時期の発生状況の確認が目的であった. 吸蜜植物については, これまでの多くがミヤコグサとシロツメクサでの吸蜜例の観察だったが, 高温が続いたせいもあってか7月11-13日の3日間は飛び交うシルビアシジミの多くが次々と花蜜を求める状況で, 上記2種中シロツメクサでは2-3個体が同じ花に蜜を求める様子もみられ, ヒメジョオン, ヒナギキョウ, ブタナなどにも頻度高く訪れる珍しい光



図1 マスミレでの吸蜜（2021年4月10日, 加古川市）.



図2 ベニバナセンブリでの吸蜜（2022年7月11日, 加古川市）.



図3 ヒメジョオンでの吸蜜（2022年7月12日, 加古川市）.



図4 ブタナでの吸蜜（2022年7月13日, 加古川市）.



図5 オオイヌノフグリでの吸蜜（2021年4月10日, 加古川市）.

¹⁾ Masami SHIMAZAKI ; ²⁾ Yoshiko SHIMAZAKI 兵庫県高砂市

景を観察できた。この生息地にはあまり多くはないベニバナセンブリの花に立ち寄るそぶりを見せる個体もみたが、実際に吸蜜をしたのは7月11日の1個体だけであった。

今回報告の蜜源を追加した27種を第4報に示した花（特に花芯）の色別分類に再整理すると以下のようになる。

赤系統: アカツメクサ, イヌコウジュ, イヌコモチナデシコ, キツネノマゴ, コマツナギ, ツルボ, ヌスビトハギ, ハナタデ, ヒメハギ, ミゾソバ, ベニバナセンブリ (11種)

黄系統: アメリカセンダングサ, カタバミ, カンサイタンポポ, コメツブウマゴヤシ, ニガナ, プタナ, ミヤコグサ, ヒメジョオン, ヨメナ (9種)

白系統: アリアケスミレ, オオニシキソウ, シロツメクサ (3種)

青系統: オオイヌノフグリ, ツリガネニンジン, ヒナギキョウ, マスミレ (4種)

加古川市のこの生息地にはマツバウンランが咲く時期もあって、科目は違ってもヒナギキョウに似た感じの花での吸蜜が期待でき、今後も継続的に観察を続ける予定。

○参考文献

- 島崎正美, 2010, 加古川の蝶: 年間発生状況. きべりはむし, 32(2), 12-14
- 島崎正美, 2015, 兵庫県におけるシルビアシシミの吸蜜植物. きべりはむし, 38(1), 4-5
- 島崎正美, 2016, 兵庫県におけるシルビアシジミの吸蜜植物 - 続報. きべりはむし, 39(1), 17-18
- 島崎正美・島崎能子, 2019, 兵庫県におけるシルビアシジミの吸蜜植物 - 第3報. きべりはむし, 42(2), 15-16
- 島崎正美・島崎能子, 2020, 兵庫県におけるシルビアシジミの吸蜜植物 - 第4報. きべりはむし, 43(2), 11-12

2021 年～ 2022 年に西播磨地域で採集・撮影した注目すべき蛾類の記録

高橋 弘樹¹⁾

はじめに

筆者が 2021 年から 2022 年にかけて兵庫県西播磨地域 (相生市, たつの市, 赤穂市, 宍粟市, 太子町, 上郡町, 佐用町の 7 市町. ただし太子町では実施できなかった.) で行ったライトトラップにおいて採集・撮影した蛾類のうち, 兵庫県内での記録が少ないか, 少ないと思われるものについて報告する. なお, 筆者採集・撮影のものは氏名を省略している.

ライトトラップについては HID サーチライト 55w1 灯を使用したもので, 晩秋～早春には LED ブラックライト 20w1 灯を併用した. 2022 年春以降は三村貴之氏所有の HID サーチライトを併設することもあった. なお, サーチライト使用により他者への影響が懸念される場合や林内等の小場所では蛍光灯ワークライト 13w を使用した.

各種資料

1. ミサキコミズメイガ *Paraporynx moriutii* Yoshiyasu, 2005 (図 1)

たつの市内でのライトトラップに 1 頭が飛来した. 現地は児童公園や土の広場として整備された山裾の雑木林内で, 広場の脇には細流が流れ, 少し上流には隠田跡とされる湿地がある.

那須ほか (2013) によると本種の分布は大阪府及び和歌山県, タイプ産地は大阪府岬町で, 大阪府レッドリスト (2014) では絶滅危惧Ⅱ類に位置付けられている.

インターネット上の「YAMKEN の明石の蛾達」には明石公園で撮影された画像が掲載されている. 幼虫は水生である.

【撮影記録】兵庫県たつの市揖保川町黍田. 1ex., 14. VI. 2021.

2. サツマスズメ *Theretra clotho* (Drury, 1773) (図 2)

2022 年 7 月 15 日 21 時半頃, たつの市新宮町光都でのライトトラップに 1 頭が飛来した. 落ち着くことなく一旦飛び去ったが, しばらくすると戻ってきたので 21 時 45 分に撮影した.

同年 8 月 5 日に上郡町で行ったライトトラップでは, 22 時 20 分に幕近くの路上に 1 頭が静止しているのを

同行者の小野塚流鳩氏が発見し, 筆者が採集した. どちらの個体も体毛や鱗粉の欠落の少ない美しい個体で, 7 月は激しい夕立の後の霧の中, 8 月は非常に蒸し暑い中での実施だった.

本県での記録はこれまで無かったが, 池田・阪上 (2020) は, 周辺では岡山県や紀伊半島の熊野に記録があり, 県内でも得られる可能性が高いと予測していた.

【撮影・採集記録】兵庫県たつの市新宮町光都, 1ex., 15. VII. 2022.; 兵庫県上郡町金出地, 1ex., 5. VIII. 2022.

3. タツタカモクメシャチホコ *Kamalia tattakana* (Matsumura, 1927) (図 3)

純白の地に黒が映える大型のシャチホコガで, 胸部の黒斑は光の当たり方によって青く輝く.

筆者は上郡町でのライトトラップで 2022 年 5 月 31 日 20 時 39 分と, 同年 6 月 3 日 21 時 19 分に各 1 頭を採集した. また同年 6 月 18 日には宍粟市波賀町でのライトトラップに 1 頭が飛来し, 同行者の石川哲也氏によって採集された.

本県では各地で採集されているという伝聞情報はあるものの, 発表されている記録は今のところ宍粟市波賀町引原 (高島, 1999) のみである.

【採集記録】兵庫県上郡町金出地, 1 ♂, 31. V. 2022.; 同地, 1 ♂, 3. VI. 2022.; 兵庫県宍粟市波賀町鹿伏, 1ex. 18. VI. 2022. 石川哲也.

4. ヤクシマドクガ *Orgyia triangularis* Nomura, 1938 (図 4)

♂の前翅はやや緑色を帯びた褐色, 後翅は黒褐色で三角形の橙黄色部がある. ♀は大きく, 全体的に淡色である (岸田, 2011). 兵庫県 RDB(2012) に暖地の樹林に生息する種で個体数が少なく, 近年の確認例は 1 例のみとあり, 県内分布記録は佐用町, 丹波市, 南あわじ市となっている.

筆者は 2021 年の 6 月と 9 月, 2022 年の 6 月に上郡町の川沿いや雑木林, たつの市の雑木林でのライトトラップで計 14 頭を確認した. その他, 相生市矢野町瓜生でも 2 ♂を確認している (高橋, 2022).

¹⁾ Hiroki TAKAHASHI 兵庫県相生市

【撮影記録】兵庫県上郡町金出地, 3 ♂ 1 ♀, 12. VI. 2021.; 同地, 5 ♂, 6. IX. 2021.; 兵庫県たつの市揖保川町黍田, 4 ♂, 14. VI. 2021.; 同地, 1 ♂, 15. VI. 2022.

5. コシロオビドクガ *Numenes disparilis* Staudinger, 1887 (図 5)

2022 年 9 月 3 日にライトトラップに飛来した 1 ♀ を採集した。同月 17 日 20 時 12 分にも 1 ♀ が飛来し、同行者の三村剣義氏が採集した。

シロオビドクガに似るが小型で、♂は後翅の中央部に白色部があること、♀は前翅の白帯の色合いと基部に近い帯の形状の違いにより区別できる。

岸田 (2011) には局地的で少ない種とあり、本県産の♀標本が図示されている。本県ではそれ以外に 1984 年の三日月町 (佐用町) (川副, 1987), 1988 年の引原ダム (高島, 1995) の記録しか見つけられなかった。ただし岡山県では北部・中部で普通とされている (岡山県, 2019)。♂は昼行性である。

【採集記録】兵庫県宍粟市波賀町鹿伏, 1 ♀, 3. IX. 2022.; 同地, 1 ♀, 17. IX. 2022. 三村剣義。

6. セニジモンアツバ *Paragona cleorides* Wileman, 1911 (図 6)

前翅は灰白色で暗灰色鱗が混ざり、中央部が赤褐色を帯びることでウスグロセニジモンアツバと区別できる (岸田, 2011)。カメラ等で拡大すると腹部背面の金属光沢のある鱗片がきらめいている。

西播磨地域では 6 月から 10 月にかけてライトトラップにしばしば飛来し、その頻度はウスグロセニジモンアツバよりも多いが、本県での記録は見当たらない。なお筆者は相生市矢野町瓜生でも本種を確認している (高橋, 2022)。

【撮影記録 (一部)】兵庫県たつの市新宮町牧, 1ex., 13. VIII. 2022.; 兵庫県上郡町光都, 2exs., 13. VI. 2022. 兵庫県上郡町金出地, 2exs., 10. VII. 2021.; 同地, 2exs., 24. VI. 2022.; 同地, 1ex., 2. IX. 2022.; 同地, 1ex., 16. IX. 2022.; 同地, 2exs., 3. X. 2022.; 兵庫県宍粟市波賀町鹿伏, 1ex., 3. IX. 2022.; 同地, 1ex., 17. IX. 2022.

7. ナマリキシタバ *Catocala columbina* Leech, 1900 (図 7)

上郡町のやや広い草地にライトトラップ機材を設置し、松の多い雑木林を照射したところ 1 頭が飛来したので採集した。飛来時刻は 21 時 41 分で、当日はほぼ満月の曇天、蒸し暑かったが蛾類の飛来は比較的少なかった。

本県では宝塚市 (高島, 2004)・上郡町赤松で成虫、新温泉町・神戸市・西宮市で幼虫の記録が公表されているが、赤松で記録されたのは 1984 年の 1 例のみである (阪上ほか, 2017)。

【採集記録】兵庫県上郡町光都, 1 ♂, 13. VII. 2022.

8. ヒメシロシタバ *Catocala nagioides* Wileman, 1924 (図 8)

宍粟市波賀町でのライトトラップで 1 頭を採集した。飛来時刻は 21 時 31 分である。

本種の分布は西日本では局所的で、新温泉町 (宇野, 2021), 香美町、宍粟市から記録されている。宍粟市の記録は波賀町引原で 1982 年 (阪上ほか, 2017) と 1983 年 (高島, 2004) に得られたものである。

【採集記録】兵庫県宍粟市波賀町鹿伏, 1ex., 3. IX. 2022.

9. ホソバミツモンケンモン *Cymatophoropsis unca* (Houlbert, 1921) (図 9)

上郡町でのライトトラップで 1 頭を採集した。飛来時刻は 23 時 18 分である。

全国的に見ても局地的な分布をし (兵庫県, 2012), 本県では佐用町でのみ得られている (徳平, 2010; 藤江ほか, 2011)。

【採集記録】兵庫県上郡町金出地, 1ex., 5. VIII. 2022.

10. エチゴハガタヨトウ *Asidemia inexpecta* (Sugi, 1963) (図 10)

本種は局地的な分布をする (高島, 2002) が、播磨科学公園都市周辺では珍しいものではなく、7 月から 9 月にかけてライトトラップを行えばほぼ毎回飛来する蛾である。5 月上旬にも 1 例であるが確認している。

筆者は 2021 年から数多く撮影しているがこれまで同定を保留していた。しかし今回、阪上洗多氏の協力で本種であることが判明したため、本県の初記録として報告する。

高島は上記で本種を今後記録される可能性のある種として挙げていた。

【撮影・採集記録 (一部)】兵庫県上郡町光都, 1ex., 17. VII. 2021.; 兵庫県上郡町金出地, 2exs., 2. VII. 2021.; 同地, 2exs., 6. IX. 2021.; 同地, 2exs., 27. IX. 2021.; 同地, 1ex., 6. V. 2022.; 同地, 4exs., 25. VII. 2022.; 同地, 3exs., 15. VIII. 2022.; 同地, 2exs., 16. IX. 2022.

11. ウスベニキリガ *Orthosia cedermarki* (Bryk, 1948) (図 11)

主に低地に生息し、4 月～5 月に成虫が見られる。兵庫県 RDB (2012) には個体数が少なく平地性のキリガの中では得にくい種の一つとあり、県内分布記録は神戸市、西宮市、宝塚市、西脇市、佐用町、南あわじ市となっている。宝塚市では 2016 年にも採集されている (宇野, 2020)。

筆者は 2022 年 4 月 9 日 19 時 19 分、たつの市の雑木林内でライトトラップに飛来した 1 頭を採集した。そ

の後 20 時前後に 3 頭が飛来したが, 落ち着くことはなく短時間で飛び去ってしまった. 同月 11 日と 18 日にも同地でライトトラップを行ったが両日ともイノシシの接近により短時間で撤収せざるをえず, 本種の飛来も無かった. なお, 糖蜜採集では成果は無かった.

【採集記録】兵庫県たつの市揖保川町黍田, 1 ♀, 9. IV. 2022.

12. エゾチャイロヨトウ *Lacanobia splendens* (Hübner, [1808]) (図 12)

2022 年 7 月 25 日 21 時頃から上郡町の川沿いでライトトラップを行ったところ, 点灯直後の 21 時 13 分に 1 頭が飛来したので撮影し, 後日阪上洸多氏の助力により本種であることが判明した. その後 9 月 2 日に同地のライトトラップで 1 頭を採集した. 飛来時刻は 20 時 33 分だった.

本種は沼沢地に依存するため局地的な分布をしている (植田, 2009). 岸田 (2011) での分布は北海道, 本州中部以北となっているが, 本県では神河町の砥峰高原で 5 月から 8 月に計 26 頭の記録がある (八木ほか, 2003; 植田, 2009).

【撮影・採集記録】兵庫県上郡町金出地, 1ex., 25. VII. 2022.; 同地, 1ex., 2. IX. 2022.

13. モモイロフサクビヨトウ *Sideridis mandarina* (Leech, 1900) (図 13)

宍粟市波賀町のライトトラップで撮影した. 撮影時刻は 21 時 59 分である.

フサクビヨトウに似るが, 前翅がピンク色を帯びることとで区別できる. 寄主植物はナデシコ科ではないかと考えられている (岸田, 2011).

北海道から九州に至る本土域で記録されているがあまり多い種ではないようで, 本県では氷ノ山での 1 例の報告 (高島, 2000) 以外見つけられなかった. そこで引用された記録は 1974 年発表のものである.

【撮影記録】兵庫県宍粟市波賀町鹿伏, 1ex., 17. IX. 2022.

14. カバイロキヨトウ *Mythimna iodochra* (Sugi, 1982) (図 14)

2022 年 5 月 7 日に宍粟市波賀町でのライトトラップで前翅が淡黄色の春型の個体 1 頭を撮影した. 同 21 日にも同地で 2 頭が飛来し, うち 1 頭を採集できた.

夏型は 8 月頃に発生し, 赤みの強い黄色 (岸田, 2011), つまり樺色となるが同地では確認できなかった.

湿性草原に生息するが分布は極めて局地的かつ個体数も少ない種で, 西脇市, 養父市, 篠山市 (丹波篠山市) (兵庫県, 2012), 朝来市 (坪田, 2021) で記録されている.

【撮影・採集記録】兵庫県宍粟市波賀町鹿伏, 1ex., 7. V. 2022.; 同地, 2exs., 21. V. 2022.

15. ウスイロキヨトウ *Mythimna inanis* (Oberthür, 1880) (図 15)

2022 年 5 月 7 日に宍粟市波賀町の溪谷沿いのライトトラップで 1 頭を撮影, 同 21 日に同地で 3 頭を採集した.

本種は北海道から本州中部にかけて分布の中心があり, 九州の久住高原にも産する (高島, 2000). 本県では 1976 年に宍粟市引原ダム (遊磨, 1979), 2021 年に香美町東鉢伏高原 (坪田・高橋, 2021) で採集されている. なお, 岸田 (2011) には本県産の標本が図示されている.

【撮影・採集記録】兵庫県宍粟市波賀町鹿伏, 1ex., 7. V. 2022.; 同地, 3exs., 21. V. 2022.

謝辞

末筆ながら, 種々ご指導頂いた池田大氏及び八木剛氏, 同定や情報の提供をお願いした阪上洸多氏, 調査にたびたび同行していただいた佐用町昆虫館キッズスタッフの三村剣義氏, 石川葉奈, 元貴, 大馳氏と両家のご両親に御礼申し上げる.

参考文献

- 池田大・阪上洸多, 2020. 兵庫県のスズメガ. きべりはむし, 43(2): 26-45.
- 植田義輔, 2009. 2004 年 5,6,7 月に砥峰高原で採集された蛾類. きべりはむし, 32(1):44-48
- 宇野宏樹, 2021. 兵庫県新温泉町におけるヒメシロシタバの記録. きべりはむし, 44 (2):52.
- 宇野宏樹, 2020. 宝塚市の緑地公園で得られた蛾類の記録 II. きべりはむし, 43(1):18-28.
- 大阪府, 2014. 大阪府レッドリスト 2014. 16. <https://www.pref.osaka.lg.jp/attach/21490/00148206/6.konchu.pdf> (参照 2022 年 9 月 3 日)
- 岡山県, 2019. 岡山県野生生物目録 2019 「Ver1-3」 2022 年 6 月 14 日更新 <https://www.pref.okayama.jp/page/602836.html> (参照 2022 年 9 月 6 日)
- 川副昭人, 1987. 佐用郡三日月町蛾覚え書. てんとうむし, 10, 289-298.
- 岸田泰則 (編), 2011. 日本産蛾類標準図鑑 I, 167. 学習研究社.
- 阪上洸多・徳平拓朗・松尾隆人, 2017. 兵庫県カトカラ図鑑. きべりはむし, 39 (2):25-36.
- 高島 昭, 1995. 波賀町引原ダム周辺における蛾相 第 2 報. きべりはむし, 23(2): 10-23
- 高島 昭, 1999. 兵庫県のシャチホコガ (1) 兵庫県産蛾類分布資料・13. てんとうむし, 13:65-79.
- 高島 昭, 2000. 兵庫県のヨトウガ亜科 (兵庫県産蛾類分布資料・18). きべりはむし, 28(2):59-76.

- 高島 昭, 2002. 兵庫県のカラスヨトウ亜科 (その 1)
兵庫県産蛾類分布資料・24. きべりはむし,
30(1):80-93.
- 高島 昭, 2004. 兵庫県のシタバガ亜科 兵庫県産蛾類分
布資料・30. きべりはむし, 31(2):25-43.
- 高橋弘樹, 2022. 相生市「羅漢の里」公園で確認され
た蛾類の記録 (1) - 相生市三濃山麓の蛾 2020 -
2022 -. きべりはむし, 45(2):41-51.
- 坪田 瑛, 2021. 兵庫県で報告の少ないヤガ科について.
きべりはむし, 44(1):44-50
- 坪田 瑛・高橋輝男, 2021. 2021 年の東鉢伏高原に
おける注目すべき蛾類について. きべりはむし,
44(2):18-24
- 徳平拓朗, 2010. ホソバミツモンケンモンの兵庫県にお
ける記録. きべりはむし, 32(2):41.
- 那須義次, 広瀬俊哉, 岸田泰則 (編), 2013. 日本産蛾類
標準図鑑Ⅳ, 405. 学習研究社.
- 兵庫県, 2012. 兵庫の貴重な自然 兵庫県版レッドデータ
ブック 2012(昆虫類).
- 藤江隼平・吉田浩史・安達誠文・吉田貴大・旭 和也・
藤原淳一・安岡拓郎, 2011. 佐用町昆虫館周辺の昆
虫相 - マレーゼトラップで得られた甲虫目, 膜翅目,
双翅目およびライトトラップで得られた鱗翅目の昆
虫について -. きべりはむし, 33 (2):4-20.
- 八木 剛・中西明德・稲畑憲昭・杉野広一・植田義輔・
勝又千寿代・木全俊明・古賀督尉・高島 昭・谷口
登志夫・中濱春樹・福島秀毅・水野辰彦・森脇竹
男・山崎敏雄・吉田 武, 2003. 砥峰高原の昆虫相
-2002 年の昆虫調査から -(第一部). きべりはむし,
31(1):1-46
- 遊磨正秀, 1979. 宍粟郡波賀町引原ダムの蛾類について
(I). きべりはむし, 7(2):2-16
- YAMKEN の明石の蛾達, ミサキコミズメイガ. <http://yamken.jp/yam-hp3/misakikomizumeiga.html> (参
照 2022 年 10 月 10 日).



図1 ミサキコミズメイガ
2021.6.14



図2 サツマスズメ
2022.7.15



図3 タツタカモクメシャチホコ
2022.5.31 採集

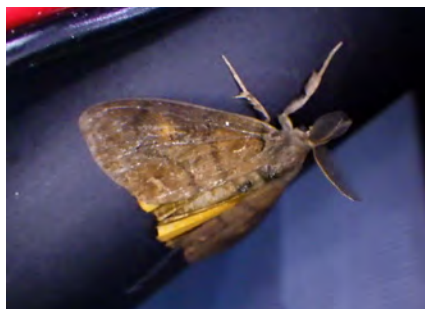


図4 ヤクシマドクガ
2021.6.14



図5 コシロオビドクガ
2022.9.3 採集

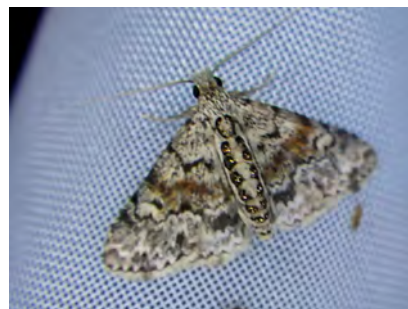


図6 センジモンアツバ
2021.7.10

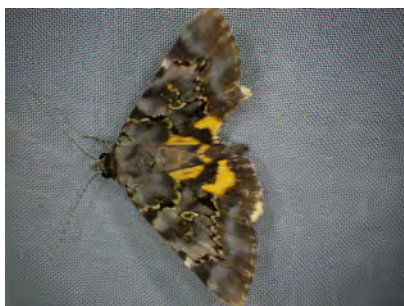


図7 ナマリキシタバ
2022.7.13



図8 ヒメシロシタバ
2022.9.3 採集

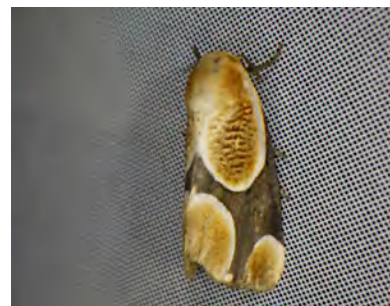


図9 ホソバミツモンケンモン
2022.8.5

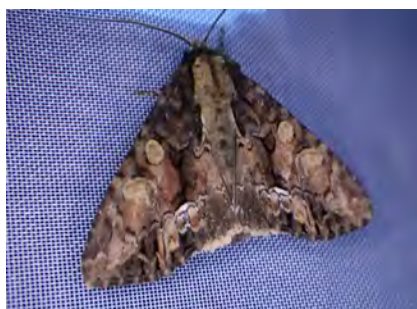


図10 エチゴハガタヨトウ
2021.9.6

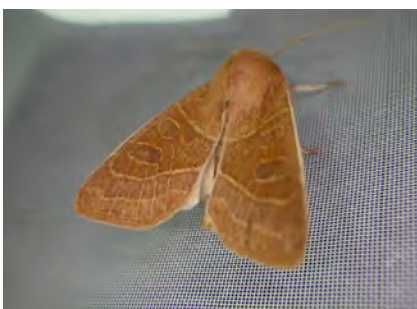


図11 ウスベニキリガ
2022.4.9



図12 エジチャイロヨトウ
2022.7.25



図13 モイロフサクビヨトウ
2022.9.17



図14 カバイロキヨトウ
2022.5.7



図15 ウスイロキヨトウ
2022.5.7

相生市「羅漢の里」公園で確認された蛾類の記録 (1)

- 相生市三濃山麓の蛾 2020 - 2022 -

高橋 弘樹¹⁾

はじめに

高島 昭氏は1989年から1997年にかけて相生市の北部、三濃山(509m)の山麓にある「羅漢の里」公園(相生市矢野町瓜生)で蛾類調査を行い、「相生市三濃山麓の蛾」(高島, 1996; 1998)で408種を報告している(筆者の集計による)。なお、この中に含まれているシャチホコガ科12種については、高島(1996)で種数のみ言及されており、詳細なデータは「兵庫県のシャチホコガ」(高島, 1999b; 2001)で報告されている。

筆者は高島氏による調査から23年が経過した2020年11月以降、同地で蛾類調査を行っているところであるが、ある程度情報が蓄積されてきたので中間報告としてシャクガ科以外の大蛾類について報告させていただく。なお、当地の気候や植生等については高島(1996)で詳しく述べられており、その後に大規模な地形改変等も行われていないため割愛する。

当地でも外灯のLED化が進んでいるが2022年9月時点ではまだ水銀灯が残っているため、調査方法は主にそれらのルッキングで、年間通して毎日のように行っている。晩秋～早春には杭や欄干、柵等もルッキングの対象とし、時折糖蜜採集も行った。ライトトラップも低頻度だが実施している。

虫体の記録はデジタルカメラでの撮影により行い、採集は保管スペースと費用の問題から最小限に留めた。従って撮影失敗や同定不可能なものも多く発生し、記録できていないものや報告を控えたものがあることをお断りしておく。画像データは筆者が保管している。

種の配列及び学名は神保宇嗣, 「List-MJ 日本産蛾類総目録 [version 3]」(βバージョン, 最終更新2021.06.03.)に従った。なお、高島(1996; 1998; 1999b; 2001)で報告されている種は学名の右に○を付すとともに、各科ごとに報告されている種数を科名の右の括弧内に記した。所属する科が変更されたものについては現在の科に含めている。

撮影者・採集者は全て筆者で、識別が容易な種に限って目撃記録も掲載している。また、種名の前には便宜上、

当地での確認リストとして科ごとに通し番号を付した。

各種資料

カギバガ科 (16)

< カギバガ亜科 >

1. マエキカギバ *Agnidra scabiosa* ○
1ex., 30. VI. 2022.; 1ex., 9. VII. 2022.
2. ヒメハイイロカギバ *Pseudalbara parvula* ○
1ex., 20. IV. 2021.; 1ex., 27. VII. 2022.; 1ex., 29. VIII. 2022.
3. ヤマトカギバ *Nordstromia japonica* ○
1ex., 20. IV. 2021.; 1ex., 6. X. 2021.; 1ex., 29. VIII. 2022.
4. *Tridrepana* 属の一種
2exs., 21. V. 2021.; 1ex., 21. VII. 2022.; 2exs., 29. VIII. 2022.
ウコンカギバと思われるが、筆者はヒメウコンカギバとの識別技術を持たないため同定を保留する。高島(1996)はウコンカギバを報告している。
5. フタテンシロカギバ *Ditrigona virgo* ○
1ex., 13. IV. 2021.
6. マダラカギバ *Callicilix abraxata*
1ex., 14. IX. 2021.(目撃); 1ex., 9. VI. 2022.(目撃)
7. ヒトツメカギバ *Auzata superba* ○
1ex., 21. V. 2021.; 4exs., 14. IX. 2021.(目撃)
8. ウスギヌカギバ *Macrocilix mysticata* ○
1ex., 30. III. 2022.; 1ex., 6. VIII. 2022.; 2exs., 5. X. 2022;
1ex., 12. XI. 2022.
9. スカシカギバ *Macrauzata maxima* ○
2exs., 4. VI. 2021.(目撃); 1ex., 16. X. 2021.
10. アシベニカギバ *Oreta pulchripes* ○
1ex., 24. V. 2021.; 1ex., 4. VII. 2022.

< オオカギバガ亜科 >

11. オオカギバ *Cyclidia substigmata*
1ex., 14. V. 2021.

< トガリバガ亜科 >

12. モントガリバ *Thyatira batis* ○
1ex., 15. IX. 2022.
13. オオアヤトガリバ *Habrosyne fraterna*

¹⁾ Hiroki TAKAHASHI 兵庫県相生市

1ex., 26. V. 2021.; 1ex., 7. X. 2021.

14. ホソトガリバ *Tethea octogesima* ○

1ex., 28. V. 2021.; 1ex., 8. VI. 2021.; 1ex., 20. VIII. 2022.

15. オオマエベントガリバ *Tethea consimilis* ○

1ex., 30. VIII. 2021. (目撃); 1ex., 26. IX. 2022.

16. サカハチトガリバ *Kurama mirabilis* ○

1ex., 24. III. 2021.

17. ムラサキトガリバ *Epipsestis ornata*

1ex., 6. X. 2021.; 2exs., 23. X. 2021. 1ex., 4. XI. 2022.

18. ホシボシトガリバ *Demopsestis punctigera* ○

1ex., 18. III. 2022; 1ex., 11. IV. 2022.

19. マユミトガリバ *Neoploca arctipennis*

2exs., 15. III. 2022.

アゲハモドキガ科 (2)

1. アゲハモドキ *Epicopeia hainesii* ○

1 ♂, 17. VI. 2022.; 1 ♂, 15. VIII. 2022.

2. キンモンガ *Psychostrophia melanargia* ○

1ex., 11. V. 2021.

ツバメガ科 (1)

< フタオガ亜科 >

1. クロホシフタオ *Dysaethria moza* ○

1ex., 2. VI. 2022.

2. クロオビシロフタオ *Oroplema plagifera*

1ex., 11. IV. 2022.; 1ex., 29. VIII. 2022.

カレハガ科 (2)

< マツカレハ亜科 >

1. マツカレハ *Dendrolimus spectabilis* ○

1 ♀, 3. IX. 2021.; 1 ♂, 21. VI. 2021.

2. クヌギカレハ *Kunugia undans*

1ex., 16. X. 2021. (目撃); 1 ♂, 2. XI. 2022.

3. ヤマダカレハ *Kunugia yamadai* (図 1)

1 ♂, 16. X. 2021.; 6exs., 23. X. 2021. (目撃); 1 ♂, 8. XI. 2022.

普段は個体数が少なく得にくい (岸田, 2011) ようだが, 2021 年は 10 月に計 27 頭を確認できた。

4. ウズミカレハ *Poecilocampa tamanukii* (図 2)

1 ♀, 10. XII. 2021.; 1 ♂, 20. XII. 2021.

2021 年 12 月から翌年 1 月に 6 頭を確認した。発生時期が遅いためか本県で報告のある市町は神戸市, 豊岡市 (高島, 1999a), 宝塚市 (宇野, 2019) くらいのようにだ。筆者は上郡町でも確認している。

5. オビカレハ *Malacosoma neustrium*

1 ♀, 2. VI. 2021.

オビガ科 (1)

1. オビガ *Apha aequalis* ○

1ex., 10. VIII. 2022.; 1ex., 13. IX. 2022.

カイコガ科 (0)

1. オオクワゴモドキ *Oberthueria falcigera*

1 ♂, 8. VII. 2022.; 1 ♂, 26. VIII. 2022.

ヤママユガ科 (3)

< ヤママユガ亜科 >

1. シンジュサン *Samia cynthia*

1 ♂, 14. VI. 2021.; 1ex., 19. VII. 2022. (目撃)

2. ヤママユ *Antheraea yamamai* ○

1 ♂, 21. VII. 2021.; 1 ♀, 24. VIII. 2022.

3. ヒメヤママユ *Rinaca jonasii*

1 ♂, 16. X. 2021.; 1 ♂, 1. XI. 2022.

4. オオミズアオ *Actias aliena* ○

1 ♂, 27. IV. 2021.; 1 ♂ 2exs., 3. VI. 2021.; 1 ♂, 8. VIII. 2022.

< エゾヨツメ亜科 >

5. エゾヨツメ *Aglaia japonica* ○

1 ♂, 11. III. 2021.; 1 ♂, 26. III. 2022.

イボタガ科 (1)

1. イボタガ *Brahmaea japonica* ○

1 ♂, 12. III. 2021.; 1 ♂, 31. III. 2022.

スズメガ科 (6)

< スズメガ亜科 >

1. エビガラスズメ *Agrius convolvuli*

1ex., 13. X. 2022.

2. メンガタスズメ *Acherontia styx* (図 3)

1ex., 8. VII. 2022.

2000 年以降, 県内での記録が激減している (池田・阪上, 2020). 筆者はたつの市新宮町光都でも確認している (高橋, 2022a).

3. エゾシモフリスズメ *Meganoton analis*

1 ♀, 27. VII. 2022.

4. シモフリスズメ *Psilogramma increta*

1 ♂, 8. VIII. 2022.

5. クロスズメ *Sphinx caliginea*

1 ♀, 14. IV. 2021.

6. サザナミスズメ *Dolbina tancrei* ○

1ex., 24. VI. 2022.; 1ex., 8. VIII. 2022.

< ウチスズメ亜科 >

7. セトウチホソバスズメ *Ambulyx tobii*

1 ♂, 28. V. 2021.; 1 ♀, 5. V. 2022.

8. モンホソバスズメ *Ambulyx schauffelbergeri* ○

1ex., 21. VII. 2022.

9. ホソバスズメ *Ambulyx ochracea*

1ex., 8. VIII. 2022.

10. トビイロスズメ *Clanis bilineata*

1ex., 1. VII. 2021.; 1ex., 1. VIII. 2022.

11. モモスズメ *Marumba gaschkewitschii*

1ex., 5. VI. 2021.; 1ex., 9. VII. 2021.

12. クチバスズメ *Marumba sperchius*

1 ♀, 27. VI. 2022.; 1ex., 1. VIII. 2022.

13. オオシモフリスズメ *Langia zenzeroides*

1 ♂, 29. III. 2021.; 2 ♀, 13. IV. 2022.

14. ウンモンズズメ *Callambulyx tatarinovii*

1ex., 10. V. 2021.

15. エゾスズメ *Phyllosphingia dissimilis* ○

1 ♀, 19. V. 2021.; 5exs., 24. VI. 2022. (目撃)

< ホウジャク亜科 >

16. クルマスズメ *Ampelophaga rubiginosa*

2exs., 15. VI. 2021.; 1ex., 8. VIII. 2022.

17. ハネナガブドウスズメ *Acosmeryx naga*

1ex., 25. XI. 2021.

18. ブドウスズメ *Acosmeryx castanea* ○

1ex., 18. V. 2021.; 1ex., 1. VII. 2022.

19. コスズメ *Theretra japonica* ○

1ex., 25. VII. 2022.; 1ex., 8. VIII. 2022.

20. ビロードスズメ *Rhagastis mongoliana*

1ex., 27. VI. 2022.

21. ミスジビロードスズメ *Rhagastis trilineata*

1ex., 30. VI. 2022.

シャチホコガ科 (20)

< ツマアカシャチホコ亜科 >

1. ツマアカシャチホコ *Clostera anachoreta*

1ex., 15. VI. 2021.

2. セグロシャチホコ *Clostera anastomosis*

1ex., 3. VIII. 2021.(目撃); 1ex., 9. VI. 2022.(目撃)

3. クワゴモドキシャチホコ *Gonoclostera timoniorum*

1 ♀, 12. IX. 2022.

< トビモンシャチホコ亜科 >

4. モンクロギンシャチホコ *Wilemanus bidentatus*

1 ♀, 26. VII. 2022.

5. ヘリスジシャチホコ *Neopheosia fasciata*

1ex., 8. V. 2021.; 1ex., 4. VII. 2022.

6. ホソバシャチホコ *Fentonia ocypte*

1 ♂, 8. V. 2021.; 1 ♀, 15. VI. 2021.; 1 ♂, 29. VIII. 2022

< ギンモンシャチホコ亜科 >

7. トビギンボシシャチホコ *Rosama ornata* ○

1 ♂, 15. VI. 2021.

8. ウスイロギンモンシャチホコ *Spatalia doerriesi* ○

1ex., 8. V. 2021.; 1ex., 27. VI. 2022.; 1ex., 29. VIII. 2022.

9. オオエグリシャチホコ *Pterostoma gigantium*

1ex., 23. IV. 2021.; 1ex., 8. VIII. 2022.

< ツマキシヤチホコ亜科 >

10. ムクツマキシヤチホコ *Phalera angustipennis*

1ex., 21. VII. 2021.; 1ex., 5. VIII. 2022.

11. ツマキシヤチホコ *Phalera assimilis* ○

1ex., 6. VIII. 2022.

12. モンクロシャチホコ *Phalera flavescens*

1ex., 5. VIII. 2021.; 1ex., 6. VIII. 2022.

13. ムラサキシヤチホコ *Uropyia meticulodina* ○

1 ♂, 8. V. 2021.; 1 ♂, 1. VIII. 2022.

14. クロシタシャチホコ *Mesophalera sigmata* ○

1 ♀, 6. IX. 2021.; 1ex., 31. V. 2022.

< ウチキシヤチホコ亜科 >

15. ホソバネグロシャチホコ *Disparia diluta*

1ex., 5. V. 2021.; 1 ♂, 19. VII. 2021.

16. バイバラシロシャチホコ *Cnethodonta grisescens* ○

1ex., 3. VI. 2021.; 1ex., 13. IV. 2022.

17. アオバシャチホコ *Zaranga permagna* ○

1ex., 11. V. 2021. (目撃); 1ex., 11. VIII. 2021. (目撃)

18. シャチホコガ *Stauropus fagi* ○

1ex., 16. VI. 2021

19. プライヤアオシャチホコ *Syntypistis pryeri* (図 4)

1ex., 27. VI. 2022.

深夜の外灯で1頭を確認した。普通種ではあるが県内での分布はやや特異的で、西播磨地域では宍粟市波賀町からのみ報告されている(高島, 1999b).

20. アオシャチホコ *Syntypistis japonica* ○

1ex., 17. V. 2021.; 1 ♂, 6. VII. 2022.

21. ギンシャチホコ *Harpyia umbrosa*

1ex., 21. VII. 2021.; 1ex., 29. VI. 2022. (目撃)

22. タカオシャチホコ *Hiradonta takaonis* ○

1ex., 28. VI. 2021.; 1 ♀, 16. IX. 2021.

23. カエデシャチホコ *Semidonta biloba*

1 ♂, 10. VI. 2022.

24. セダカシャチホコ *Euhamponia cristata* ○

1 ♀, 15. VI. 2021.; 1 ♀, 13. VII. 2022.

25. コトビモンシャチホコ *Drymonia japonica* ○

1ex., 3. VI. 2021.; 2exs., 23. VIII. 2022.

26. ノヒラトビモンシャチホコ *Drymonia basalis* ○

1ex., 30. III. 2021.; 1ex., 11. IV. 2022.

27. スズキシヤチホコ *Pheosiopsis cinerea* ○

1 ♂, 24. IV. 2021.; 1 ♂, 22. IV. 2022.

28. イシダシャチホコ *Peridea graeseri*

1 ♂, 6. IX. 2021.

29. アカネシャチホコ *Peridea lativitta*

1 ♀, 5. V. 2021.; 1 ♀, 18. IV. 2022.; 1 ♂, 6. VIII. 2022.

30. ルリモンシャチホコ *Peridea oberthueri* ○

1ex., 8. IX. 2021.; 2exs., 20. VIII. 2022.

31. クビワシャチホコ *Shaka atrovittatus*
1ex., 14. VI. 2021.; 1ex., 6. VIII. 2022.
32. ツマジロシャチホコ *Hexafrenum leucodera* ○
1 ♂, 22. V. 2021.; 1 ♂, 31. V. 2022.
33. プライヤエグリシャチホコ *Lophontesia pryeri*
1 ♂, 18. V. 2022.
34. スジエグリシャチホコ *Ptilodon hoegei*
1ex., 28. IV. 2021.

ドクガ科 (11)

1. スギドクガ *Calliteara argentata* ○
1 ♂, 5. V. 2021.
2. リンゴドクガ *Calliteara pseudabietis*
1 ♂, 20. IV. 2021.; 1 ♂, 16. VIII. 2022.
3. アカヒゲドクガ *Calliteara lunulata*
1 ♂, 28. IV. 2021.(目撃); 1 ♀, 25. VIII. 2022.
4. スズキドクガ *Calliteara conjuncta* ○
1 ♂, 31. V. 2021.
5. ブドウドクガ *Ilema eurydice*
1 ♂, 2. VIII. 2022.
6. ヒメシロモンドクガ *Orgyia thyellina*
1 ♀, 9. VI. 2021.; 1 ♂, 22. VII. 2022.
7. ヤクシマドクガ *Orgyia triangularis* (図 5)
1 ♂, 3. VI. 2021.; 1 ♂, 3. IX. 2021.
兵庫県 RDB(2012) に暖地性の蛾で個体数が少ないとある。筆者はたつの市と上郡町でも確認している (高橋, 2022b).
8. エルモンドクガ *Arctornis l-nigrum*
1ex., 22. VI. 2022.
9. スカシドクガ *Arctornis kumatai* ○
1ex., 24. VI. 2022.; 1ex., 13. IX. 2022.
10. ニワトコドクガ *Topomesoides jonassii* ○
1 ♀, 3. IX. 2021.; 1ex., 25. V. 2022.(目撃); 1 ♀ 1ex., 20. IX. 2022.
11. キアシドクガ *Ivela auripes* ○
1 ♂, 24. V. 2021.
12. シロオビドクガ *Numenes albofascia* ○
1 ♀, 16. VI. 2021.; 1 ♀, 2. IX. 2021.; 1 ♂, 20. IX. 2022.
13. マイマイガ *Lymantria dispar* ○
1 ♂, 20. VI. 2022.
14. ミノオマイマイ *Lymantria minomonis*
1 ♂, 15. VII. 2022.; 1 ♂, 25. VII. 2022.
15. バンタイマイマイ *Lymantria bantaizana* (図 6)
1 ♀, 20. VI. 2022.; 1 ♀, 26. VI. 2022.
本県では氷ノ山と宍粟市引原で記録がある (高島, 1995).
16. ハラアカマイマイ *Lymantria fumida* (図 7)
1 ♀, 25. VI. 2021.; 1 ♂, 22. VI. 2022.; 1 ♀, 30. VI. 2022.
食樹はモミ, カラマツで, 餌が不足するとアカマツも摂食する (岸田, 2011). 近隣では三日月町 (佐用町) で記録がある (川副, 1987).

17. カシワマイマイ *Lymantria mathura*
2 ♂, 24. VI. 2021.; 5 ♂, 24. VI. 2022.
18. ドクガ *Artaxa subflava*
2exs., 27. VII. 2022.
19. モンシロドクガ *Sphrageidus similis* ○
1ex., 4. VI. 2021.
20. ゴマフリドクガ *Somena pulverea* ○
1ex., 12. X. 2021.; 1ex., 1. VIII. 2022.; 2exs., 21. IX. 2022.

ヒトリガ科 (22)

< コケガ亜科 >

1. ヒメキホソバ *Dolgora cribrata*
1ex., 16. IV. 2021.; 1ex., 9. VII. 2022.
2. クビワウスグロホソバ *Macrobrochis staudingeri* ○
1ex., 21. V. 2021.; 1ex., 9. VII. 2022.(目撃)
3. キマエクロホソバ *Ghoria collitoides* ○
1ex., 26. V. 2021.; 1ex., 1. VII. 2022.
4. *Lithosia* 属の一種
5 ♂, 26. VI. 2022.; 5 ♂, 20. IX. 2022.
ヨツボシホソバまたはウンナンヨツボシホソバだが, 筆者は識別技術を持たないため同定を保留する。高島 (1998) はヨツボシホソバを報告している。
5. マエグロホソバ *Conilepia nigricosta* ○
3 ♂, 20. VI. 2022.; 7 ♂, 20. IX. 2022.
6. アカスジシロコケガ *Cyana hamata* ○
1 ♂, 30. V. 2021.; 4 ♂, 24. VIII. 2022.
7. ウスグロコケガ *Siccia obscura*
2exs., 8. VI. 2022.; 1ex., 4. VIII. 2022.; 1ex., 26. IX. 2022.
8. クシヒゲホシオビコケガ *Aemene altaica*
1ex., 6. V. 2021.; 2exs., 22. IX. 2021.; 2exs., 25. VIII. 2022.
高島 (1996) は 2 種に分離される前のホシオビコケガを報告している。
9. オオベニヘリコケガ *Melanaema venata* ○
1ex., 4. VI. 2021.; 1ex., 22. IX. 2022.
10. チャオビチビコケガ *Philenora latifasciata*
1ex., 18. V. 2021.
11. クロテンハイロコケガ *Eugoa grisea* ○
1ex., 30. V. 2021.(目撃); 2exs., 8. VIII. 2022.; 7exs., 13. X. 2022.
12. スカシコケガ *Nudaria ranruna*
1ex., 16. IV. 2021.; 1ex. 22. XI. 2021.(目撃); 1ex., 26. VI. 2022.
13. ウスバフタホシコケガ *Schistophleps bipuncta*
1ex., 1. VIII. 2022.; 3ex., 12. IX. 2022.; 3exs., 13. X. 2022.
14. ゴマダラキコケガ *Stigmatophora leacrita* ○
2exs., 26. VI. 2022.; 1ex., 30. VIII. 2022.
15. スジベニコケガ *Barsine striata* ○
2exs., 6. V. 2021.; 1ex., 12. VIII. 2022.
16. ハガタベニコケガ *Barsine aberrans* ○

2exs., 27. V. 2021.; 5exs., 8. VIII. 2022.; 1ex., 27. IX. 2022.

17. ベニヘリコケガ *Miltochrista miniata*

2exs., 24. V. 2021.; 1ex., 28. VII. 2022.

18. ヒメホシキコケガ *Lyclene dharma* ○

1ex., 8. VI. 2021.; 1ex., 17. VIII. 2022.

< ヒトリガ亜科 >

19. アカハラゴマダラヒトリ *Spilosoma punctarium* ○

1ex., 5. VII. 2022.

20. キハラゴマダラヒトリ *Spilosoma lubricipedium* ○

1ex., 28. IV. 2021.

21. アカヒトリ *Lemyra flammeola* ○

1ex., 22. VI. 2022.; 1ex., 20. IX. 2022.

22. クワゴマダラヒトリ *Lemyra imparilis*

1 ♂, 31. VIII. 2022.; 1 ♀, 6. IX. 2022.

アツバモドキガ科 (0)

1. ウスオビアツバモドキ *Mimachrostia fasciata*

1ex., 8. VIII. 2022.

コブガ科 (10)

< コブガ亜科 >

1. マエモンコブガ *Nola japonibia*

1ex., 10. V. 2021.

2. ニセオオコブガ *Meganola protogigas* ○

1ex., 3. VI. 2021.; 1ex., 23. VI. 2021.

3. モトグロコブガ *Meganola bryophilalis*

1ex., 17. V. 2021.; 1ex., 8. IX. 2022.

4. クロスジコブガ *Meganola fumosa*

1ex., 24. V. 2021.; 1ex., 21. IX. 2022.

5. イナズマコブガ *Meganola triangularis*

1ex., 31. V. 2021.; 1ex., 19. IV. 2022.; 1ex., 13. X. 2022.

< リンガ亜科 >

6. カマフリンガ *Macrochthonia fervens*

1ex., 31. V. 2021.; 1ex., 26. IX. 2022.

7. ミドリリンガ *Clethrophora distincta* ○

1ex., 1. VI. 2022.(目撃); 1ex., 16. VIII. 2022.; 1ex., 26. IX. 2022.

8. ツクシアオリンガ *Hylophilodes tsukusensis* ○

1 ♂, 5. V. 2022.; 1 ♀, 17. VI. 2022.; 1 ♀, 17. VIII. 2022.;
1 ♂, 20. IX. 2022.

9. アカスジアオリンガ *Pseudoips sylpha* ○

1ex., 8. VI. 2021.

10. マエシロモンキノカワガ *Nycteola costalis*

1ex., 12. III. 2022.

11. サラサリンガ *Camptoloma interioratum*

1ex., 24. VI. 2021.

12. *Gelastocera* 属の一種

1ex., 7. V. 2021.; 1ex., 19. IV. 2022.

アカオビリンガまたはクロオビリンガだが同定を保留する. 高

島 (1998) はクロオビリンガを報告している.

13. トビイロリンガ *Siglophora ferreilutea*

1 ♂, 15. V. 2021.; 1 ♀, 31. V. 2021.; 1ex., 3. X. 2022.

14. ギンボシリンガ *Ariolica argentea* ○

1ex., 26. IV. 2021.; 1ex., 3. VI. 2021.; 1ex., 11. X. 2022.

15. アミメリンガ *Sinna extrema* ○

1ex., 29. IX. 2022.

< ワタリンガ亜科 >

16. アカマエアオリンガ *Earias pudicana*

1ex., 8. V. 2021.

< キノカワガ亜科 >

17. キノカワガ *Blenina senex*

1ex., 8. XI. 2021.

< リュウキュウキノカワガ亜科 >

18. リュウキュウキノカワガ *Risoba prominens*

1ex., 20. VIII. 2021.

< ナンキンキノカワガ亜科 >

19. ナンキンキノカワガ *Gadirtha impingens*

1ex., 16. IV. 2021.

20. ネジロキノカワガ *Negritothripa hampsoni*

1ex., 11. VI. 2021.

ヤガ科 (117)

< テンクロアツバ亜科 >

1. テンクロアツバ *Rivula sericealis*

1ex. 19. V. 2021.; 1ex., 6. X. 2021.

< ムラサキアツバ亜科 >

2. ヨツモンムラサキアツバ *Diomea discisigna*

1ex., 21. VI. 2022.; 1ex., 29. VIII. 2022.

3. マエテンアツバ *Rhesala imparata* ○

1ex., 26. IX. 2022.

4. アトヘリヒトホシアツバ *Gesonja fallax*

1ex., 22. VII. 2022.; 1ex., 29. VIII. 2022.

< 亜科所属不明 >

5. ウラモンチビアツバ *Micreremites pyraloides*

1ex., 10. X. 2022.; 1ex., 13. XI. 2022.

6. クロテンカバアツバ *Anachrostis nigripunctali*

1ex., 27. VII. 2022.; 1ex., 31. VIII. 2022.

7. フタテンチビアツバ *Neachrostia bipuncta*

1ex., 14. VIII. 2022.; 4exs., 7. X. 2022.; 1ex., 3. XI. 2022.

< ホソコヤガ亜科 >

8. アヤホソコヤガ *Araeopteron amoenum*

1ex., 8. VIII. 2022.

< ベニコヤガ亜科 >

9. キスジコヤガ *Enispa luteofascialis*

1ex., 9. VI. 2022.; 1ex., 26. VIII. 2022.; 1ex., 20. IX. 2022.

10. シラホシコヤガ *Enispa bimaculata*

1ex., 29. VIII. 2022.

11. ハイイロコヤガ *Mataeomera yoshimotoi*

2exs., 8. VIII. 2022.; 2exs., 16. VIII. 2022.

12. クロハナコヤガ *Aventiola pusilla*

1ex., 17. VI. 2021.; 1ex., 28. IX. 2021.(目撃)

13. シマフコヤガ *Corgatha nitens*

1ex., 15. VIII. 2022.; 1ex., 24. VIII. 2022.

14. カバイロシマコヤガ *Corgatha argillacea* ○

1ex., 8. VIII. 2022.

15. ベニシマコヤガ *Corgatha pygmaea*

1ex., 22. VII. 2022.; 1ex., 8. VIII. 2022.

16. ベニエグリコヤガ *Holocryptis nymphula* (図 8)

2exs., 26. IX. 2022.; 1ex., 12. X. 2022.

本県での記録は 1954 年の市島町 (丹波市) (高島, 2003) と 2010 年の佐用町 (藤江ほか, 2011) のみのようだ. 筆者は上郡町と宍粟市でも確認している.

17. ヤマトコヤガ *Arasada ornata* ○

1ex., 21. V. 2021.(目撃); 1ex., 8. VIII. 2022.; 1ex., 10. X. 2022.

18. ヒメクルマコヤガ *Ataboruza divisa*

1ex., 8. IX. 2022.; 1ex., 20. IX. 2022.

19. ヨシノクルマコヤガ *Oruza yoshinoensis*

1ex., 25. VI. 2021.; 1ex., 22. IV. 2022.

20. モンシロクルマコヤガ *Oruza glaucotorna*

2exs., 21. IX. 2022.; 2exs., 26. IX. 2022.; 1ex., 10. X. 2022.

21. ウスキコヤガ *Oruza brunnea* ○

1ex., 30. V. 2021.; 2exs., 16. IX. 2021.(目撃); 6exs., 29. VIII. 2022.

< アツバ亜科 >

22. ナカジロアツバ *Harita belinda* ○

1ex., 11. IV. 2022.

23. キシタアツバ *Hypena claripennis*

1ex., 6. X. 2021.; 4exs., 20. IX. 2022.

24. クロキシタアツバ *Hypena amica* ○

1ex., 13. V. 2021.; 1ex., 15. IX. 2022.

25. タイワンキシタアツバ *Hypena trigonalis*

1ex., 20. V. 2022.; 1ex., 28. IX. 2022.; 1ex., 11. X. 2022.

26. ナミテンアツバ *Hypena strigata* (図 9)

1ex., 16. IX. 2022.

本県での記録は宝塚市 (宇野, 2020) と黒田庄町 (西脇市), 柏原町 (丹波市) の古い記録のみ (高島, 2004b) のようだ.

27. トビモンアツバ *Hypena indicatalis* ○

2exs., 12. III. 2022.

28. アオアツバ *Hypena subcyanea* (図 10)

1ex., 29. IV. 2021.

本県での記録は上郡町行頭 (高島, 2004b), 宝塚市 (宇野, 2020) のみでインターネット上の情報も少ないが, 当地と山続きである播磨科学公園都市周辺 (上郡町, たつの市等) ではライトトラップや常夜灯のある建物の外壁等でごく普通に見られる.

29. コテングアツバ *Hypena pulverulenta* (図 11)

1ex., 9. IV. 2022.; 1ex., 18. V. 2022.

高島 (2004b) で注目種とされている. 暖地性の蛾で, 県内では南部低山地で得られているが局地的である.

30. ヤマガタアツバ *Bomolocha stygiana* ○

1ex., 29. VIII. 2022.

31. ハングロアツバ *Bomolocha squalida*

1ex., 20. IV. 2021.

32. シラクモアツバ *Bomolocha zilla* ○

1ex., 8. VIII. 2022.

< カギアツバ亜科 >

33. ウスベニコヤガ *Sophta subrosea* ○

2exs., 17. V. 2021.; 2exs., 1. VIII. 2022.; 1ex., 11. X. 2022.

34. テンモンシマコヤガ *Sophta ruficeps* ○

1ex., 30. VI. 2022.; 3exs., 8. VIII. 2022.

35. チョウセンツマキリアツバ *Tamba corealis* ○

1ex., 3. VI. 2021.; 1ex., 29. VIII. 2022.; 4exs., 21. IX. 2022.

36. ウスベニツマキリアツバ *Tamba gensanalis*

1ex., 2. IX. 2021.; 1ex., 26. IX. 2022.

37. ソトハガタアツバ *Olulis puncticinctalis*

1ex., 15. IX. 2022.

38. ウスモイロアツバ *Olulis ayumiae* ○

2exs., 20. IX. 2022.; 1ex., 6. X. 2022.

39. ソトウスベニアツバ *Sarcopteron fasciatum*

1ex. 13. IV. 2021.; 1ex., 28. VII. 2022.; 1ex., 29. VIII. 2022.

40. ベニトガリアツバ *Naganoella timandra*

1ex., 1. VI. 2022.

41. ウスグロセニジモンアツバ *Paragona inchoata* ○

1ex., 25. IV. 2021.; 1ex., 4. VII. 2022.

42. セニジモンアツバ *Paragona cleorides* (図 12)

1ex. 31. V. 2021.; 1ex., 27. IX. 2022.

本県ではこれまで記録が見当たらなかった. 筆者は当地の他, たつの市, 上郡町, 宍粟市でも確認している (高橋, 2022b).

43. キマダラアツバ *Lophomilia polybapta* ○

1ex., 6. VII. 2022.

44. ニセミカドアツバ *Lophomilia takao*

1ex., 26. V. 2021.; 1ex., 26. IX. 2022.

45. トビフタスジアツバ *Leiostola mollis* ○

1ex., 22. VI. 2022.(目撃)

< ツマキリアツバ亜科 >

46. ウンモンツマキリアツバ *Pangrapta perturbans* ○

1ex., 27. VII. 2021.

47. ツマジロツマキリアツバ *Pangrapta lunulata* ○

1ex., 17. V. 2021.(目撃); 1ex., 1. VII. 2022.

48. リンゴツマキリアツバ *Pangrapta obscurata* ○

1ex., 3. VIII. 2022.

< クルマアツバ亜科 >

49. フジロアツバ *Adrapta notigera*

1ex., 20. VI. 2022.; 1ex., 6. VIII. 2022.

50. オオシラホシアツバ *Edessena hamada* ○

1 ♂, 29. VI. 2022.; 1 ♂, 8. VIII. 2022.

51. ヒメハナマガリアツバ *Hadennia nakatanii* ○

1 ex., 3. VI. 2021.; 1 ex., 29. VIII. 2022.; 1 ex., 21. IX. 2022.

52. ハナオイアツバ *Cidaripura gladiata*

1 ex., 8. IX. 2022.

53. ミスジアツバ *Paracolax trilinealis* ○

1 ex., 3. IX. 2021.; 1 ex., 29. VIII. 2022.

54. ニセミスジアツバ *Paracolax bilineata*

1 ex., 3. IX. 2021.; 1 ex., 29. VIII. 2022.; 1 ex., 26. IX. 2022.

55. シロテムムラサキアツバ *Paracolax pryeri* ○

1 ex., 29. VIII. 2022.; 1 ex., 1. IX. 2022.

56. ホソナミアツバ *Paracolax fentoni*

1 ex., 17. VI. 2021.; 1 ex., 8. IX. 2022.

57. ヒロオビウスグロアツバ *Hydrillodes morosa*

1 ex., 21. IX. 2022.

58. オオアカマエアツバ *Simplicia niphona* ○

1 ex., 12. X. 2022.

59. ニセアカマエアツバ *Simplicia xanthoma*

1 ♂, 26. IX. 2022.

60. ツマオビアツバ *Mesoplectra griselda* ○

1 ex., 4. VI. 2021.; 1 ex., 8. VII. 2021.; 1 ex., 28. IX. 2022.

61. ウスイロアツバ *Mesoplectra lilacina*

1 ex., 28. V. 2021.; 1 ex., 13. VIII. 2022.

62. キイロアツバ *Treitschkendia helva* ○

1 ex., 20. V. 2022.; 1 ex., 13. VIII. 2022.

63. クロスジアツバ *Herminia grisealis*

1 ex., 16. IX. 2021.; 1 ex., 6. IX. 2022.

64. トビスジアツバ *Herminia tarsicrinalis* ○

1 ex., 16. IX. 2022.

65. フシキアツバ *Herminia dolosa*

1 ex., 8. VIII. 2022.; 1 ex., 20. IX. 2022.

66. ムモンキイロアツバ *Stenhyphenia nigripuncta*

1 ex., 1. IX. 2022.

67. オオシラナミアツバ *Hipoepa fractalis* ○

1 ex., 24. VIII. 2022.; 1 ex., 21. IX. 2022.; 1 ex., 8. XI. 2022.

68. ミツオビキンアツバ *Sinarella aegrota*

1 ex., 27. VI. 2022.; 1 ex., 8. VII. 2022.; 1 ex., 29. VIII. 2022.

69. ネグロアツバ *Sinarella punctalis*

1 ex., 23. VI. 2021.; 1 ex., 29. VIII. 2022.; 1 ex., 20. IX. 2022.

70. ヒメクロアツバ *Sinarella rotundipennis*

1 ex., 8. IX. 2022.

71. シーモンアツバ *Sinarella c-album*

1 ex., 15. VII. 2021.; 1 ex., 6. V. 2022

< トモエガ亜科 >

72. オスグロトモエ *Spirama retorta*

1 ♂, 25. V. 2022.; 1 ♀, 2. VIII. 2022.

73. アカテンクチバ *Erygia apicalis*

1 ex., 15. V. 2021.(目撃); 1 ex., 12. VIII. 2021.(目撃)

< エグリバ亜科 >

74. オオエグリバ *Calyptra gruesa* ○

1 ex., 17. VI. 2021.; 2 exs., 29. VIII. 2022.

75. アカエグリバ *Oraesia excavata* ○

2 exs., 12. III. 2022.

76. アケビコノハ *Eudocima tyrannus* ○

1 ex., 20. XII. 2021.

77. ニジオビベニアツバ *Homodes vivida*

1 ex., 15. V. 2021.; 1 ex., 31. VIII. 2022.; 2 exs., 21. IX. 2022.

78. オオアカキリバ *Rusicada privata*

1 ex., 14. IV. 2022.

79. プライヤキリバ *Goniocraspidum pryeri* ○

10 exs., 12. III. 2021.; 2 exs., 2. VI. 2021.

< シタバガ亜科 >

80. ワモンキシタバ *Catocala xarippe*

1 ex., 14. VI. 2021.; 1 ex., 22. VI. 2022.

81. マメキシタバ *Catocala duplicata*

1 ♀, 30. VI. 2022.; 1 ex., 20. IX. 2022.

82. アサマキシタバ *Catocala streckeri* ○ (図 13)

1 ex., 17. V. 2021.; 1 ex., 15. VI. 2021.

2021 年に 15 頭, 2022 年に 2 頭を外灯で確認している.

83. ウスイロキシタバ *Catocala intacta* ○

1 ex., 12. VI. 2022.; 1 ♂, 25. VI. 2022.

高島 (1996) によると当地では個体数が多いとのことだが, 筆者は 2021 年と 2022 年の 6 月に計 4 頭を確認したのみである.

84. ジョナスキシタバ *Catocala jonasii* (図 14)

1 ex., 26. IX. 2022.

非常に損傷の激しい個体だが, 翅形と外横線から本種と判断した. 県内では西播北部, 但馬にかけての山地に多いが, 三日月町 (佐用町) や姫路市にも少ないながら分布を広げている (高島, 2004a). 筆者は上郡町でも確認している.

85. ナニワクビグロクチバ *Lygephila lilacina*

1 ex., 12. III. 2022.

86. モンムラサキクチバ *Ercheia umbrosa* ○

1 ex., 29. VIII. 2022.

87. ホソオビアシブトクチバ *Parallelia arctotaenia*

1 ex., 22. IX. 2021.

88. ウンモンクチバ *Mocis annetta* ○

1 ex., 29. VII. 2022.

89. ムクゲコノハ *Thyas junio*

1 ex., 20. VII. 2022.; 1 ex., 22. VII. 2022.

90. ムラサキヒメクチバ *Mecodina subviolacea* ○

1 ex., 1. VI. 2022.

91. シャクドウクチバ *Mecodina nubiferalis* ○

1 ex., 27. VII. 2022.; 4 exs., 29. VIII. 2022.

92. *Sypnoides* 属の一種

1 ex., 3. VI. 2021.

シラフクチバまたはクロシラフクチバだが同定を保留する. 高

島 (1996) は両種とも報告している。

93. アヤシラフクチバ *Sypnoides hercules*

2exs., 10. VI. 2021.; 1ex., 17. VI. 2022.

94. ハガタクチバ *Daddala lucilla*

1ex., 3. IX. 2021.; 1ex., 21. XI. 2021.

95. オオトウウスグロクチバ *Avitta fasciosa*

1ex., 20. IX. 2022

96. ルリモンクチバ *Lacera procellosa*

1ex., 8. XI. 2021.(目撃)

97. ウスムラサキクチバ *Ericeia pertendens*

1ex., 7. V. 2021.

< フサヤガ亜科 >

98. ニッコウフサヤガ *Atacira grabczewskii*

1ex., 23. VI. 2021.

< キンウワバ亜科 >

99. エゾギクキンウワバ *Ctenoplusia albostrata*

1ex., 25. VIII. 2022.; 1ex., 20. IX. 2022.

100. ミツモンキンウワバ *Ctenoplusia agnata*

1ex., 3. IX. 2021.; 1ex., 21. XI. 2021.; 2exs., 20. IX. 2022.

< スジコヤガ亜科 >

101. ヒメネジロコヤガ *Maliattha signifera*

1ex., 6. VIII. 2022.; 1ex., 17. VIII. 2022.

102. ネジロコヤガ *Maliattha chalcogramma*

1ex., 3. VI. 2021.

103. シロマダラコヤガ *Protodeltote distinguenda* ○

1ex., 30. V. 2021.

104. ウスシロフコヤガ *Sugia stygia* ○

1ex., 26. IX. 2022.

105. スジモンコヤガ *Microxylla confusa*

1ex., 5. X. 2021.(目撃)

106. ウスアオモンコヤガ *Bryophilina mollicula*

1ex., 26. V. 2021.; 1ex., 8. VIII. 2022.; 1ex., 21. IX. 2022.

107. ホシコヤガ *Ozarba punctigera*

1ex., 8. VIII. 2022.; 1ex., 1. IX. 2022.

< アオイガ亜科 >

108. マルモンシロガ *Sphragifera sigillata*

1ex., 29. VIII. 2022.

109. コマルモンシロガ *Sphragifera biplaga* ○

1ex., 7. V. 2021.; 3exs., 3. VI. 2021.(目撃); 1ex., 31. VIII. 2022.

< ウスベリケンモン亜科 >

110. フクラスズメ *Arcte coerula*

1ex., 11. V. 2021.; 1ex., 29. VII. 2022.(目撃)

111. コウスベリケンモン *Anacronicta caliginea*

1ex., 29. IV. 2021.

< ケンモンヤガ亜科 >

112. ゴマケンモン *Moma alpium* ○

1ex., 4. VI. 2021.; 1ex., 6. VIII. 2022.

113. キクビゴマケンモン *Moma kolthoffi*

1ex., 25. VI. 2022.; 1ex., 15. VIII. 2022.

114. シロフヒメケンモン *Gerbathodes paupera* ○

1ex., 20. VIII. 2021.; 1ex., 30. VIII. 2022.

115. オオケンモン *Acronicta major*

1ex., 28. VI. 2021.; 1ex., 30. VIII. 2021.

116. ナシケンモン *Acronicta rumicis* ○

1ex., 15. V. 2021.; 1ex., 12. VI. 2022.; 1ex., 13. VIII. 2022.

117. ウスイロケンモン *Thalatha japonica* (図 15)

1ex., 17. IX. 2021.; 1ex., 13. VIII. 2022.(目撃); 1ex., 6. IX. 2022.

県内の記録は市川町と朝来市のみだが, 市川町ではしばしば目撃されている(坪田, 2021). 播磨科学公園都市周辺(上郡町, たつの市新宮町など)でも目にする機会は多い。

118. シロフクロケンモン *Narcotica niveosparsa* ○

1ex. 16. VI. 2021.

< アミメケンモン亜科 >

119. アミメケンモン *Lophonycta confusa* ○

1ex., 17. V. 2021.; 2exs., 8. VIII. 2022.

< トラガ亜科 >

120. マイコトラガ *Maikona jezoensis* ○

1ex., 13. III. 2021.; 1ex., 15. III. 2021.

< カラスヨトウ亜科 >

121. オオシマカラスヨトウ *Amphipyra monolitha*

1ex., 8. VII. 2021.; 1ex., 12. X. 2022.; 1ex., 17. XI. 2022.

122. カラスヨトウ *Amphipyra livida*

1ex., 1. XI. 2021.; 1ex., 16. XI. 2022.

123. シロスジカラスヨトウ *Amphipyra tripartita* ○

1ex., 20. VIII. 2021.; 1ex., 25. VIII. 2022.

< モクメキリガ亜科 >

124. ホソバハガタヨトウ *Meganephria funesta*

1ex., 22. XII. 2021.

125. ミドリハガタヨトウ *Meganephria extensa*

1ex., 20. XII. 2021.; 1ex., 23. XII. 2021.

126. ケンモンミドリキリガ *Daseochaeta viridis*

1 ♂, 19. XI. 2020.; 3exs., 13. XI. 2021.(目撃); 2 ♂, 13. XI. 2022.

< ヒメヨトウ亜科 >

127. チャオビヨトウ *Niphonyx segregata*

1ex., 11. VI. 2021.; 1ex., 23. VIII. 2022.

128. マエホシヨトウ *Pyrrhidivalva sordida*

1ex., 21. IX. 2022.; 1ex., 26. IX. 2022.

129. モンオビヒメヨトウ *Dysmilichia gemella*

1ex., 8. IX. 2021.; 1ex., 21. IX. 2022.

130. オオホシミヨトウ *Condica illecta*

1ex., 8. IX. 2022.; 1ex., 27. X. 2022.; 2exs., 14. XI. 2022.

131. フタテンヒメヨトウ *Acosmetia biguttula* ○

1ex., 14. V. 2021.; 1ex., 15. IX. 2021.(目撃)

132. シロマダラヒメヨトウ *Iambia japonica*

2ex., 29. VI. 2022.

133. キクビヒメヨトウ *Prometopus flavicollis*
1ex., 17. V . 2021.; 1ex., 8. VIII . 2022.
＜ツマキリヨトウ亜科＞
134. マダラツマキリヨトウ *Callopietria repleta* ○
1ex., 2. VI . 2022.; 1ex., 29. VIII . 2022.
135. キスジツマキリヨトウ *Callopietria japonibia*
1ex., 29. VIII . 2022.; 1ex., 1. XI . 2022.
＜キノコヨトウ亜科＞
136. イチモジキノコヨトウ *Bryophila granitalis*
1ex., 10. IX . 2021.
137. キノコヨトウ *Cryphia mitsuhashi*
1ex., 8. IX . 2022.
138. ウンモンキノコヨトウ *Stenoloba manleyi*
1ex., 22. IX . 2022.
139. シロスジキノコヨトウ *Stenoloba jankowskii* ○
1ex., 24. VI . 2022.
＜キリガ亜科＞
140. ハスモンヨトウ *Spodoptera litura*
1ex., 14. XI . 2020.; 1ex., 15. IX . 2022.
141. スジキリヨトウ *Spodoptera depravata* ○
1ex., 7. V . 2021.; 1ex., 8. VII . 2022.; 2exs., 29. VIII . 2022.;
2exs., 10. X . 2022.
142. クロテンヨトウ *Athetis cinerascens* ○
1ex., 27. IV . 2021.
143. ヒメサビスジヨトウ *Athetis stellata* ○
1ex., 12. V . 2021.; 1ex., 8. IV . 2022.
144. クロモクメヨトウ *Dypterygia caliginosa*
1ex., 14. V . 2021.
145. コモクメヨトウ *Actinotia intermedia*
1ex., 20. IX . 2022.
146. マエグロシラオビアカガネヨトウ *Phlogophora albobittata*
1ex., 29. X . 2021.; 1ex., 7. I . 2022.; 1ex., 16. V . 2022.
147. ホソバミドリヨトウ *Euplexidia angusta*
1ex., 19. X . 2021.
148. ナカオビキリガ *Dryobotodes intermissa*
1ex., 4. XI . 2021.; 1ex., 25. XI . 2021.
149. ハネナガモクメキリガ *Xylota nihonica*
1ex., 2. XII . 2021.; 1ex., 12. II . 2022.
150. ヒロバモクメキリガ *Xylota changi*
1 ♂, 21. I . 2021.
151. キバラモクメキリガ *Xylota formosa* ○
1ex., 7. II . 2022.
152. ハンノキリガ *Lithophane ustulata* ○
1ex., 15. III . 2022.
153. カシワキボシキリガ *Lithophane pruinosa*
1ex., 8. XI . 2021.; 1ex., 4. XII . 2021.
154. サヌキキリガ *Elwesia sugii*
1 ♀, 7. XII . 2021.
155. ミツボシキリガ *Eupsilia tripunctata*
1ex., 15. III . 2022.(目撃); 1ex., 18. XI . 2022.
156. ヨスジノコメキリガ *Eupsilia quadrilinea*
1ex., 4. XII . 2021.; 1ex., 1. I . 2022.
157. チャマダラキリガ *Rhynchaglaea scitula*
1ex., 25. XI . 2021.; 1ex., 25. III . 2022.; 1ex., 1. XI . 2022.
158. スギタニモンキリガ *Sugitania lepida*
2exs., 4. XII . 2021.; 1ex., 23. II . 2022.
159. カシワオビキリガ *Conistra ardescens* ○
2exs., 4. XII . 2021.; 4exs., 12. III . 2022.
160. ミヤマオビキリガ *Conistra grisescens* ○
4exs., 12. III . 2022.
161. テンスジキリガ *Conistra fletcheri*
1ex., 26. III . 2022.; 1ex., 18. XI . 2022.
162. ホシオビキリガ *Conistra albipuncta*
1ex., 26. XI . 2021.; 1ex., 28. II . 2022.
163. ゴマダラキリガ *Conistra castaneofasciata*
1ex., 29. I . 2022.
164. ナワキリガ *Agrocholorta nawae* ○
1ex., 25. XI . 2021.; 1ex., 11. XII . 2021.
165. キトガリキリガ *Telorta edentata*
1ex. 29. X . 2021.; 1ex., 11. XII . 2021.(目撃)
166. ノコメトガリキリガ *Telorta divergens*
1ex., 29. XI . 2021.; 1ex., 20. XII . 2021.
167. アオバハガタヨトウ *Antivaleria viridimacula*
1ex., 21. XI . 2020.; 1ex., 10. XI . 2022.
168. ヘーネアオハガタヨトウ *Nyctycia hoenei*
1ex., 17. XI . 2021.; 1ex., 5. I . 2022.
169. ニレキリガ *Cosmia affinis*
1ex., 8. XI . 2021.
170. シラオビキリガ *Cosmia camptostigma*
1ex., 14. VI . 2021.
＜ヨトウガ亜科＞
171. ケンモンキリガ *Egira saxeae*
1 ♂, 22. IV . 2021.; 1 ♂, 6. IV . 2022.
172. マツキリガ *Panolis japonica*
1ex., 26. III . 2022.
173. スギタニキリガ *Perigrapha hoenei*
1 ♂, 16. II . 2021.; 1 ♂, 24. III . 2022.
174. スモモキリガ *Anorthoa munda* ○
1 ♂ 3exs., 12. III . 2022.
175. ホソバキリガ *Anorthoa angustipennis*
1ex., 23. II . 2021.; 1ex., 28. II . 2022.
176. カバキリガ *Orthosia evanida*
1ex., 21. II . 2021.; 1ex., 15. III . 2021.
177. カギモンキリガ *Orthosia nigromaculata*
1 ♀, 13. IV . 2021.; 1ex., 1. IV . 2022.

178. クロミキリガ *Orthosia lizetta*
1ex., 15. III. 2021.
179. クロテンキリガ *Orthosia fausta*
1ex., 5. III. 2022.
180. シロヘリキリガ *Orthosia limbata* ○
1ex., 1. III. 2021.; 1 ♂ 1 ♀, 12. III. 2022.
181. チャイロキリガ *Orthosia odiosa*
1ex., 19. III. 2021.; 7exs., 17. III. 2022.(目撃); 1ex., 19. IV. 2022.(目撃)
182. アカバキリガ *Orthosia carnipennis*
1ex., 21. III. 2022.(目撃)
183. ヨトウガ *Mamestra brassicae* ○
1ex., 17. IV. 2021.; 1ex., 22. IX. 2022.
184. フタスジヨトウ *Protomiselia bilinea* ○
1ex., 6. V. 2021.; 1ex., 22. VII. 2022.; 1ex., 29. VIII. 2022.
185. シロシタヨトウ *Sarcopolia illoba*
1ex., 6. V. 2021.; 1ex., 25. IV. 2022.; 1ex., 21. IX. 2022.
186. フタオビキヨトウ *Mythimna turca*
1ex., 30. IV. 2022.
187. クロテンキヨトウ *Mythimna chosenicola*
1ex., 29. IX. 2022.
188. クサシロキヨトウ *Mythimna loreyi*
1ex., 16. V. 2022.; 1ex., 18. V. 2022.
- ＜モンヤガ亜科＞
189. タマナヤガ *Agrotis ipsilon* ○
1ex., 29. X. 2021.
190. カブラヤガ *Agrotis segetum* ○
1ex., 19. IV. 2022.; 1ex., 8. VII. 2022.
191. オオバコヤガ *Diarsia canescens* ○
1ex., 6. X. 2021.; 1ex., 19. IV. 2022.; 1ex., 27. IX. 2022.

おわりに

以上, シャクガ科以外の大蛾類について 345 種の分布を確認できた。

年間通して満遍なく調査したこともあり, 種数は今回取り扱った全ての科で高島 (1996; 1998) を上回るか同数となっている。しかしながらヒトリガ亜科やモンヤガ亜科などは大きく種数を減らしている。なお, より詳細な比較は次報で行う予定である。

参考文献

- 池田大・阪上洗多, 2020. 兵庫県のスズメガ. きべりはむし, 43(2): 26-45.
- 宇野宏樹, 2019. 宝塚市の緑地公園で得られた蛾類の記録 I. きべりはむし, 42 (2): 32-39.
- 宇野宏樹, 2020. 宝塚市の緑地公園で得られた蛾類の記録 II. きべりはむし, 43 (1): 18-28.
- 川副昭人, 1987. 佐用郡三日月町蛾覚え書. てんとうむ

- し, 10: 289-298.
- 岸田泰則 (編), 2011. 日本産蛾類標準図鑑 II, 416pp. 学習研究社.
- 高島昭, 1995. 波賀町引原ダム周辺における蛾相 第 2 報. きべりはむし, 23 (2): 10-23.
- 高島昭, 1996. 相生市三濃山麓の蛾 (1) 兵庫県蛾類分布資料・4. きべりはむし, 24 (1): 27 - 39.
- 高島昭, 1998. 相生市三濃山麓の蛾 (2) 兵庫県産蛾類分布調査資料・10. きべりはむし, 26 (2): 59 - 64.
- 高島昭, 1999a. 兵庫県のカレハガ上科とカイコガ上科 兵庫県産蛾類分布資料・12. きべりはむし, 27 (1): 28 - 39.
- 高島昭, 1999b. 兵庫県のシャチホコガ (1) 兵庫県産蛾類分布資料・13. てんとうむし, 13: 65-79.
- 高島昭, 2001. 兵庫県のシャチホコガ (2) 兵庫県産蛾類分布資料・21 てんとうむし, 14: 61-76.
- 高島昭, 2003. 兵庫県のコヤガ亜科 兵庫県産蛾類分布資料・28 きべりはむし, 31 (1): 81-95.
- 高島昭, 2004a. 兵庫県のシタバガ亜科 兵庫県産蛾類分布資料・30. きべりはむし, 31 (2): 25-43.
- 高島昭, 2004b. 兵庫県のアツバ亜科 兵庫県産蛾類分布資料・31. きべりはむし, 31 (2): 44-55.
- 高橋弘樹, 2022a. 2021 年に西播磨地域で採集・撮影した注目すべき蛾類の記録. きべりはむし, 45 (1): 80-84.
- 高橋弘樹, 2022b. 2021 年～2022 年に西播磨地域で採集・撮影した注目すべき蛾類の記録. きべりはむし, 45(2): 36-40
- 坪田瑛, 2021. 兵庫県で報告の少ないヤガ科について. きべりはむし, 44(1): 44-50
- 兵庫県, 2012. 兵庫の貴重な自然 兵庫県版レッドデータブック 2012(昆虫類).
- 藤江隼平・吉田浩史・安達誠文・吉田貴大・旭 和也・藤原淳一・安岡拓郎, 2011. 佐用町昆虫館周辺の昆虫相 - マレーゼトラップで得られた甲虫目, 膜翅目, 双翅目およびライトトラップで得られた鱗翅目の昆虫について -. きべりはむし, 33 (2): 4-20.



図 1 ヤマダカレハ
2021.10.16



図 2 ウスズミカレハ
2021.12.10 採集 (上)、2021.12.20 採集 (下)

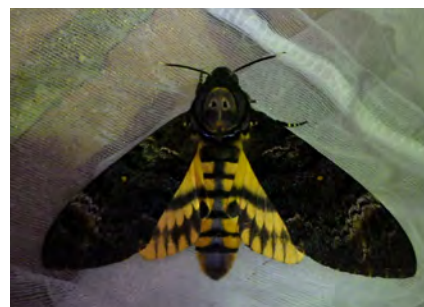


図 3 メンガタスズメ
2022.7.8



図 4 プライヤアオシャチホコ
2022.6.27



図 5 ヤクシマドクガ
2021.9.3 採集



図 6 バンタイマイマイ
2022.6.20



図 7 ハラアカマイマイ
2022.6.22(左)、2022.6.30(右)



図 8 ベニエグリコヤガ
2022.10.12



図 9 ナミテンアツバ
2022.9.16

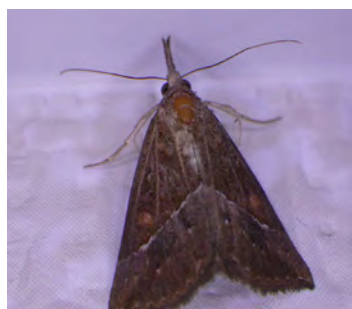


図 10 アオアツバ
2021.4.29

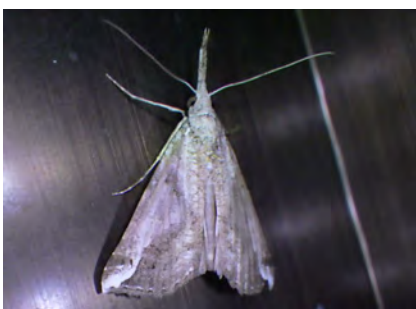


図 11 コテングアツバ
2022.5.18

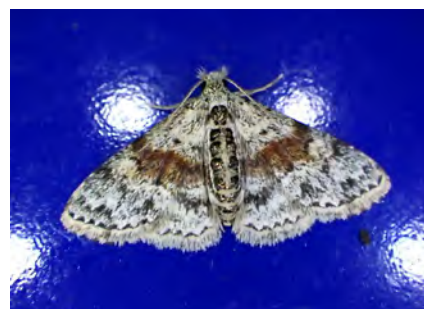


図 12 センジモンアツバ
2021.5.31



図 13 アサマキシタバ
2021.5.17



図 14 ジョナスキシタバ
2022.9.26

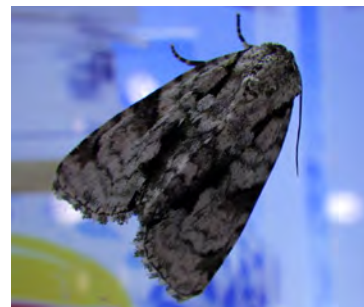


図 15 ウスイロケンモン
2021.9.17

ベニイカリモンガの兵庫県からの記録と大阪府での追加記録

植田 義輔¹⁾

1. はじめにーベニイカリモンガの本州での分布拡大ー

ベニイカリモンガ *Callidula attenuata* (Moore, 1879) は従来、国内では四国と九州の南部・五島列島福江島・種子島・屋久島・奄美大島・沖縄本島・石垣島・西表島に分布し(井上, 1982), 本州には分布していなかったが, 2003年に奈良県吉野郡川上村において記録された(植田・有本, 2004). その後, 本州からの記録は途絶えていたが, 2010年代に入って中国地方での記録が相次いだ. 文献記録について, 県ごとに初出の記録を挙げると, 2011年に広島県(福永・清水, 2014), 2012年に山口県(徳永, 2013), 2019年に岡山県(山田, 2019), 2021年に島根県(野津, 2022)となっている. 近畿地方では, 2016年に大阪府(春澤, 2017; 高群, 2019)で記録され, 2019年に奈良県(幸田, 2019)で再記録されている.

2. 兵庫県における記録

これまでベニイカリモンガの記録がないと思われる兵庫県において, 本種が確認されたので報告する.

〈データ〉

- ・1ex. (図1), 兵庫県佐用郡佐用町船越, 標高約230m, 19.X. 2019, 山内裕月採集.
- ・1ex. (図2), 同上, 9.X. 2021, 石川元貴採集.



図1. 佐用町昆虫館で採集されたイカリモンガ類 (2019年10月19日: 八木剛氏撮影). 左側がベニイカリモンガ.



図2. 佐用町昆虫館で採集されたイカリモンガ類 (2021年10月9日: 八木剛氏撮影). 右側がベニイカリモンガ.

¹⁾Yoshisuke UEDA 大阪府枚方市

解明することが挙げられる。また、本種は分布を拡大しつつある種であるため、佐用町はもとより、兵庫県における生息状況の変化に注目していくことが望まれる。

3. 大阪府における追加記録

大阪府におけるベニイカリモンガの文献記録は、2016年に千早赤阪村（春澤，2017；高群，2019），2020年に貝塚市（岩崎，2020），同じく2020年に堺市（徳原，2021）があり、いずれも大阪府南部の記録である。このほか、インターネット上では四條畷市で撮影された本種が掲載されているが、北部地域での文献記録は見当たらなかった。この度、筆者は大阪府北部の枚方市で本種を確認したので報告する。

〈データ〉

1ex. (図3)，大阪府枚方市穂谷，標高約220m，30.V.2021，筆者採集・保管。

枚方市の穂谷地区は、生駒山地の北端にあたる丘陵地である。落葉広葉樹林が卓越し、水田や畑がモザイク状に立地している。ベニイカリモンガの採集地点はモウソウチク林で、やや薄暗い環境であった。この竹林の林床植生は、丈の低いアオキや、シダ類がまばらに生育している程度で貧弱であった。採集個体は、地表から1m程度の高さを緩やかに飛翔していた。

なお、採集個体は翅の欠損や鱗粉の脱落が見られない新鮮な個体であり、遠方から飛来した個体ではなく、この周辺で発生した個体の可能性があると推測された。本種の寄主植物として、リュウビンタイ・ホウビカンジュ・イワヒトデ・オオイワヒトデが挙げられているが（岸田，2011），枚方市を含む北河内地域にこれらの分布記録は無い（北河内自然愛好会（編），2004）。ただし、飼育下では、オニヤブソテツ・クマワラビ・イノモトソウ・イシカグマ・ゼンマイを与えても摂食する（林，2009）とされており、ここでは、これらのシダ類を寄主植物として利用している可能性が考えられる。

今後の課題としては、当地に本種が定着しているのかどうかを明らかにすることが挙げられる。また、大阪府における生息状況の変化に注目していくことが望まれる。

謝辞

佐用町昆虫館においてイカリモンガ類を採集し、標本を残された昆虫館キッズスタッフの山内裕月君と石川元貴君、彼らの採集記録を提供していただき、報告を勧められた兵庫県立人と自然の博物館の八木剛氏、文献の閲覧にお取り計らい下さった元・大阪市立自然史博物館の初宿成彦氏、奈良県の文献をご恵与下さった元・大阪市立自然史博物館の宮武頼夫氏、和歌山県の文献を調査



図3. 大阪府枚方市で採集されたベニイカリモンガ(2021年5月30日)。

していただいた和歌山県立自然博物館の松野茂富氏と熊谷直子氏、岸和田市の文献を調査して頂いた、きしわだ自然資料館の平田慎一郎氏、文献調査にご協力いただいた日本蛾類学会の枝恵太郎氏、以上の方々に厚く御礼申し上げます。

引用文献

- 福永みちる・清水健一，2014. ベニイカリモンガの発見. 広島虫の会会報，(53)：73.
- 春澤圭太郎，2017. 大阪府南部の昆虫相の記録～補遺～. 南大阪の昆虫，19(2)：18-37.
- 林 悦子，2009. ベニイカリモンガの新食草. 蛾類通信，(253)：65-66.
- 井上 寛，1982. イカリモンガ科. 井上寛ほか，日本産蛾類大図鑑，1：579，2：312，pl 110. 講談社，東京.
- 岩崎 拓，2020. イカリモンガとベニイカリモンガ. 自然遊学館だより，(97)：10-11.
- 岸田泰則，2011. イカリモンガ科. 岸田泰則（編），日本産蛾類標準図鑑，1：112. 学研教育出版，東京.
- 北河内自然愛好会（編），2004. 北河内植物目録. 北河内自然愛好会，大東，150pp.
- 幸田保雄，2019. 明日香村祝戸地区公園でベニイカリモンガを観察. ならがしわ，(194)：1.
- 野津幸夫，2022. 島根半島でベニイカリモンガを採集. すかしば，(69)：36-37.
- 高群哲也，2019. 本州では稀少な蛾の採捕について. 南大阪の昆虫，21(2)：37.
- 徳原一浩，2021. 堺市でベニイカリモンガを発見. 南大阪の昆虫，23(1)：5.
- 徳永浩之，2013. 山口県におけるベニイカリモンガの初記録. 豊田ホテルの里ミュージアム研究報告書，(5)：53-54.
- 植田義輔・有本 智，2004. ベニイカリモンガの本州からの記録. 月刊むし，(400)：55-56.
- 山田 勝，2019. 岡山市東区瀬戸町でベニイカリモンガを確認. しぜんしくらしき，(111)：6.

兵庫県のムシヒキアブ (Diptera: Asilidae) 相の解明に向けて —上郡町で記録したムシヒキアブ, ならびにオタネガワイシアブの記録—

大貝 秀雄¹⁾

ムシヒキアブは葉先などに静止して獲物を待つ習性を持ち、双翅目としては大型で、目につきやすい昆虫であるにもかかわらず、既存の図鑑類で同定可能な種は限られている。また多くの未記載種が残されているらしく、アマチュアにとっては意外に難易度の高いグループであり、それだけに興味深い。吉田ら (2009) は、兵庫県立人と自然の博物館と大阪市立自然史博物館の収蔵標本を中心に調査して、兵庫県に 32 種のムシヒキアブ科昆虫が分布することを報告した。しかし、近隣府県で記録された種で兵庫県未記録のものも少なからず存在し、また、吉田らによれば、兵庫県内の調査地点には大きな偏りが認められたという。

兵庫県の西端に位置する上郡町には著名な採集ポイントがないためか、吉田らの報告中にも、上郡町からのムシヒキアブの記録は皆無であった。筆者は、自身の居住する上郡町でムシヒキアブを重点的に調査した結果、以下に示す 21 種を確認することができた。しかも、そのうち 4 種 (うち 2 種は未記載種) は兵庫県で記録のない種であることがわかった。これにより、上郡町におけるムシヒキアブ相は、ほぼ解明されたものと思われる。

さらに兵庫県未記録の別の 1 種を宍粟市で採集しているので、これも併せて報告しておきたい。以上を総合すると、兵庫県に分布するムシヒキアブは 5 種追加されて、37 種 (うち未記載または国内未記録種は 3) となる。

以下に亜科別の採集記録を示すが、名称ならびに配列は、原則として日本昆虫目録に従った。上郡町内で採集 (確認) された記録の産地名では「上郡町」を省略した。従って単に「上郡」とある場合は上郡町上郡であることを示す。また「高田台」の記録は大貝 (2018) による。すべての試料は筆者が採集・標本保管している。

上郡町のムシヒキアブ科 イシアブ亜科 Laphrinae

1. イッシキイシアブ *Choerades issikii* (Matsumura, 1916)
小野豆; 2 ♂, 13.VII.2015. 1 ♂, 10.VIII.2015. 金出地; 1 ♂, 7.VII.2022.

比較的山地性の種と思われ、上郡町では平地部の産地は未知である。

2. ヒメキンイシアブ *Choerades japonicus* (Matsumura, 1931)
与井; 1 ♂, 9.VIII.2018. 小野豆; 1 ♂, 24.VIII.2015, 1 ♀, 2 IX.2015, 1 ♂, 20.VIII.2016, 1 ♀, 27.VIII.2018. 旭日; 1 ♀, 11.VIII.2018, 2 ♀, 13.VIII.2018, 1 ♀, 26.VIII.2019, 1 ♀, 17.VII.2022. 金出地; 1 ♂ 1 ♀, 27.IX.2021.

盛夏から初秋まで、上郡町の里山では最もよくみられるイシアブである。

3. コムライイシアブ *Choerades komurae* (Matsumura, 1911)
与井; 1 ♀, 9.VIII.2018. 小野豆; 1 ♀, 5.V.2017. 旭日; 1 ♂, 17.VI.2021. 金出地; 1 ♂ 1 ♀, 27.V.2020.

平地から低山地で 5-6 月に記録が多いが、8 月にも採集されており、二化性であるのかもしれない。

4. クロスジイシアブ *Choerades nigrovittata* (Matsumura, 1916)
小野豆; 1 ♂, 12.IV.2022. 金出地; 1 ♂, 7.V.2022.

筆者は、この種を夏季のイシアブだとの先入観を持っていたが、手許の標本はすべて、他地域のものも含め、春季に得られたものである。胸背の黒条により、野外においても一見で同定可能である。

5. (ケブカトゲオイシアブ) *Choerades* sp. A (図 1)
与井新; 1 ♀, 2.VI.2017. 上郡 鈴の宮公園; 1 ♀, 2.V.2017, 1 ♂ 1 ♀, 8.V.2017, 1 ♂, 11.V.2017 (図 1a,b). 山野里; 1 ♂, 7.VI.2022. 白旗山; 1 ♂, 23.V.2021.

田川ら (2000) が愛媛県小田深山で記録した *Choerades* sp. 2, 及び、春沢ら (2003) が高知・愛媛の両県で記録し、♂第 7 腹背板の略図を示した *Choerades* sp. 3 (仮称, ケブカトゲオイシアブ) に該当する可能性が高い。春沢ら (2003) は、胸背と腹背の被毛が黄色系のものと白色のもの 2 型があるとしているが、上郡産の個体にもそれら両型が認められた。♂は 4 例中 3 例、♀は 3 例すべてが黄色型であった。

¹⁾ Hideo OGAI 兵庫県上郡町

これは兵庫県で初めて記録される種である。広葉樹の二次林を分けて進む明るい尾根道沿いの、地表からの高さ 2m ほどの樹梢で見られる場合が多い。

6. (トゲオイシアブ) *Choerades* sp. B (図 2)

旭日; 1 ♂, 11.VIII.2018 (図 2a,b). 1 ♂, 1 ♀ 13.VIII.2018, 1 ♀, 13.VIII.2019. 野桑 白旗山登山路; 1 ♂, 3.VIII.2022.

田川ら (2000) が愛媛県小田深山で記録した *Choerades* sp. 1, 及び春沢ら (2003) が愛媛県内各地で記録し, ♂第 7 腹背板の略図を示した *Choerades* sp. 4 (仮称, トゲオイシアブ) に該当するものと想定される。

本種も兵庫県初記録になるが, 生息環境は前種と異なり, スギなどの植林地に沿った未舗装の小道で, 路面が常に湿潤である所の地表近くで見られた。

7. オオイシアブ *Laphria rufa* von Roder, 1887

西野山; 1 ♀, 23.V.2015. 小野豆; 1 ♂, 17.V.2019. 上郡 鈴の宮公園; 1 ♂, 8.V.2017, 1 ♂, 11.V.2017, 1 ♂, 6.VI.2017.

典型的な *rufa* は, 胸部と腹部の大半が赤褐色毛で被われるとされ, 上郡でも, この特徴を持つ標本が得られている。一方, 同所的に腹端部のみに赤褐色毛を有するものが採集されており, 従来このタイプには *Laphria mitsukurii* Coquillett, 1899 があてられることが多かった。しかし中間的な特徴を示す個体もしばしば得られるので,

少なくとも上郡町に棲息する *Laphria* は単一種と判断し, これを *rufa* とした。 *mitsukurii* は *rufa* のシノニムとされるべきものであろうと筆者は考えている。

8. カタナクチイシアブ *Mactea matsumurai* Hradsky et Geller-Grimm, 2003 (図 3)

岩木乙; 1 ♀, 2.VII.2022. 旭日; 1 ♂, 15.VIII.2022 (図 3).

兵庫県では初記録になるかと思われる。岡山県では 2019 年版の野生動植物目録で初めて収録されたが, 県南部で普通に見られるとされる。 *Choerades* 属の種とまぎらわしく地味なイシアブなので従来見過ごされる場合も多かったかも知れず, 今後は兵庫県でも南部の平地や低山地で新産地が発見されることが期待される。

9. トゲツヤイシアブ *Pogonosoma funebre* (Hermann, 1914)

金出地; 1 ♂, 9.IX.2022.

口吻の特異な形状から, トゲツヤヘラクチイシアブと称されることもある。上郡町と隣接する相生市, 佐用町からも記録されており, 数は多くないが広く分布していると推測される。

アシナガムシヒキ亜科 Dasypogoninae

10. アシナガムシヒキ *Molobratia japonica* (Bigot, 1878)

与井新; 1 ♂, 23.V.2015.

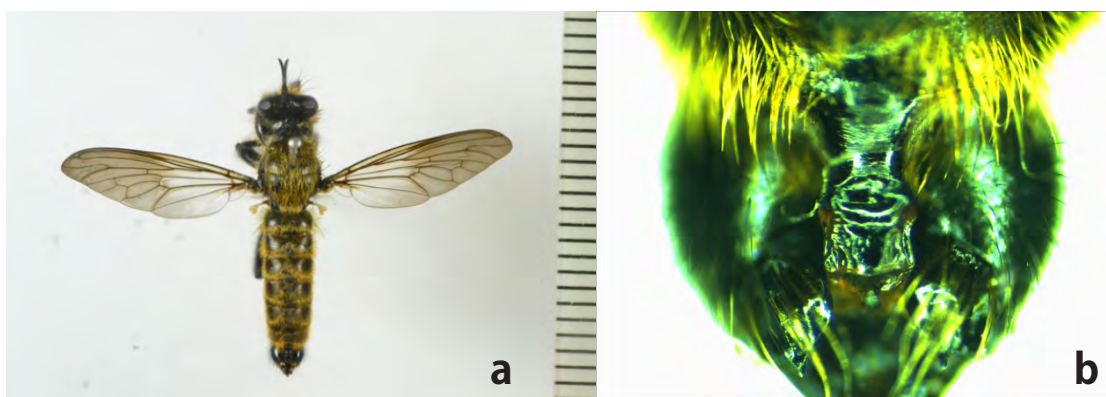


図 1: ケブカトゲオイシアブ♂. a 全形 (背面), b 腹部末端 (背面).

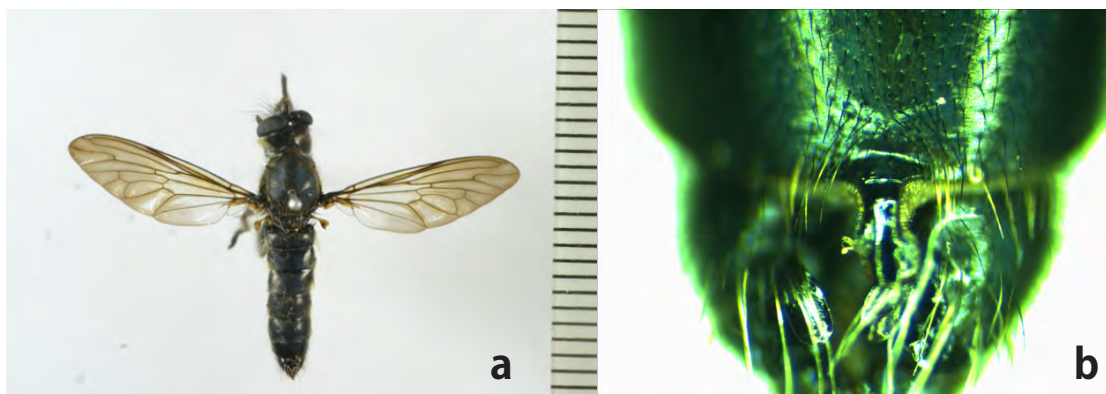


図 2: トゲオイシアブ♂. a 全形 (背面), b 腹部末端 (背面).



図3：カタナクチイシアブ♂. 全形（背面）



図4：ホソムシヒキ♂. 全形（背面）.



図5：オタネガワイシアブ♂. 全形（背面）.

県内では記録の乏しい種であるようだが、筆者も上郡町では上記の1例を確認したのみである。ただ、標高850mの宍粟市千種町西河内でも筆者は1♀を採集しており(2.VIII.2022), 山地でも開けた土地では広く分布している可能性がある。

11. サッポロアシナガムシヒキ *Molobratia sapporensis* (Matsumura, 1916)

西野山; 1♂, 8.VI.2022.

前種の採集地点とは至近のポイントで得られた。本種の採集地は、古墳群のある小さな丘の東側の山裾で、前種はその西側の山裾であった。小さな丘の林内に近縁の両種が共存していることになり、非常に興味深い事例である。また通常山地に棲息するとされる本種が標高30m未満の西野山で得られたことも注目に値する。

Stenopogoninae

12. ハラボソムシヒキ *Dioctria nakanensis* Matsumura, 1916

与井; 1♀, 13.VI.2018, 上郡 鈴の宮公園; 1♀, 15.V.2021.

西日本では、本亜科で最も普通に見られる種である。上郡町では里山で得られている。

ホソムシヒキ亜科 Leptogastrinae

13. ホソムシヒキ *Leptogaster basilaris* Coquillett, 1898 (図4)

金出地; 1♀, 11.VII.2022

本種も兵庫県初記録になるとされる。樹高6~7mのシダレザクラの樹冠をすくって得られた。翅・触角や体色の特徴から本種であることを確認した。

なお、本亜科に属するものを他に少なくとも2種、上郡町内で採集しているが、既知種の♂の特徴とは合致せず、また本亜科の個体の多くは♀では同定不能である。このことは、いずれも未記載のケブカトゲオイシアブとトゲオイシアブを上郡産として今回報告することと矛盾するようだが、本亜科のこれら不明種を上郡のムシヒキアブ相の成員にカウントすることは、現時点では避けておきたい。

クシヒゲムシヒキ亜科 Ommatiinae

14. (アオメアブ) *Cophinopoda oldroydi* Tsacas et Artigas, 1994

高田台; 1♀, 31.VII.2005, 1♀, 2.VII.2006, 1♂, 28.VII.2007. 金出地; 1♂, 22.VII.2020.

日本昆虫目録では、日本本土域のものに表記の学名を適用し、従来その学名として用いられてきた *Cophinopoda chinensis* (Fabricius, 1794) は国内では琉球列島産のものに限定されるとした。しかし、沖縄本島産の標本(筆者蔵)と比較して、その相違は軽微であり、*oldroydi* を独立種とする根拠は乏しいように思われる。また、両者を別種とする場合でも、松村(1916)以来の扱いに従い、和名アオメアブは本土産のものに当てるのが正しい措置ではないだろうか。上郡では千種川とその支流域を中心に、河川敷などで普通に見られる。

シオヤアブ亜科 Apoelinae

15. シオヤアブ *Promachus yesonicus* Bigot, 1887

高田台; 1♂, 28.VI.2003, 1♀, 24.VIII.2003, 1♀, 16.VII.2005, 1♀, 2.VII.2006, 1♂ 1♀, 17.VI.2016. 金出地; 1♂ 1♀, 18.VII.2020.

日本に棲息する Diptera 中では, 最も獐猛なハンターではないかと思われる。筆者は沖縄本島で同種の♂を捕食する本種♂を見たことがある。

ムシヒキアブ亜科 Asillinae

16. トラフムシヒキ *Astochia virgatipes* (Coquillett, 1898)

与井新 千種川河川敷; 1 ♀, 23.VIII.2022. 上郡 鞍居川河川敷; 1 ♂, 8.VII.2020.

2 例はともに, オニグルミの木陰に繁茂するササ類をテリトリーとしていた。本属の種は, その発生に河川や海浜の砂地を要求するものと思われるが, そのような環境の消失にともない, 全国的に減少傾向の強い種である。本種は上郡でも, かつては広く分布していた可能性が高いが, 2009 年の水害後に千種川が大規模な河川改修を受けた結果, 壊滅的な影響を受けたと思われる。今後の動向を注視したい。

17. チャイロムシヒキ *Eutolmus brevistylus* (Coquillett, 1898)

高田台; 2 ♀, 29.VI.2003, 1 ♀, 3.VII.2004, 1 ♂, 23.VI.2007.

必ずしも普通に見られる種ではないが, 筆者の自宅では, しばしば採集された。

18. ウスグロムシヒキ *Eutolmus rufiburbis* (Meigen, 1820)

高田台 古墳公園; 1 ♀, 8.VII.2018. 与井 北部; 1 ♀, 20.VII.2020. 小野豆; 1 ♀, 13.VII.2015.

同属の *brevistylus* とは, 脛節とふ節が黒いこと, 体毛の褐色味が乏しい点などで区別される。

19. サキグロムシヒキ *Machimus scutellaris* (Coquillett, 1898)

小野豆; 1 ♀, 13.VII.2015. 旭日; 1 ♀, 13.VIII.2019. 行頭; 1 ♂, 1.VII.2020. 与井; 1 ♀, 21.VII.2021.

やや山地で見られ, 平地では少ない。

20. ナミマガリケムシヒキ *Neoitamus angusticornis* (Loew, 1858)

高田台; 1 ♀, 5.V.2003, 1 ♀, 10.V.2003, 1 ♂, 30.IV.2004, 1 ♀, 6.VI.2004, 1 ♂, 27.V.2006. 与井新; 1 ♀, 19.V.2018.

同属の種は, 未記載種も含め, 国内から多く報告されている。上郡産の個体は, 記録に残していない多数を検したが, これまで確認したものは, すべて本種であった。

21. ヒサマツムシヒキ *Tolmerus hisamatsui* Tagawa, 1981

高田台; 1 ♀, 28.VIII.2004, 1 ♀, 12.IX.2015. 小野豆; 1 ♂ 3 ♀, 15.VIII.2015, 1 ♂, 14.IX.2015, 1 ♂, 7.X.2015. 金出地; 1 ♂ 3 ♀, 5.IX.2021.

西日本では平地から山地まで普通に見られ, 盛夏に出現して秋半ばまで活動する。晩秋に現れる *Grypocetus* 属のいない上郡町で, 本種は最も遅くまで見られるムシヒキアブである。必ず頭部を腹端より下げぎみにして静止することがユニークな特徴と思われる。

宍粟市であらたに記録されたムシヒキアブ科

以上のほか, 吉田ら (2009) に記録されていない下記の種を, 筆者は宍粟市で採集しているので, 併せて報告しておきたい。

イシアブ亜科 Laphrinae

オタネガワイシアブ *Andrenosoma otanegawana* (Matsumura, 1916) (図 5)

宍粟市三室山; 2 ♀, 14.VII.2015, 1 ♂, 29.IX.2015 (図 5).

口吻の特異な形状から, オタネガワヘラクチイシアブと呼ばれることもある, かなり小型で地味な種である。採集地は, いずれも標高 650m 地点で, 同一の放置された廃材の堆積をテリトリーとして捕食活動を行っていた。

引用文献

- 春沢圭太郎・別府隆守, 2003. 四国からのイシアブ亜科の記録. はなあぶ. (15-1): 83-87.
- Haupt, A. and Azuma, S. 1998. Faunistic and Taxonomic Notes on Robber Flies (Diptera: Asilidae) from the Ryukyu Islands (Japan) with Descriptions of Three New Species, *Molobratia triangulata*, *Choerades yaeyamana* and *Merodontina silvatica*. Deutsche Entomologische Zeitschrift, 45: 33-42.
- Hradsky, M. and Geller-Grimm, F. 2002. Notes on the genus *Mactea* Richter & Mamaev, 1976 (Diptera: Asilidae) including the description of new species. Studia dipterologica, 9: 379-392.
- 松村松年, 1916. 新日本千蟲圖解. 警醒社, 東京. 474pp, 10 plates.
- Nagatomi, A., Imaizumi, H. and Nagatomi, H. 1989. Revision of *Molobratia* from Japan and Taiwan (Insecta, Diptera, Asilidae). Zoological Science, 6: 983-1003.
- Nagatomi, A., Ohishi, H. and Yang, D. 2002. Review of the genera *Leptogasterinae* (Diptera, Asilidae) through the literature. The Kagoshima University Museum Monographs (1): 1-111.
- 日本昆虫目録編集委員会 編. 2014. 日本昆虫目録 第 8 巻第 1 部. 日本昆虫学会, 東京. 539pp.
- 大貝秀雄. 2018. 兵庫県赤穂郡上郡町の住宅団地内 1 区画における昆虫相. 播磨長翅目研究センター, 上

郡. 94pp.

大石久志・田川勇治. 1997. 日本産マガリケムシヒキ
属の再検討 (1). はなあぶ, (3): 15-37.

岡山県野生動植物調査検討会 編. 2020. 岡山県野生生
物目録 2019. 岡山県環境文化部自然環境課, 岡山.
516pp.

Tagawa, Y. 1981. Asilinae in Shikoku, Japan
(Diptera: Asilidae). Transactions of the Shikoku
Entomological Society, 15(3,4): 187-213.

田川勇治・山本栄治. 2000. 小田深山およびその周辺
のムシヒキアブ. 小田深山の自然 II. (山本森林生
物研究所・小田深山の自然編集委員会 編). 愛媛
県小田町. 小田町 (現内子町). 1256pp.

Tsacas, L. and Artigas, J. N. 1994. Le genre *Cophinopoda*
Hull, 1958 (Diptera: Asilidae) à répartition
subcosmopolite inhabituelle. Annals de la Société
Entomologique de France (N.S.). 30(1): 447-479.

吉田浩史・春沢圭太郎. 2009. 兵庫県の双翅目 3. ムシ
ヒキアブ. はなあぶ, (28): 43-55.

吉田浩史・八木剛. 2012. 兵庫県の注目すべき双翅目.
きべりはむし, (34-2): 12-25.

兵庫播磨地域の4ヶ所でベニトンボを確認

東 輝弥¹⁾ 三浦 喜太郎²⁾ 糸数 幸高³⁾

ベニトンボ *Trithemis aurora* (Burmeister, 1839) は東洋熱帯に広く分布するトンボで、日本では南西諸島と九州に分布し、北に分布を拡大中である。兵庫県では2016年に神戸市、2017年に淡路市、2019年に加西市、姫路市で確認されている。本年筆者らは、これまで記録のなかった赤穂市、加東市、加古川市と新たに姫路市の異なる場所で確認したので報告する。

なお、三浦喜太郎氏、糸数幸高氏の情報は近藤伸一よりもたらされた。近藤氏には新たな情報をお知らせいただき感謝します。

1 加東市上鴨川

確認日 2022年6月25日(写真1)

確認者 三浦喜太郎

状況

加東市「やしろ鴨川の郷」施設内の観察ため池の中にある枯れ枝に、1頭が羽根を休めているのを撮影した。その後6月27日にも同一と思われる個体を確認している。

2 加古川市志方町畑

確認日 2022年6月22日

確認者 糸数幸高

状況

法華山一乗寺に通じる県道とため池間の4mほどの水路でベニトンボ1頭がショウジョウトンボと縄張り争いをしていた。

3 赤穂市西有年字横山

確認日 2022年7月23日1♂(写真2), 同月31日1♀

確認者 東 輝弥

状況

当日はショウジョウトンボにしては少し変わった色のトンボを見つけ、取りあえず写真を撮っておいた。帰宅後、図鑑によりベニトンボと判明した。31日には確認の為に訪れて雌の産卵行動を観察することが出来た。ショウジョウトンボの産卵行動と違った個体が産卵していたので写真を撮ったが、距離がありすぎて上手く撮れなかった。

4 姫路市飾東町小原新

確認日 2022年9月24日2♂(写真3), 同月25日2♂1♀, 同月26日1♂

2022年9月25日に1♂採集

確認者 東 輝弥

観察記録

この池ではよく似た形態を持つショウジョウトンボ、ネキトンボが混棲してお互いに縄張り争いをし行動が落ち着かなかった。そんな中で25日には交尾、産卵を目撃することが出来た。雄は連結状態で池に入り少し飛び回ってから交尾に入り、ショウジョウトンボのようにすぐに交尾を解かず飛び回ってから連結状態で打水産卵の産卵行動に入った。そして連結を解いて雌単独で産卵行動をした。その際ショウジョウトンボの雌の産卵行動と違い、池の途中で前進しながら打水産卵を行った。この行動はネキトンボの産卵と似ていた。26日にも観察に出



写真1 2022年6月25日 三浦喜太郎 撮影。



写真2 2022年7月23日 東輝弥 撮影。

¹⁾ Teruya AZUMA 兵庫県高砂市；²⁾ Kitarou MIURA 兵庫県加古川市；³⁾ Yukitaka ITOKAZU 兵庫県加古川市



写真3 2022年9月24日 東輝弥 撮影.

かけて見ることが出来た. その後も観察に行ったが見ることが出来なかった.

参考文献

- 稲畑憲昭, 2017. 淡路島初記録となるベニトンボを採集. きべりはむし 41(1): 40-41.
- 三浦喜太郎, 2017. ベニトンボを加西市で撮影 きべりはむし 42(2): 64
- 石田真載・石田哲載, 2017. 姫路市初記録となるベニトンボ採集 きべりはむし 42(2): 63-64
- 村重 隆, 2018. 神戸市でベニトンボを採集. Gracile 78: 23.

『兵庫県赤穂郡上郡町の住宅団地内 1 区画における昆虫相』の正誤リストならびに、 この昆虫相に新たに追加される種名一覧

大貝 秀雄¹⁾

兵庫県内でも最西部に位置する上郡町は中国地方と隣接することから生物地理学的に興味深い土地であるにもかかわらず、これまでまとまった昆虫相調査は行われていなかった。筆者は手始めに、上郡町の住宅団地内において筆者が居住する自宅敷地内で見出された昆虫の調査を行ない 19 目 2035 種を確認することができ、2018 年にその結果を報告した。ところが、その後 27 件の誤同定、ならびにその他の訂正すべき事項のある点が明らかになったので今回それらをまとめて報告することとした。誤同定の多くは標本作製時に試みた不十分な同定結果を見直さなかったことに起因するものであり、深く反省するところである。一方で、ヤナギルリチュウレンジのように新たに利用可能となった文献により初めて同定が可能となったケースもある。これらの結果、調査地点における昆虫種数は 5 種減り 19 目 2030 種となった。

また本報告では、2021 年末までに同地点で採集された昆虫で新たに同定できたものを追加記録として一覧に示す。追加になったものは 7 目 81 種である。即ち兵庫県赤穂郡上郡町の住宅団地内 1 区画から確認された昆虫は 19 目 2111 種となった。

正誤リスト Erratum

3 半翅目 Hemiptera

- ◎ アワフキムシ科 Aphrophoridae 【増減なし】
p.22: コガタアワフキ *Aphrophora obtusa* Matsumura, 1903 (誤同定) を抹消。これをヒメモンキアワフキ *Aphrophora rugosa* Matsumura, 1903 に変更追加。
- ◎ ヨコバイ科 Deltocephalidae 【1 種増】
p.24: オビヒメヨコバイ *Naratettix zonatus* (Matsumura, 1915) とした 1 ♂ 2 ♀ の一部誤同定。1 ♂ 1 ♀ をアカスジオビヒメヨコバイ *Naratettix rubrovittatus* (Matsumura, 1920) に変更追加する。
- ◎ グンバイムシ科 Tingidae 【増減なし】
p.27: オオウチワグンバイ *Cantacader japonicus* Drake, 1947 (誤同定) を抹消。これをウチワグンバイ *Cantacader lethierryi* Scott, 1874 に変更追加。

- p.27: ヤブガラシグンバイ *Cysteochila consueta* Drake, 1984 を抹消。これをコアカソグンバイ *Cysteochila fieberi* (Scott, 1874) に変更追加。

◎ マキバサシガメ科 Nabidae 【増減なし】

- p.27: ハネナガマキバサシガメ *Nabis (Nabis) stenoferus* Hsiao, 1964 (誤同定) を抹消。これをミナミマキバサシガメ *Nabis (Tropiconabis) kinbergii* Reuter, 1872 に変更追加。

◎ ツノカメムシ科 Acanthosomatidae 【1 種増】

- p.30: ヒメツノカメムシ *Elasmucha putoni* Scott, 1874 とした 1 ♂ 1 ♀ の一部誤同定。1 ♀ をベニモンツノカメムシ *Elasmostethus humeralis* Jakovlev, 1883 に変更、1 種追加。

4 鞘翅目 Coleoptera

◎ オサムシ科 Carabidae 【増減なし】

- p.33: コガシラアオゴミムシ *Chlaenius (Achlaenius) variicornis* Morawitz, 1863 (誤同定) を抹消。これをムナビロアオゴミムシ *Chlaenius (Achlaenius) sericimicans* Chaudoir, 1876 に変更追加。
- p.34: ニセケゴモクムシ *Harpalus (Pseudoophonus) pseudophonoides* Schaubérger, 1930 の和名をケブカゴモクムシと訂正する。

◎ ハネカクシ科 Staphylinidae 【1 種減】

- p.35: ヒメデオキノコムシ *Scaphidium femorale* Lewis, 1893 を抹消。これは既出ヤマトデオキノコムシ *Scaphidium japonum* Reitter, 1877 の誤同定。

◎ コガネムシ科 Scarabaeidae 【1 種減】

- p.36: マルエンマコガネ *Onthophagus (Gibbonthophagus) viduus* Harold, 1874 を抹消。これは既出コブマルエンマコガネ *Onthophagus (Gibbonthophagus) atripennis* Waterhouse, 1875 の誤同定。

◎ ホソヒラタムシ科 Silvanidae 【増減なし】

- p.40: ミツモンセマルヒラタムシ *Psammoecus trimaculatus* (Motschulsky, 1858) (誤同定) を抹消。これをニセミツモンセマルヒラタムシ *Psammoecus triguttatus* Reitter, 1874 に変更追加。

¹⁾ Hideo Ogai 兵庫県上郡町

- ◎ ハナノミ科 Mordellidae 【2 種減】
 p.42: アマミヒメハナノミ *Mordellina* (*Pseudomordellistena*) *amamiensis* (Nomura, 1951) を抹消. この種でない点に疑いないが, 標本状態不良で同定不能.
 p.42: シロウズクロヒメハナノミ *Mordellistena* (*Mordellistena*) *shirozui* Nomura, 1951 (誤同定) を抹消. これはニセクロヒメハナノミ属の同定困難個体 *Pseudomordellina* sp..
 ◎ ゴミムシダマシ科 Tenebrionidae 【1 増 1 減, 増減なし】
 p.42: モトヨツコブエグリゴミムシダマシ *Uloma* (*Uloma*) *bonzica* Marseul, 1876 とした 2 ♂ 1 ♀ の一部誤同定, 1 ♂ をヤマトエグリゴミムシダマシ *Uloma* (*Uloma*) *lewisi* Nakane, 1956 に変更して追加する.
 p.43: アオツヤキノコゴミムシダマシ *Platydemia* *marseuli* Lewis, 1894 (誤同定) を抹消. 既出クロツヤキノコゴミムシダマシ *Platydemia nigroaeneum* Motschulsky, 1861 小型個体の誤同定であった.
 ◎ ハナノミダマシ科 Scaptiidae 【1 種減】
 p.43: コフナガタハナノミ *Anaspis* (*Anaspis*) *funagata* Kôno, 1928 を抹消. 既出キイロフナガタハナノミ *Anaspis* (*Silaria*) *luteola* Marseul, 1877 の誤同定であった.
 ◎ カミキリムシ科 Cerambycidae 【増減なし】
 p.44: カエデヒゲナガコバネカミキリ *Glaphyra* (*Glaphyra*) *ishiharai* (Ohbayashi, 1936) (誤同定) を抹消. これをオダヒゲナガコバネカミキリ *Glaphyra* (*Glaphyra*) *gracilis* (Hayashi, 1949) に変更追加.
 ◎ ソウムシ科 Curculionidae 【増減なし】
 p.48: クリアナアキソウムシ *Pimelocerus exsculptus* (Roelofs, 1876) (誤同定) を抹消. これをリンゴアナアキソウムシ *Pimelocerus shikokuensis* (Kôno, 1934) に変更追加.

5 双翅目 Diptera

- ◎ ケバエ科 Bibionidae 【1 種増】
 p.51: ニセアシブトケバエ *Biblio pseudoclavipes* Okada, 1938 とした 3 ♂ 1 ♀ の一部が誤同定. 1 ♀ をキスネアシボソケバエ *Biblio aneuretus* Hardy et Takahashi, 1960 に変更追加する.
 ◎ トゲナシケバエ科 Pleciidae 【増減なし】
 p.51: オカダトゲナシケバエ *Plecia okadai* Hardy et Takahashi, 1960 (誤同定) を抹消. これをクロトゲナシケバエ *Plecia adistola* Hardy et Takahashi, 1960 に変更追加.
 ◎ アブ科 Tabanidae 【1 種減】
 p.53: アカアブ *Tabanus sapporoensis* Shiraki, 1918 (誤同定) を抹消. 当該個体は腹部の大部分を欠失しており, かつ♂のため, 同定困難である.

- ◎ ミバエ科 Tephritidae 【1 種減】
 p.56: ミスジハマダラミバエ *Trypeta trifasciata* Shiraki, 1933 (誤同定) を抹消. 本種とされていた 2 ♂ 1 ♀ はすべて, 別科ヒロクチバエ科で既出のムネアカヒメヒロクチバエ *Rivellia basilaris* (Wiedemann, 1830) であった.

6 鱗翅目 Lepidoptera

- ◎ シャクガ科 Geometridae 【増減なし】
 p.74: モンウスカバナミシャク *Eupithecia clavifera* Inoue, 1955 を抹消. これをソトカバナミシャク *Eupithecia signigera* Butler, 1879 に変更追加.
 ◎ ヤガ科 Noctuidae 【1 種減】
 p.82: ブナキリガ *Orthosia paromoea* (Hampson, 1905) を抹消. 既出クロミミキリガ *Orthosia lizetta* Butler, 1878 の誤同定であった.

7 膜翅目 Hymenoptera

- ◎ ミフシハバチ科 Argidae 【1 種増】
 p.85: ルリチュウレンジ *Arge similis* (Vollenhoven, 1860) とした 3 ♂ 1 ♀ の一部が誤同定. 1 ♀ をヤナギルリチュウレンジ *Arge enodis* (Linnaeus, 1767) に変更追加する.
 ◎ コンボウハバチ科 Cimbicidae 【増減なし】
 p.85: アケビコンボウハバチ *Zaraea akebii* Takeuchi, 1931 (誤同定) を抹消し, ヒメコンボウハバチ *Abia metallica* (Mocsáry, 1909) に変更追加.
 ◎ ハバチ科 Tenthredinidae 【1 種減】
 p.85: ナガスギナハバチ *Dolerus gessneri* André, 1880 を抹消. 既出カタアカスギナハバチ *Loderus genucinctus insulicola* (Rohwer, 1910) の誤同定であった.
 p.85: ツノジロホソハバチ *Asiamephytus vexator* (F. Smith, 1874) (誤同定) を抹消し, ミノオクロハバチ *Taxomus minomensis* (Takeuchi, 1929) に変更追加.
 p.86: ヒトオビクロハバチ *Macrophya* sp. A の学名が, *Macrophya togashii* Yoshida et Shinohara, 2015 と決定された (和名は従来通り).

なお, Plate 1 最下段右の「ミノスカシバ」は「ミノウスバ」の誤記である. また Plate 3 最下段右に「ヒガシキリヒリス」あるのは「ヒガシキリギリ」の入力ミスである.

さらに, 膜翅目 Hymenoptera の項で, 86 頁と 87 頁に「オナガコバチ科 Torymidae」の「ニッポンオナガコバチ」が重複掲載されていた. 86 頁のものを削除する. ただし, 膜翅目全体の種数に変更はない.

追加種リスト

以下に, 2021 年末までに採集され, 今回リストに追加される種を示す.

1 蜻蛉目 Odonata

◎ アオイトトンボ科 Lestidae

ホソミオツネントンボ *Indolestes peregrinus* (Ris, 1916)

2 直翅目 Orthoptera

◎ ツコムシ科 Phaneropteridae

アシグロツコムシ *Phaneroptera nigroantennata* Brunner von Wattenwyl, 1878

◎ ケラ科 Gryllotalpidae

ケラ *Gryllotalpa orientalis* Burmeister, 1839

3 半翅目 Hemiptera

◎ ヨコバイ科 Deltocephalidae

(和名未定) *Branchana xanthota* Li, 2011

外来種で Kamitani, 2018 で国内分布が初めて報告された

◎ ミズムシ科 Corixidae

エサキコミズムシ *Sigara (Pseudovermicorixa) septemlineata* (Paiva, 1918)

◎ カスミカメムシ科 Miridae

クロヒサゴカスミカメ *Pherolepis kiritschenkoi* (Kerzhner, 1970)

◎ カメムシ科 Pentatomidae

イネカメムシ *Niphe elongata* (Dallas, 1851)

◎ ツノカメムシ科 Acanthosomatidae

アオモンツノカメムシ *Elasmotherthus nubilus* (Dallas, 1851)

4 鞘翅目 Coleoptera

◎ オサムシ科 Carabidae

オオマルガタゴミムシ *Amara (Curtonotus) gigantea* (Motschulsky, 1844)

アオヘリアトキリゴミムシ *Parena latecincta* (Bates, 1873)

ヒメツヤヒラタゴミムシ *Synuchus (Synuchus) dulcigradus* (Bates, 1873)

◎ センチコガネ科 Geotrupidae

センチコガネ *Phelotrupes (Eogeotrupes) laevistriatus* (Motschulsky, 1866)

◎ コメツキムシ科 Elateridae

ホソハナコメツキ *Cardiophorus (Cardiophorus) niponicus* Lewis, 1894

キバネホソコメツキ *Dolerosomus gracilis* (Candèze, 1873)

クシコメツキ *Melanotus (Melanotus) legatus legatus* Candèze, 1860

◎ ベニボタル科 Lycidae

マエアカクロベニボタル *Cautires zahradniki zahradniki* (Winkler, 1953)

◎ ジョウカイボン科 Cantharidae

クロヒメクビボソジョウカイ *Asiopodabrus (Asiopodabrus) malthinoides malthinoides* (Kiesenwetter, 1874)

オオサワクビボソジョウカイ *Hatchiana osawai* (Nakane et Makino, 1981)

セスジジョウカイ *Lycocerus magnius* (Ishida, 1986)

マルムネジョウカイ *Prothemus ciusianus* (Kiesenwetter, 1874)

◎ カツオブシムシ科 Dermestidae

カドマルカツオブシムシ *Dermestes (Dermestes) haemorrhoidalis* Küster, 1852

◎ ゴミムシダマシ科 Tenebrionidae

コツヤホソゴミムシダマシ *Menephilus lucens* Marseul, 1876

◎ カミキリモドキ科 Oedemeridae

シリナガカミキリモドキ *Nacerdes (Xanthochroa) caudata* (Kôno, 1936)

◎ カミキリムシ科 Cerambycidae

キマダラカミキリ *Aeolesthes (Pseudaeolesthes) chrysothrix chrysothrix* (Bates, 1873)

タカサゴシロカミキリ *Olenecamptus formosanus* Pic, 1914

◎ ハムシ科 Chrysomelidae

ツブノミハムシ *Aphthona perminuta* Baly, 1875

オオキイロマルノミハムシ *Argopus balyi* Harold, 1878

◎ ヒゲナガゾウムシ科 Anthribidae

スネアカヒゲナガゾウムシ *Autotropis distinguenda* (Sharp, 1891)

◎ ゾウムシ科 Curculionidae

オリーブアナアキゾウムシ *Pimelocerus perforatus perforatus* (Roelofs, 1873)

5 双翅目 Diptera

◎ ヒメガガンボ科 Limnionidae

ギフヒゲナガガンボ *Hexatoma (Eriocera) gifuensis* Alexander, 1933

◎ ハルカ科 Cramptonomyiidae

ハマダラハルカ *Haruka elegans* Okada, 1938

6 鱗翅目 Lepidoptera

◎ ハマキガ科 Tortricidae

コウスアオハマキ *Acleris filipjevi* Obraztsov, 1956

ハイイロフユハマキ *Kawabeia razowskii* (Kawabe, 1963)

◎ メイガ科 Pyralidae

クシヒゲマダラメイガ *Mussidia pectinicornella*

(Hampson, 1896)

◎カギバガ科 Drepanidae

オキナワカギバ *Oreta loochooana loochooana* Swinhoe, 1902

ムラサキトガリバ *Epipsestis ornata* (Leech, [1889])

◎シャクガ科 Geometridae

ヨモギエダシャク *Ascotis selenaria cretacea* (Butler, 1879)

クロフヒメエダシャク *Peratophyga hyalinata grata* (Butler, 1879)

シモフリトゲエダシャク *Phigalia sinuosaria* Leech, 1897

ホソバトガリエダシャク *Planociampa modesta* (Butler, 1878)

モンシロツマキリエダシャク *Xerodes albonotarius nesiotis* (Wehrli, 1940)

シロオビフユシャク *Alsophila japonensis* (Warren, 1894)

ウスバフユシャク *Inurois fletcheri fletcheri* Inoue, 1954

アトスジクロナミシャク *Epilobophora obscuraria* (Leech, 1891)

ウスベニスジナミシャク *Esakiopteryx volitans* (Butler, 1878)

セアカカバナミシャク *Eupithecia quadripunctata* Warren, 1888

マルモンシロナミシャク *Gandaritis evanescens* (Butler, 1881)

ナカジロナミシャク *Melanthia procellata inquinata* (Butler, 1878)

ホソバナミシャク *Tyloptera bella bella* (Butler, 1878)

◎スズメガ科 Sphingidae

セスジスズメ *Theretra oldenlandiae oldenlandiae* (Fabricius, 1775)

◎シャチホコガ科 Notodontidae

ホソバシャチホコ *Fentonia ocypte* (Bremer, 1861)

ルリモンシャチホコ *Peridea oberthueri* (Staudinger, 1892)

◎ドクガ科 Lymantriidae

アカヒゲドクガ *Calliteara lunulata* (Butler, 1877)

カシワマイマイ *Lymantria mathura aurora* Butler, 1877

◎ヒトリガ科 Arctiidae

シロホソバ *Eilema degenerella* (Walker, 1863)

◎コブガ科 Nolidae

オオコブガ '*Meganola*' *gigas* (Butler, 1884)

モトグロコブガ '*Meganola*' *bryophilalis hondoensis* (Inoue, 1970)

アミメリンガ *Sinna extrema* (Walker, 1854)

ハイイロリンガ *Gabala argentata* Butler, 1878

◎ヤガ科 Noctuidae

マダラホソコヤガ *Araeopteron fragmentum* Inoue, 1965

クロキシタアツバ *Hypena amica* (Butler, 1878)

ウスイロキシタバ *Catocala intacta intacta* Leech, [1889]

ミツモンキンウワバ *Ctenoplusia agnata* (Staudinger, 1892)

イネキンウワバ *Plusia festucae* (Linnaeus, 1758)

オオシマカラスヨトウ *Amphipyra monolitha surnia* Felder et Rogenhofer, 1874

キスジツマキリヨトウ *Callopistria japonibia* Inoue et Sugi, 1958

カバマダラヨトウ *Anapamea cuneatoides* Poole, 1989

モクメヤガ *Axylia putris* (Linnaeus, 1761)

シマキリガ *Cosmia achatina* Butler, 1879

クロシタキヨトウ *Mythimna placida* Butler, 1878

ヘーネアオハガタヨトウ *Nyctycia hoenei* (Boursin, 1958)

ウスチャヤガ *Xestia dilatata* (Butler, 1879)

◎シジミチョウ科 Lycaenidae

ミズイロオナガシジミ *Antigius attilia attilia* (Bremer, 1861)

7 膜翅目 Hymenoptera

◎ハバチ科 Tenthredinidae

クシヒゲハバチ *Cladius pectinicornis* (Geoffroy, 1785)

バラクキハバチ *Ardis pallipes* (Serville, 1823)

ツヤクロマルハバチ *Eutomostethus lubricus* Seiyama, 1981

クルメキモンハバチ *Pachyprotasis kurumensis* Inomata, 1984

ヒゲナガクロハバチ *Phymatocera nipponica* Togashi, 1958

◎コマユバチ科 Braconidae

ワモンコマユバチ *Megalommum tibiale* (Ashmead, 1906)

◎セイボウ科 Chrysididae

クロバネセイボウ *Chrysis angolensis* Radoszkowski, 1881

◎ギングチバチ科 Crabronidae

ニッポンハヤバチ *Tachytes etruscus sibiricus* Gussakovskij, 1932

◎ミツバチ科 Apidae

ヤスマツムカシハナバチ *Colletes (Colletes) floralis* Eversmann, 1852

クズハキリバチ *Megachile (Megachile) pseudomonticola* Hedicke, 1925

謝意

Branchana xanthota Li は林正美博士, クロヒサゴカスミカメは安永智秀博士, ジョウカイボン科は奥島雄一博士, ハナノミ科は鶴智之博士, ワモンコマユバチは渡辺恭平博士, バラクキハバチは内藤親彦博士に各々御同定

いただいた。深く感謝申し上げます。またケブカゴモクムシの不適切な和名（ニセケゴモクムシ）を御指摘いただいた森田誠司氏, Plate 1「ミノウスバ」と Plate 3「ヒガシキリギリス」の写真説明の誤記を御指摘くださった谷田昌也氏に感謝申し上げます。

引用文献

- Kamitani, S. (2018). First record of the alien bamboo leafhopper, *Branchana xanthota*, in Japan (Hemiptera: Cicadellidae: Deltocephalinae). Zootaxa 4508(4): 579–581.
- 内藤親彦・篠原明彦・原秀穂 (2020). 日本産ハバチ・キバチ図鑑 530pp. 北海道大学出版会, 札幌.
- 大貝秀雄 (2018). 兵庫県赤穂郡上郡町の住宅団地内 1 区画における昆虫相 94pp. 播磨長翅目研究センター, 上郡.
- 大貝秀雄 (2020). 兵庫県でオオコブガを採集. 月刊むし (588), 46.
- 大貝秀雄・安永智秀 (2021). 西日本におけるクロヒサゴカスミカメの新記録. 月刊むし (601), 58-59.
- Tsuru, T. K. (2021). Revision of the tribe Mordellistenini (Coleoptera: Mordellidae) in Japan. Jap. J. Syst. Entomol. Monographic Series. (5): 1-282.

※ なお、大貝 (2018) は市販されておりませんが、在庫がありますので、必要な方は著者に御問合せください (頒価 2000 円)。

frwkt501 ※ yahoo.co.jp (※は@に置き換えて下さい)

たんぽう



兵庫県におけるモンキセダカマルカスミカメの記録

宇野宏樹

モンキセダカマルカスミカメ *Pachylygus luteonotatus* は栃木県日光市菖蒲ヶ浜を基産地として発表されたカスミカメムシの 1 種で、ハリギリ *Kalopanax septemlobus* の葉から得られたことが報告されている (安永, 2016; Yasunaga & Schwartz, 2016). 本種は, 2018 年には宮崎県でも記録された (小松, 2018). 筆者は本種を記録が多くないと思われる兵庫県で得ているので報告したい。

2exs (図 1・図 2), 兵庫県美方郡香美町付近 三川山. 18. VI. 2016.
筆者採集保管.

これらの個体は, ゼフィルスの採集のため同山を訪れた際, 樹種不明のスケーピングにより得たものである。なお, 前述のとおりこれらの個体を採集した樹種は記録していないが, 三川山を含む北但馬地域のあたりにはハリギリが生えていることが確認されており (清水・矢野, 2001), これらの個体は採集地付近, または採集地付近からそう遠くはない場所で発生した可能性が考えられる。6 月～7 月にかけてハリギリ等のスケーピングを行えば, 兵庫県内外の別の地域からも本種が新しく発見される可能性はあると思われ, 今後の調査に期待したい。末筆ながら, 採集に同行してくださった有馬 聡氏, 大畑勇統氏, 船橋智輝氏に厚くお礼申し上げる。



図 1 兵庫県三川山産モンキセダカマルカスミカメ。 図 2 同一産地の別個体。

○参考文献

- 小松孝寛, 2018. モンキセダカマルカスミカメの宮崎県からの記録. *Rostria*. 62 :53-54.
- 清水寛厚・矢野孝雄, 2001. 兵庫県北但馬地域における低位ブナ林とその存立条件. 鳥取大学教育地域科学部紀要. 地域研究. 3 (1): 111-131.
- Tomohide Yasunaga & Michael D. Schwartz, 2016. Review of the mirine plant bug genus *Pachylygus* (Heteroptera: Miridae: Mirinae), with description of a new species from Japan. *Tijdschrift voor Entomologie*. 159: 197-207
- 安永智秀, 2016. カスミカメムシ類 5 種の和名と学名. *Rostria*. 60: 31-32.

(Hiroki UNO 兵庫県宝塚市)

ウラナミジャノメによるケネザサ葉上での吸汁と雨露の吸汁を観察

島崎正美・島崎能子

筆者らは加古川市とその近郊に生息する希少チョウ類の保全ボランティア団体「加古川の里山・ギフチョウ・ネット」の一員として 2008 年からヒメヒカゲ (絶滅危惧 I B 類) の発生状況と生態観察の継続調査を進める過程でウラナミジャノメ (*Ypthima multistriata nipponica* 絶滅危惧 II 類: 以下本種) の生態観察も継続している。それでも, 生息地で日中の時間帯すべてで見続けることは出来ていなく, 例えばアゲハチョウやモンシロチョウなどで頻度高く観察できるいろんな花での吸蜜など, 必ず実施されているはずの生命維持のための栄養成分や水分の補給が, どのような時間帯にどのような形でなされているのか, 特に本種はヒメヒカゲに比べて相対的に個体数が少ないこともあってほとんど明らかにできていない。

生態観察を開始して 13 年目となる 2021 年によりやく本種がイヌツゲとノイバラの花で吸蜜している場面の観察記録がとれて報告 (島崎, 2021) をしたが, ヒメヒカゲで観察記録 (島崎, 2013) のある朝露や路面での吸汁を本種もしているに違いなく, 高い関心事として粘り強く観察を続けてきた。その結果, 初めてケネザサの葉上で確実に口吻を伸ばして何かを吸汁するメスの観察記録がとれ, さらに, 雨が一時的に止んだ午後に草葉に雨露が残る草むらへと踏み込み, 雨露に口吻を伸ばすメス (転飛後の開翅で確認) の挙動も観察できたので報告する。

[事例 1 : ケネザサの葉上で吸汁]

観察日時 : 2022 年 6 月 3 日 15 時 25 分頃

観察場所 : 加古川市平荘町 (図 1, 2)

(Masami SHIMAZAKI 兵庫県高砂市)

(Yoshiko SHIMAZAKI 兵庫県高砂市)

[事例 2 : 雨露を吸汁]

観察日時 : 2022 年 6 月 6 日 15 時 10 分頃

観察場所 : 加古川市平荘町 (図 3)

ヒメヒカゲに関しては路面の湿り気や鳥糞に対する吸汁 (島崎, 2013), およびケネザサ葉上での吸汁例を報告 (島崎, 2021) しているが, 本種が花蜜以外の雨露などを吸汁する場面の観察は, 筆者らが知る限り加古川地域では今回の事例が初めての記録となる. 前述したヒメヒカゲなどの発生状況調査は多くの場合午前の時間帯に集中しており, 今回は調査にあまり時間をかけていない午後の時間帯が栄養や水分の補給に充てられている可能性を考えた. また, 朝露のある時間帯の観察時間がとりにくいことから, あえて雨降りの合間に生息地を訪ずれる機会を待ち, 特に午後の時間帯での観察機会を増やして, 確実な映像記録をとることができた.

なお, 興味ある 6 月 6 日の観察例を追記しておく. 雨露がたくさん残るケネザサの葉上で翅の開閉を繰り返しながら 2 分近くもとどまる本種 (図 4) に注目し, 雨露の吸汁を期待したが一度も口吻を伸ばすことなく飛び去った事例である. 誰がみても吸汁目的で飛んできたと思ってしまう状況であり, 朝からの降雨で吸汁の機会が十分あってすでに堪能していたとしか考えられない意外な挙動であった.

今回の事例を観察できたヒメヒカゲや本種が生息する場所は無断立入りが許されない私有地であって, 「加古川の里山・ギフチョウ・ネット」では地主さんたちの協力を得て, 草原への導入路入り口に動植物の採集をしないようにとの立て看板も設置している. 絶滅危惧Ⅱ類のウラギンスジヒョウモンも生息する貴重な自然が残るところであり, 身勝手な採集は厳に慎んでいただきたい. 2015 年には太陽光発電装置の設営で生息地の多くの部分が自然環境を失っており, 全国的にも貴重な生息地の環境保全維持活動は今後も欠かせない重要案件である.

○参考文献

- 島崎正美, 2013, ヒメヒカゲ *Coenonympha oedippus arothius* に関する観察記録 -2. やどりが, (237): 33-40
 島崎正美, 島崎能子, 2021, ウラナミジャノメがイヌツゲとノイバラの花で吸蜜. きべりはむし, 44(2): 55-56
 島崎正美, 島崎能子, 2021, ヒメヒカゲによる吸汁とイヌツゲでの吸蜜事例. きべりはむし, 44(2): 57

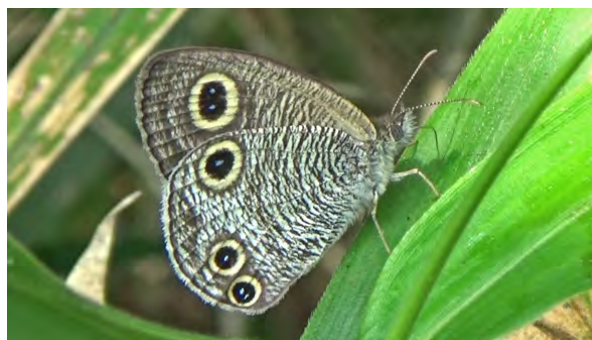


図 1 2022 年 6 月 3 日 ケネザサの葉上で吸汁するウラナミジャノメ.



図 2 開翅してはじめてメスだとわかる.

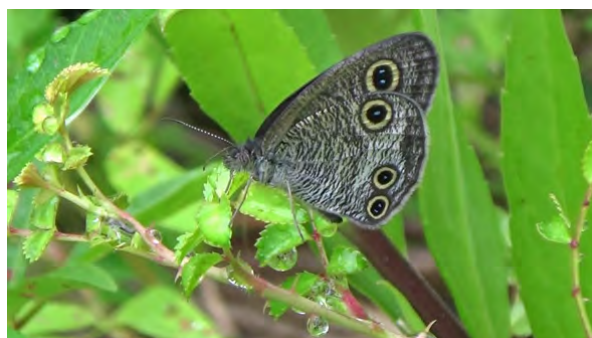


図 3 2022 年 6 月 6 日 雨露を吸汁するウラナミジャノメ.

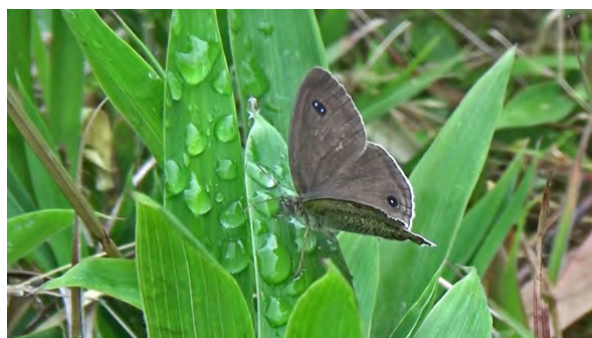


図 4 2022 年 6 月 6 日 雨露を吸汁しないウラナミジャノメ.

姫路市におけるメスアカムラサキの記録

広畑政巳

迷蝶として稀に兵庫県でも記録のあるメスアカムラサキが、姫路市で撮影されているので報告する。兵庫県における本種の記録は明石市北王子町で1957年8月16日に1♂が目撃されたのが最初のように、筆者の知る限りではその後2007年9月24日に淡路市で1♂が採集されるまで50年間で尾崎市、神戸市、明石市、姫路市、相生市で12件の記録がある。この度の姫路市の記録は2007年以来の記録と思われる。



写真 メスアカムラサキ (尾崎敬子氏撮影)。

撮影記録：姫路市妻鹿 16-IX-2020 1♂ (撮影) 尾崎敬子

この度本種が撮影されたのは姫路市妻鹿で、尾崎敬子氏によって撮影された。美しい蝶がいるということで撮影されたが、尾崎氏は野鳥の写真撮影が専門で、珍しい蝶との認識がなく、筆者が見て分かった次第である。どのような要因で飛来したのか不明であるが、この年は台風10号が9月6日～7日に日本に上陸しているので、その影響も考えられる。八重山諸島ならともかく兵庫県では珍しい記録なので報告した次第である。報告を快諾いただいた尾崎敬子氏にお礼申し上げる。

○参考文献

広畑政巳・近藤伸一, 2007. 兵庫県の蝶 303pp.
出口敦司, 2009. 迷蝶メスアカムラサキ. Awajiensis, 15: 5

(Masami HIROHATA 兵庫県姫路市)

兵庫県におけるオオムラサキクチバの記録

杉本圭悟

2022年8月25日に、筆者は兵庫県美方郡でオオムラサキクチバ *Anisoneura aluco* (Fabricius, 1775) を採集した。本州では富山県、岐阜県、京都府、鳥取県、高知県と愛媛県の県境などで偶発的に確認、採集されている(佐々木, 1980; 水野, 1994) が、これまで兵庫県での採集記録は無いためここに報告する。



図1 オオムラサキクチバの標本。

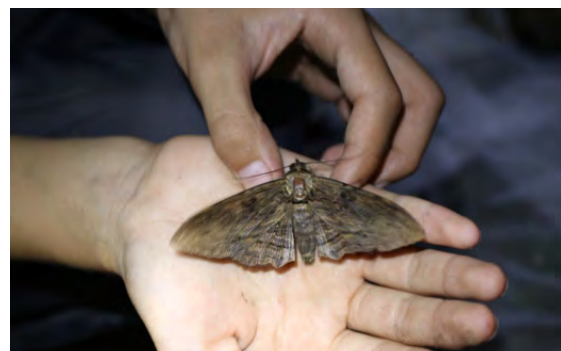


図2 灯火採集で飛来したオオムラサキクチバ (図1と同一個体)。

1ex., 兵庫県美方郡香美町村岡区大笹ハチ北高原, 25. VIII. 2022, 杉本圭悟採集・保管。

今回、筆者が採集した個体は、兵庫県立人と自然の博物館の中学生向けセミナー「ユース昆虫研究室」で行ったライトトラップに飛来したものである。未筆ながら、本種の同定および本稿の執筆を薦めて下さった八木剛氏に厚くお礼を申し上げる。

○参考文献

緒方正美, 1967. 珍しい夜蛾 オオムラサキクチバについて. やどりが, 50: 19
佐々木昇, 1980. オオムラサキクチバ3頭目の記録. 蝶と蛾, 30 (3, 4): 210
水野利彦, 1994. 富山県におけるオオムラサキクチバの記録. 蝶と蛾, 5(2): 119-120

(Keigo Sugimoto 三田市立けやき台中学校)

兵庫県におけるツシマキモンチラシの記録

安岡拓郎

兵庫県神戸市北区においてツシマキモンチラシ *Eterusia watanabei* (マダラガ科 Zygaenidae: ホタルガ亜科 Chalcosiinae) を採集した。兵庫県内で採集された記録がないため、これまでに得られた他の情報と合わせて報告する。

2019年6月23日, 筆者の母が丹生山系の花折山に登山中に, 地表を歩いていた本種と思われる蛾を撮影した。以降, 筆者が周辺を何度か調査したところ, 2022年6月12日に神戸市北区山田町原野の車道沿いの下草に静止している本種のメスを発見した(図1)。また, これまでに中濱直之氏を経由して2019年6月16日に宝塚市丸山湿原(情報提供: 今住悦昌氏), 2021年6月21日に宝塚市丸山湿原(同: 関澤友規子氏), NPO法人こどもとむしの会のサイトを通して同日に宝塚市大峰山(同: 村越太津美氏), 八木剛氏と近藤伸一氏を経由して2022年6月15日に神戸市北区丹生山(同: 大山茂氏および中川貴美子氏)において本種が確認されて

いる(図2)。

本種は長崎県の対馬に生息するものの他の地域での記録は少なく, これまでに広島県, 和歌山県(Takeuchi et al., 2012) および岡山県(岡山県野生動植物調査検討会, 2020) で記録があり, インターネット上では徳島県でも目撃された情報がある(虫撮りデジカメ日記)。六甲山系周辺では複数年にわたり近接した場所で発見されていることから, 同地域で定着している可能性が示唆された。本種の寄主植物は, 照葉樹林であれば普通に見られるヒサカキ *Eurya japonica* が知られている。にもかかわらず大型の美麗種である本種の記録が原産地の対馬以外で少ない理由は不明であるが, 本種が複数回発見されている丹生山系や丸山湿原周辺の環境, そしてその周辺の本種が見つからない環境を調査することでヒントが得られるかもしれない。今後さらに情報を積み重ねることで本種の生態が解明されることが期待される。

謝辞

本稿を執筆するにあたり, 貴重な目撃情報をご提供いただいた各位ならびに仲介くださった兵庫県立人と自然の博物館の八木剛氏および中濱直之氏, NPO法人こどもとむしの会の近藤伸一氏に厚く御礼申し上げます。

○参考文献

- 虫撮りデジカメ日記. ツシマキモンチラシ (online). <http://kisar.sakura.ne.jp/insects/1298tusimakimontirasi.html> (2022年11月3日閲覧).
- 岡山県野生動植物調査検討会(編), 2020. 岡山県版レッドデータブック 2020 動物編. 岡山県環境文化部自然環境課, 岡山, 812 pp.
- Takeuchi, T., Endo, H. and Owada, M., 2012. Notes on a moth, *Eterusia watanabei* (Lepidoptera, Zygaenidae), in Hiroshima Prefecture, Japan. *Lepidoptera Science*, 63(3): 119-123.

(Takuro YASUOKA 兵庫県神戸市)



図1 ツシマキモンチラシ。

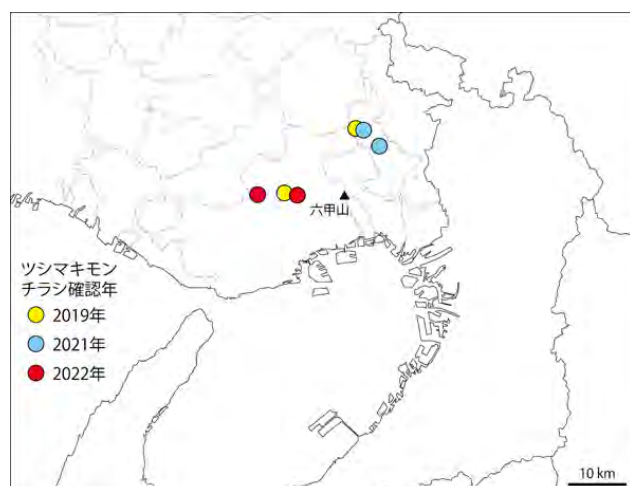


図2 分布図。

兵庫県内におけるオオシロシタバの追加記録

(Atsu TANINO 三田市立上野台中学校)

(Hayato UCHIDA 神戸大学農学部)

(Keigo SUGIMOTO 三田市立けやき台中学校)

谷野温・内田隼人・杉本圭悟

筆者らは、2021 年・2022 年に兵庫県内でオオシロシタバ *Catocala lara* Bremer, 1861 を採集している。県下では 2 例しか記録がなく、兵庫県のレッドリストでも要注目指定されているので報告する。



図 兵庫県産オオシロシタバ (2022 年 8 月 21 日採集)。

2 ♂, 兵庫県美方郡香美町岡区大笹ハチ北高原, 標高 880m, 5. IX. 2021, 内田隼人採集。

1 ♂, 同地, 21. VIII. 2022, 内田隼人採集。

1 ♂, 同地, 24. VIII. 2022, 谷野温採集。

1 ♂ 2 ♀, 同地, 25. VIII. 2022, 谷野温・杉本圭悟採集。

本種は北海道～九州の各地に分布するが、シナノキを食樹とするため西日本では産地が高標高地に限られる。優れた自然環境の指標種として知られ（兵庫県, 2012), 兵庫県内では 2006 年を最後に記録がなかった（阪上ほか, 2017)。

今回採集された個体は全てライトトラップ（灯火採集）によるもので、2022 年 8 月 24 日・25 日に採集されたものは兵庫県立人と自然の博物館の中学生向けセミナー「ユース昆虫研究室」のライトトラップに飛来した。なお、標本は各自で保管している。

未筆ながら、本稿の執筆を薦めてくださった脇村涼太郎氏に厚くお礼を申し上げる。

○参考文献

兵庫県, 2012. 兵庫県版レッドリスト 2012

(<https://www.kankyo.pref.hyogo.lg.jp/JPN/apr/hyogoshizen/reddata2012/data/05/56.pdf>)

阪上洗多・徳平拓朗・松尾隆人, 2017. 兵庫県カトカラ図鑑. きべりはむし, 39 (2): 25-36

チャイロチビヒラタカミキリ, その後

小西和夫

2021年5月25日に北但馬(香美町香住区御崎)でチャイロチビヒラタカミキリ *Phymatodes (Phymatodellus) infasciatus* (Pic, 1935)を確認した(小西, 2021)伐採地から, 同年10月に粗朶に絡まる枯蔓を持ち帰った。

この枯蔓から, 2022年3月29日と30日に6頭のシロオビチビヒラタカミキリ *Poecillium albicinctum* (Bates, 1873)が羽脱した。その後4月25日から5月9日にかけて, 同じ枯蔓からチャイロチビヒラタカミキリ18頭が羽脱。いずれも上翅が2色の個体である。枯蔓は巻きひげの特徴(2節出て1節出ない)からブドウ属(サンカクヅル, エビヅル等)と思われるが, 種名は同定できていない。なお島根県の報告では, 「ノブドウ(ノブドウ属)の枯蔓から羽脱」とある(氏原, 2021)。また「広島県のカミキリムシ」ではサンカクヅル(推定)の枯蔓のビーティングで得られたとされている(広島虫の会, 2018)。

小さな透明ケースに枯蔓とともに12頭を入れて観察したが, 昼間は活発に動き回り, しきりに交尾を試みる。翌朝, ケース内には4頭しか見当たらず, 部屋中探したが逃げた様子もない。ところが, 昼前にはまたケースの中を12頭が動き回っている。彼らは夜間, 枯蔓の羽

脱孔に潜んでいた。興味深い行動だが, 野外でも見られる習性なのか不明である。

末筆ながら兵庫県初記録ということで, 標本を収蔵していただいた人博の八木剛氏に感謝いたします。

○参考文献

- 小西和夫, 2021. 北但馬でチャイロチビヒラタカミキリを確認. きべりはむし (44)2: 46-47
 氏原靖志, 2021. 島根県におけるチャイロチビヒラタカミキリの記録. すかしば (68): 34
 広島虫の会, 2018. 広島県のカミキリムシ. p.67

(Kazuo KONISHI 兵庫県西宮市)



図1 透明ケース。



図3 ブドウ属枯蔓と羽脱孔。



図2 チャイロチビヒラタカミキリ(雄は腿節が太く発達する)。



図4 チャイロチビヒラタカミキリ(標本:八木剛氏蔵)上段:♂, 下段:♀。

但馬のハラアカコブカミキリ (続報)

小西和夫

2021 年 5 月, 北但馬 (香美町香住区御崎) でハラアカコブカミキリ *Moechochotypa diphyssis* (Pascoe, 1871) を多数確認し, 本誌で報告した (小西, 2021).

2022 年は 5 月 4 日, 香住区の三尾トンネルから三尾地区へ下る道路に, 山から 1 頭が飛来. その後, 蘇武岳南西斜面 (村岡区寺河内) の伐採地の山土場で, 林道脇の新鮮な伐採木上に 5 月 22 日に 2 頭, 6 月 9 日に 4 頭を確認. 6 月 16 日には上山高原の路上を這う 1 頭を目撃した. 昨年多産した香住区御崎の伐採地では 5 月 23 日と 6 月 9 日に, それぞれ 2 頭づつしか確認できなかった. 多くの子孫は劣化した材を見限って拡散していったのだろうか.

2021 年 4 月には新温泉町でも確認されており (松岡・大生, 2022), 北但馬にはすでに定着したと思われる. また今回, 但馬中部でも生息が確認されたことから本種は但馬地方全域に分布を拡大しているとみられる.

○参考文献

小西和夫, 2021. ハラアカコブカミキリ, 北但馬に定着か. きべりはむし, (44)2: 46

松岡遥都・大生唯統, 2022. 兵庫県新温泉町におけるハラアカコブカミキリの記録. きべりはむし, (45)1: 97

(Kazuo KONISHI 兵庫県西宮市)



図1 ハラアカコブカミキリ (香住区三尾 2022.5.4).



図2 ハラアカコブカミキリ (村岡区寺河内 2022.6.9).



図3 蘇武岳南西斜面林道脇の伐採木 (2022.6.9).



図4 ハラアカコブカミキリ (上山高原 2022.6.16).

姫路市からマゴジャクシミゾキノコシバンムシの記録

檀野将平

マゴジャクシミゾキノコシバンムシ *Mizodorcatoma magojyakushi* Sakai, 1996 (図 1) は愛媛県重信町で採集されたマゴジャクシより得られた個体をもとに記載された種である (Sakai, 1996). 本種を含むミゾキノコシバンムシ属 *Mizodorcatoma* は日本から 4 種が知られているが, これまで本種の本州での記録は確認されていない. 本種は外見がツガタケミゾキノコシバンムシ *M. pinicola* に酷似するが, 雄交尾器先端が丸くかぎ型とならないこと (図 2) で容易に区別できる.

筆者は, 姫路市において 1 月と 10 月にマンネンタケ属の一種 (図 3) より多数の幼虫を採集しているので兵庫県初記録として報告する. 1 月に採集した個体は幼虫のまま越冬し, 4 月の下旬から 5 月の中旬にかけて羽化し, 10 月に採集した幼虫 (図 4) は 10 月下旬から 11 月下旬にかけて羽化することを確認した.

【採集記録】

43exs., 兵庫県姫路市北原御旅山, 4. I. 2022, (幼虫採集), 8exs., 12. X. 2022, (幼虫採集) 筆者採集

○参考文献

M. Sakai, 1996. Three New Dorcatomine Species (Coleoptera, Anobiidae) Associated with Ganoderma Fungi in Japan and Taiwan. Jpn. J. syst. Ent., 2(2):275-281

(Shohei DANNO 兵庫県姫路市)



図 1 姫路市産マゴジャクシミゾキノコシバンムシ.



図 2 交尾器.



図 3 マンネンタケ属の一種.



図 4 幼虫.

兵庫県におけるオチバアナアキゾウムシの記録

脇村涼太郎

オチバアナアキゾウムシ *Pentaparpion costatum* Morimoto, 1982 は、東京都八丈島から得られた個体を基に記載された海岸性のゾウムシである (的場, 1987). 伊豆諸島, 本州の太平洋, 瀬戸内海沿岸から記録があり, 兵庫県の近隣の自治体では岡山県及び和歌山県から記録がある (的場, 1987; 山治, 2005; 小島, 2015; 萩原, 2021). 筆者は兵庫県において記録のない本種を採集しているため報告する. なお, 採集, 保管は全て筆者である.

採集記録

1ex., 兵庫県南あわじ市阿万塩屋町, 22. IX. 2018.

1ex., 兵庫県たつの市御津町室津, 22. II. 2021.

1ex., たつの市同所, 23. III. 2021.

採集地はいずれも海岸で, たつの市では海食崖の下に溜まったリターから, 南あわじ市では乾燥した流木の裏から得られた.

末筆ながら, 写真を撮影していただいた田作勇人氏, 投稿を勧めていただいた大野友豪氏, 問い合わせに応じていただいた今田舜介氏, 萩原涼太氏, 的場 績氏, 山地 治氏に厚く御礼申し上げます.

○引用文献

萩原涼太, 2021. 愛知県におけるオチバアナアキゾウムシの記録. 佳香蝶, 73(285): 22-23.

小島弘昭, 2015. 伊豆諸島御蔵島産ゾウムシ上科甲虫目録. Mikurensis- みくらじまの科学 -, 4: 17-44.

的場 績, 1987. 和歌山の甲虫 -6- オチバアナアキゾウムシ. 和歌山県立自然博物館だより, 5(2): 4.

山地 治, 2005. 岡山県から採集した甲虫類の記録. すずむし, 140: 79-84.

(Ryôtarô WAKIMURA 東海大学生物学部)



図 兵庫県たつの市産オチバアナアキゾウムシ.

兵庫県におけるウミミズカメムシの記録

脇村涼太郎

ウミミズカメムシ *Speovelia maritima* Esaki, 1929 は, 海岸に生息するミズカメムシ科 Mesoveliidae のカメムシである. 瀬戸内海沿岸では愛媛県及び山口県から記録されている (渡部ほか, 2014; 松田, 2016). 筆者は兵庫県において記録のない本種を採集しているため報告する.

採集記録

9exs., 兵庫県姫路市の形町福泊, 24. VIII. 2018, 筆者採集保管.

採集日は台風の直後で, 砂浜海岸に漂着した流木の裏から得られた.

末筆ながら, 写真を撮影していただいた田作勇人氏, 投稿に際し問い合わせに応じていただいた脇 悠太氏に厚く御礼申し上げます.

○引用文献

松田真紀子, 2016. 下関市におけるウミミズカメムシの分布. 豊田ホテルの里ミュージアム研究報告書, 8: 205-206.

渡部晃平・武智礼央・矢野真志, 2014. 愛媛県のカメムシ 2・水生半翅類. 面河山岳博物館研究報告, 6: 1-22.

(Ryôtarô WAKIMURA 東海大学生物学部)



図 兵庫県産ウミミズカメムシ.

兵庫県初記録のヒコサンジュウジアトキリゴミムシ

森正人

ヒコサンジュウジアトキリゴミムシ *Lebia* (*Poecilothais*) *hikosana* Habu, 1955 は, 福岡県英彦山の標高 1000m 付近の樹皮下で得られた 2 個体を基に記載され, その後は英彦山付近の北岳と古処山で記録 (高倉; 1972, 1974) された. これらは, ともにケヤキ樹皮下で採集されている. 英彦山以外では, 松本 (2000) が伊豆大島・御蔵島・関東の一部から記録し, 神奈川昆虫談話会 (2004) が神奈川県横浜市・大和市・茅ヶ崎市から, 森・古巻 (2012) が茨城県取手市周辺のイボタノキ *Ligustrum obtusifolium* から, 数多くの個体を採集・観察できたことを報告している. その後, 須田 (2020) は群馬県からのやや古い記録を報告しているが, 全国的に採集記録が少なく, 生態情報にも乏しい種類である.

筆者はこれまで記録のなかった兵庫県から採集しているのを, 報告しておきたい.

採集記録: 1 ♂ 1 ♀, 兵庫県宍粟市波賀町赤西溪谷, 30. VIII. 2014, 森正人採集

サンプルの体長は 4mm 前後で, 茨城県産と比較するとやや小型であるが, 上翅の独特の斑紋や♂交尾器形態, ♀の中脛節 2 箇所の切れ込み (図 2) などの特徴から本種と同定した.

採集環境は広葉林内の樹幹で, 数多くのミヤマジュウジアトキリゴミムシ *L.sylvarum* に混じって得られた.

○引用文献

神奈川昆虫談話会, 2004. 神奈川県昆虫誌 II .
松本慶一, 2000. 御蔵島のゴミムシ採集記録. 東京都の自然, (26), 東京都高尾自然科学博物館.
森正人・古巻進, 2012. アトキリゴミムシの生態に関する

覚書. Sayabane N.S. (6): 38-40.

須田亨, 2020. 群馬県産歩行虫の覚え書 IX. 乱舞, (25): 14-16.

高倉康男, 1974. 北九州の注目すべき甲虫類. 北九州の昆虫, 20(1).

上野俊一ほか, 1985. 原色日本甲虫図鑑 (II). 保育社.

Masato MORI 環境科学大阪株式会社

兵庫県におけるマルチビガムシとゴマダラチビゲンゴロウの記録

森正人・西野洋樹

マルチビガムシ *Pelthydrus japonicus* M.Sato, 1960 (ガムシ科) は本州, 四国, 九州 (対馬) の清流域に生息する流水性の種類であるが, 採集記録が大変少なく, また採集地における確認個体数が少ないことなど, 生態的に不明な部分が多い. 近年では, 大阪府と和歌山県 (森本・中島, 2011), 滋賀県 (村上, 2013) 及び対馬 (上手, 2019) における採集記録が報告されているが, 兵庫県においてはこれまで記録が無かった. 筆者のひとり西野は, 兵庫県北部の新温泉町で採集しており兵庫県初記録として報告する.

1ex 兵庫県美方郡新温泉町久斗川 29-X-2022 西野採集保管 (図 1)

また同時に, ゴマダラチビゲンゴロウ *Neonectes natrix* (Sharp, 1884) が比較的多く確認された. この種も兵庫県内では丹波市やその周辺以外での記録が見られない種であるため, 併せて報告しておく.

3exs 兵庫県美方郡新温泉町久斗川 1-X-2022 西野採集 (図 2);
14exs 同所 29-X-2022 西野採集

これらの種が確認されたのは, 植生が殆んど無い砂礫質の小河川 (図 3) で, 水際の砂礫を攪拌することで採集された.

○引用文献

上手雄貴, 2019. 対馬におけるマルチビガムシの記録. Sayabane, N.S., (34): 60-61.
村上大介, 2013. 犬上川でのマルチビガムシの採集記録. Came 虫, (170): 11.
森本静子・中島淳, 2011. 近畿地方におけるチビマルガムシの採集記録 2 例. 月刊むし, (482): 43-44.

Masato MORI 環境科学大阪株式会社

Hiroki NISHINO 大阪府松原市



図 1. 兵庫県産ヒコサンジュウジアトキリゴミムシ♂.

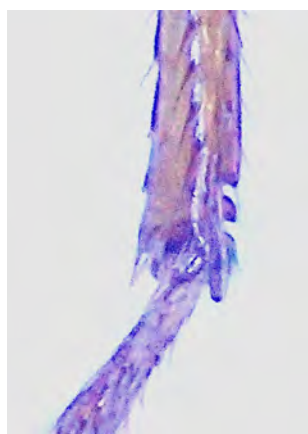


図 2. ヒコサンジュウジアトキリゴミムシ♂中脛節の切れ込み



図 1. マルチビガムシ.



図 2. ゴマダラチビゲンゴロウ.



図 3. 生息環境.

キバラハキリバチの神戸市垂水区からの記録

吉田浩史

キバラハキリバチは膜翅目ハキリバチ科に属するハチの一種であり、腹部の黄褐色の毛帯が特徴である。

本種は、以前は中部地方以南に分布するとされ(長瀬, 2014), 海浜性の稀種と考えられてきた。環境省のレッドリストにおいても準絶滅危惧種に選定されている(環境省, 2020)。

しかし近年、関東・東北地方から相次いで記録され、分布拡大の可能性も指摘されている(郷右近・前田, 2020; 金杉, 2022)。また、海浜以外の内陸部からも記録されている(松本, 2010; 上森, 2017; 金杉, 2022; 須黒, 2022; 渡邊, 2022)。

兵庫県では、南あわじ市沼島(岡田, 1981)、尼崎市西武庫公園(上森, 2017)から少数の記録があるのみであった。今回、神戸市から初記録として報告する。

データ

膜翅目 ハキリバチ科

キバラハキリバチ

Megachile xanthothrix Yasumatsu et Hirashima, 1964

神戸市垂水区海岸通, アジュール舞子, 1 ♂ (写真 1; 目撃・撮影のみ), 23. VIII. 2022, 吉田浩史。

海岸に近い公園のハマゴウの周辺を飛び、時折葉にとまる行動が観察された。

当時捕虫網を持っていなかったため、採集することはできなかった。一週間後の 8 月 29 日に同地を訪れ、周辺を探索したが再確認には至らなかった。

○参考・引用文献

郷右近勝夫・前田泰生, 2020. キバラハキリバチの宮城県と島根県からの採集記録. ホシザキグリーン財団研究報告, (23): 281-282.

金杉隆雄, 2022. 群馬県におけるキバラハキリバチ(ハチ目: ハキリバチ科)の記録. 群馬県立自然史博物館研究報告, (26): 179-180.

環境省, 2020. 環境省レッドリスト 2020. (<https://www.env.go.jp/press/107905.html> : 最終閲覧日 2022 年 9 月 25 日)

松本吏樹郎, 2010. おすすめ、長居公園のハチウォッチング. Nature Study, 58(7): 2-4.

長瀬博彦, 2014. キバラハキリバチ. 多田内修・村瀬竜起(編), 日本産ハナバチ図鑑: 302, 文一総合出版, 東京.

岡田清隆, 1981. 南淡路島産蜂類採集記録(I). Parnassius, (25): 13-16.

須黒達巳, 2022. 慶應義塾幼稚舎で記録された昆虫およびクモ. ニッチェ・ライフ, 9: 37-67.

上森教慈, 2017. 兵庫県尼崎市の都市公園におけるハチ相. きべりはむし, 40(1): 4-8.

渡邊賢司, 2022. 千葉県松戸市におけるキバラハキリバチの記録. すかれおい, (1): 16-18.

(Hiroshi YOSHIDA 神戸市東灘区)



写真 1 キバラハキリバチ(筆者撮影)。

兵庫県の播磨地域東部におけるアカハネオンブバッタの確認情報

柴田剛

アカハネオンブバッタ *Atractomorpha sinensis* Bolivar, 1905 は日本の南西諸島（トカラ列島以南）、中国、台湾、ジャワ、アッサムに分布するバッタであるが、2012年頃から大阪府で見つかるようになり、2008年以前から大阪府に侵入していた可能性が高いといわれている。

大阪市立自然史博物館が収集した分布情報によると、兵庫県での市町別の初確認の状況は以下のとおりである。

2012年 尼崎市、西宮市、神戸市（中央区）

2013年 伊丹市

2014年 神戸市（兵庫区、長田区、須磨区、垂水区）、淡路市、洲本市

2015年 神戸市（東灘区、灘区）、明石市

2016年 芦屋市

2017年 加古川市

2018年 神戸市（北区、西区）、三田市、姫路市

2019年 宝塚市、川西市、猪名川町、赤穂市

上記情報では兵庫県の播磨地域の臨海部の情報しか見られず、内陸部への広がりを見るため播磨地域東部における若干の調査を2021年と2022年に行ったので、その結果をここに報告するものである。

調査区域は明石市、加古川市、高砂市、播磨町、稲美町、三木市、小野市、加東市、加西市、西脇市、多可町と姫路市であるが、すべての市町でアカハネオンブバッタを確認することができた。

明石公園ではアカハネオンブバッタが多くて在来のおんぶバッタを探すのに苦労する状態になっているのに対し、加東市と播磨町の調査地では在来のおんぶバッタの方が多くアカハネオンブバッタを探すのが大変であった。他の調査地点については、アカハネオンブバッタの方を先に見つけたので、その後はおんぶバッタ類を探すことは行っておらず、どちらが多いかは不明である。

【確認情報】

1. 明石市明石公園（明石公園）2021年11月15日 1♀
2. 加古川市尾上町池田（加古川の土手）2021年11月16日 2♂
3. 高砂市高砂町向島町（加古川河川敷）2021年11月16日 1♀
4. 播磨町古宮（古宮漁港）2022年10月21日 1♂
5. 稲美町加古（加古大池の土手）2021年11月8日 1♀
6. 三木市福井（三木山森林公園）2021年11月25日 1♂
7. 小野市黍田町（加古川の土手）2021年11月11日 1♀
8. 小野市下大部町（加古川河川敷）2021年11月20日 1♀
9. 加東市野村（加古川河川敷）2021年11月20日 1♀

10. 加西市田原町（田のあぜ）2021年11月20日 1♀

11. 加西市綱引町（万願寺川河川敷）2021年11月28日 1♀

12. 西脇市板波町（田のあぜ）2022年10月12日 1♀（図1）

13. 多可町中区天田（田のあぜ）2022年10月20日 1♂ 1♀

14. 姫路市大塩町（水路横の草地）2021年11月26日 1♂

○参考文献

日本直翅類学会, 2006, バッタ・コオロギ・キリギリス大図鑑, 北海道大学出版会

神吉正雄, 2019, アカハネオンブバッタとおんぶバッタの生息状況 (1). きべりはむし 41(2): 16-22

松本史樹郎, 2022, アカハネオンブバッタ分布調査のページ, <https://attractomorpha.jimdofree.com/> (2022.10 アクセス) 大阪市立自然史博物館

(Takeshi SHIBATA 兵庫県明石市)



図1 西脇市板波町産アカハネオンブバッタ（2022年10月12日）。

兵庫県からのシミ目記録

市川顕彦・井藤将大

兵庫県から採集されたシミ目 2 種の追加記録である。

○セグロシミ *Ctenolepisma* sp.

1 頭, 神戸市東灘区魚崎南町 5 丁目, 住吉川左岸緑地, クロマツ樹皮下, 2022 年 1 月 16 日, 西元大作・市川顕彦採集

2 ♀, 西宮市武庫川町, 武庫川河川敷, [クロ] マツ, 2022 年 4 月 8 日, 井藤将大採集

大阪, 兵庫では主にクロマツの樹皮下にこのシミが生息する。家屋内にも侵入するが, ヤマトシミやセスジシミほどは見られない模様。

○クロサアリシミ *Nipponatelurina kurosai* Mendes & Machida, 1994

2 頭, 明石市大久保町谷八木海岸 (材木下, トビイロシワアリ巢中), 2022 年 10 月 5 日, 市川顕彦採集

このアリシミは神戸市東灘区の住吉がタイプ産地である。これは阪神間のアリ (特にトビイロシワアリ) の巢によくいる。

セグロシミの採集に関して協力していただいた西元大作氏, 明石市での調査に協力していただいた福島秀毅氏に感謝する。標本は大阪市立自然史博物館と兵庫県立人と自然の博物館に寄贈する。

○参考文献

市川顕彦 (2022) 関西のシミ類 (前編, 後編). *Nature Study*, 68(8): 4-8, (9): 3-7.

(Akihiko ICHIKAWA 大阪市大正区)
(Masahiro ITO 兵庫医科大学)

2022 年の兵庫県産昆虫採集記録

市川顕彦

採集者はすべて市川である。

直翅目 ヒバリモドキ科

○クロヒバリモドキ *Trigonidium cicindeloides* Rambur, 1839

1 ♂ 2 ♀ (1 ♀ は長翅型), 尼崎市杭瀬本町 1 丁目, 宮前公園, 2022 年 10 月 15 日

1 ♀, 尼崎市塩江 5 丁目, 塩江緑遊公園, 2022 年 10 月 23 日

1 ♀, 伊丹市天津, 猪名川左岸草地, 2022 年 12 月 7 日

本種は 3, 4 年前に大阪市大正区の千島公園に出現した。現在同公園には多数生息する。既に大阪市内の緑地

に広がっていて, 昨年秋には大阪府河内長野市の岩湧山上でも目撃した。また昨年は京都府京田辺市の木津川でも目撃している。2018 年 9 月の台風 21 号に便乗して南方から広がったものと思われる。20 年程前に和歌山県南部で採集された標本を見ていて, 5 年ほど前には和歌山県御坊市西の美浜町煙樹ヶ浜で私自身も採集している。兵庫県では明石市でも確認している。

半翅目 マダラナガカメムシ科

○ツマベニヒメナガカメムシ *Neortholomus scolopax* (Say, 1831)

1 頭, 明石市大久保町八木海岸, 2022 年 10 月 5 日

1 頭, 西宮市浜甲子園 3 丁目, 甲子園浜, 2022 年 10 月 23 日

1 頭, 尼崎市塩江 5 丁目, 塩江緑遊公園, 2022 年 10 月 23 日

1 頭, 伊丹市森本, 猪名川左岸草地, 2022 年 12 月 7 日

吉田 (2020) で兵庫県では神戸市から初めて記録され, 宇野 (2022) で西宮市から, 市川ほか (2022) で明石市から記録された。尼崎市と伊丹市は初めてかも知れない。大阪府でもかなり広がっている。小型で前翅の赤斑が淡い個体はヒメナガカメムシ属 *Nysius* と紛らわしい。マツヨイグサ類に寄生するというが, この類のないところでも生息している。

双翅目 ツルギアブ科

○タシマツルギアブ *Acrosathe tashimai* Nagatomi & Lindberg, 1988

3 頭, 明石市大久保町谷八木~八木海岸, 2022 年 10 月 5 日

永富・大石 (2000) を参考に同定した。状態の良好な砂浜に生息するらしい。1 頭は中八木駅東南の遺跡公園内の草地で採集した。兵庫県初記録かもしれない。

明石市での採集に協力していただいた福島秀毅氏に感謝する。標本は主に兵庫県立人と自然の博物館に, 一部は大阪市立自然史博物館に寄贈する。

○参考文献

市川顕彦・西元大作・井藤将大 (2022) 2021 年カメムシ亜目の記録. *かめむしニュース*, (67): 3-15.

永富昭・大石久志 (2000) 日本産ツルギアブの同定. *はなあぶ*, (9): 1-32.

宇野宏樹 (2022) 兵庫県西宮市におけるツマベニヒメナガカメムシの記録. *かめむしニュース*, (66): 9.

吉田浩史 (2020) 神戸市内からのツマベニヒメナガカメムシの記録. *きべりはむし*, 43(2): 50.

(Akihiko ICHIKAWA 大阪市大正区)

[新刊紹介] 山根爽一ら編『坂上昭一の昆虫比較社会学』
(海游舎) / 西村玲子『ハチのいない蜂飼い』(天夢人)

前藤 薫

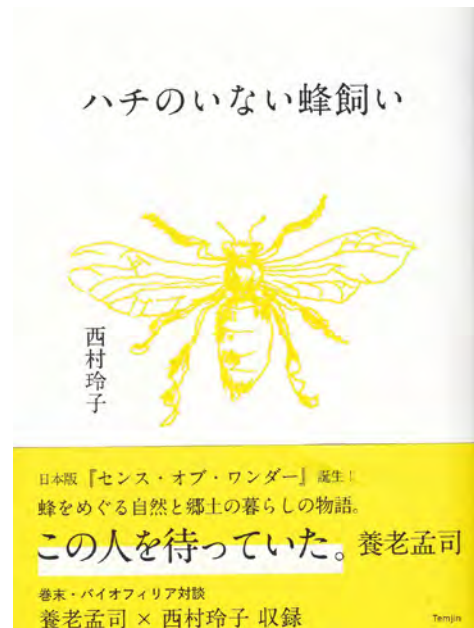
ミツバチに深く魅せられたお二人の本が、この夏あ
い次いで出版された。

坂上昭一博士(1996年没)はハナバチ研究の碩学で
あり、『ミツバチのたどったみちー進化の比較社会学』
と『私のブラジルとそのハチたち』は、真社会性にいた
るハナバチ類の生態をきわめて精緻に辿りながら、少し
も飽きさせない名著である。その筋立ては今でも斬新で
あり、アイデアに富んでいる。若い方々にも是非、明晰
な文体と澁淵とした知力を堪能して頂ければと思う。



さて、『坂上昭一の昆虫比較社会学』は、お弟子さん
らによって取り纏められた氏の評伝である。門下生や
共同研究者だけでなく、博士の学問に感化された気鋭
の進化生物学者が多数寄稿して、“坂上学”の世界を語
り尽くしている。詳細については、海游舎の新刊案内
<https://kaiyusha.wordpress.com/> を参照されたい。

坂上博士は、北海道大学の理学部および低温科学研
究所において学生を指導し、ハチ学にとどまらず動物行
動学や進化生態学を力強く牽引することになる多くの才
能を育てられた(米国に渡って鳥類の神経行動学を切り
拓いた小西正一博士もその一人であり、印象的なエピ
ソードが紹介されている)。若者を自らの専門分野に閉
じ込めてしまう愚は言うまでもないとして、ではどうす
れば良いのか? 学生や共同研究者の思いを尊重し、対話
を諦めないことの大切さを、あらためて考えさせられた。



『ハチのいない蜂飼い』には、岐阜県郡上市に暮らす
著者と二ホンミツバチの生活が、それらを取り巻く自然
の四季や地域の人々との関りを含めて丁寧に綴られてい
る。西村氏は、とくに虫好きなのではなく、故郷で営む
洋菓子屋に自家製の蜂蜜を使いたいと考えて二ホンミツ
バチに出会ったとのこと。二ホンミツバチは家畜ではな
いので、自分は「養蜂家」ではなく、ただの「二ホンミ
ツバチと暮らしたい人」なのだという。

だが、春の分蜂から始まる二ホンミツバチの生態あ
るいは暮らしぶりの描写はきわめて綿密であり、それで
いてリズムカルで心地よい。夏になると巣箱の追加や採
蜜、秋はオオスズメバチとの格闘や台風対策など賑やか
に季節は流れる。二ホンミツバチがなかなか気難しい野
生動物であること、セイヨウミツバチとの様々な違いな
ど、あらためて気づかされることが多い。地元の二ホン
ミツバチ研究家から指導を受けたというが、そのうえで
確りと勉強されていることが分かる。

二ホンミツバチとの暮らしだけでなく、「ヘボ獲り」
「コケ採り」「しろとり」「七十二候」など、奥美濃の自
然に裏打ちされた伝統文化が面白い。また、冬期灌水に
よる不耕起水田稲作など、新しい試みも紹介されている。

ところで、タイトルの「ハチのいない」には、著者
が感じる自然環境の変化への危惧が込められている。数
年前のこと、マイマイガの大発生に伴って二ホンミツバ
チが著しく減少したのだという。巻末ではセイヨウミツ
バチの野生化についても懸念されている。いずれも著者
の考察は慎重であるが、昆虫を研究する者に対して投げ
かけられた貴重な問いかけとして受け止めたい。

(Kaoru MAETO 兵庫県宝塚市)

[新刊紹介] ヒメバチ・コマユバチとハナバチの検索図説

前藤 薫

最近『日本産ハバチ・キバチ類図鑑』が出版されて、ハチ目昆虫も多くが図鑑で同定できるようになったが、小さくて膨大な種数を擁する寄生バチ類の図鑑による同定が可能となることはないだろう。しかし、寄生バチのもつ豊かな多様性を、できるだけ分かり易く、かつ正確に伝える努力が大切であることは言うまでもない。

ヒメバチ類とコマユバチ類からなるヒメバチ上科は、寄生バチの仲間のなかでは比較的大型なのでよく目に留まる。だが、種数がやたらに多く、アゲハヒメバチやウマノオバチのように特徴的なものを除けば、種レベルの同定は難しい。種の検索表を探して同定に挑戦しようにも、これまでは日本語による亜科や属の同定手引きがなくてお手上げであった。

この夏に出版された渡辺恭平・藤江隼平による『日本産ヒメバチ上科(膜翅目)の属への検索表』は、そうした状況を打破して、ヒメバチ・コマユバチ類の「見える化」を進めようとするものである。日本に産する(あるいは未記録だが分布している可能性が高い)ヒメバチ上科の全亜科・全属を同定するための検索表が掲げられ、それらを読み解くための写真や線画が多数添えられている。あらかじめ日本語と英語を対比しながら形態用語が整理されていて、これは英語の原著論文を読み解くときの助けにもなるだろう。寄生バチの調査採集法や標本作製法のコツも詳しく述べられていて参考になる。

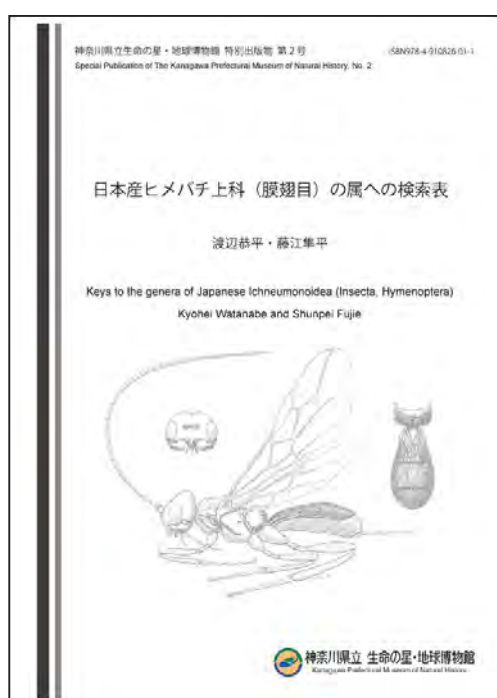
本検索図説は、「神奈川県立生命の星・地球博物館特別出版物」の第2号として電子出版されたもので、下記のURLにアクセスすれば誰でも自由に利用できる。

<https://nh.kanagawa-museum.jp/www/contents/1643173895521/index.html>

寄生バチは近寄りがたいと思われる方も、ぜひのぞいてみて頂きたい。カラー画像によって豊かな造形が楽しめるだけでなく、何よりも小林純子氏の描画による全形図がじつに見事である。個人的には、コマユバチ科の形態の奇抜さは、属種数では引けを取るものの、ヒメバチ科を大きく凌駕していると思う。ちなみに、表紙の全形図はハエヤドリコマユバチ亜科の一種である。腹部(後体節)の背板はほぼ一体化して"甲羅"のようになり、大あごは"外向き"に咬む構造になっている。

同じ「神奈川県立生命の星・地球博物館特別出版物」の第1号として出版されているのが、渡辺恭平・長瀬博彦による『日本産ハナバチ類の同定の手引き』である。こちらは、種レベルの検索図説である。緒言に述べられているように、ハナバチ類の同定は『日本産ハナバチ図鑑』の出版によって容易になったが、さらに検索表を整備することによってより確実な同定を可能にしようとするものである。『日本産ハナバチ図鑑』を読み解くための補助線として作成されているものの、多くの素晴らしい写真や線画が添えられていて圧巻である。ハナバチ類の標本作製法や形態用語の解説も有用であろう。

(Kaoru MAETO 兵庫県宝塚市)



きべりはむし 投稿案内

1. 内容

「きべりはむし」は、老若男女を問わず、昆虫に関心のある読者を対象とし、兵庫県ならびに地域の昆虫相、昆虫の採集・観察・飼育の記録や方法、昆虫学の解説、昆虫を題材とした教育や地域づくりに関する記録や方法などの、未発表の報文を掲載します。

2. 編集・発行

「きべりはむし」は、兵庫昆虫同好会の機関誌ではなく、独立した雑誌とし、「きべりはむし編集委員会」が編集し、「兵庫昆虫同好会」と「NPO 法人こどもとむしの会」が共同で発行します。巻号は、兵庫昆虫同好会発行の「きべりはむし」の継続とします。

3. 著作権

掲載報文の著作権は、「NPO 法人こどもとむしの会」に帰属するものとします。

4. 体裁・媒体

本誌の判型は A4 判とし、横書き 2 段組とします。本誌は、Adobe PDF 形式による電子ファイルとして出版し、データは「NPO 法人こどもとむしの会」の web サイト (<http://www.konchukan.net/kiberihamushi>) からダウンロードできるものとします。また、紙媒体による印刷物を別途製作し、希望者に時価で頒布します。

5. 投稿者

「きべりはむし」には、NPO 法人こどもとむしの会正会員および賛助会員、兵庫昆虫同好会会員、学生（小学生、中学生、高校生、大学生および大学院生）ならびにきべりはむし会員のいずれかが著者に含まれる原稿を投稿することが出来ます。なお、きべりはむし会員が 1 年間に投稿できるのは、報文 2 報・短報 2 報までとなります。

6. 原稿提出時のお願い

原稿は、原則としてデジタルデータでお願いします。以下を参考に、文字部分と、図や表の部分は別々のファイルとして提出ください。従来通りの紙原稿でも受付しますので、ふるって投稿ください。

1) 文字部分

図表以外の部分と図表のキャプションは、1 つのファイルとして、リッチテキスト形式 (.rtf) もしくは MS ワード形式 (.docx) で保存してください。ゴシック体、イタリック体などの書体も指定ください。原稿は、一般に、表題、著者、要旨、本文、謝辞、文献で構成します。本文が数ページに及ぶ報文の場合は、本文の前に 400 字以内程度の要旨をつけることも可能です。文献、ホームページの引用は、一般的な学術雑誌の例にならってください。

2) 図表

それぞれの図表ごとに別々のファイルとして作成し、.jpeg, .psd, .pdf などの形式で保存してください。また画像データにつきましては可能な限り、高解像度での保存をお願いします。図表の幅は、1 段または 2 段分となります。原則として、単純な拡大縮小以外には行わず、そのまま印刷に供しますので、図表中の文字サイズは、刷り上がりの大さを考えて適切に設定してください。また、写真のトリミングは、適切にトリミングしたものを提出してください。

著者以外が作成した地図や、人物が写っている写真を用いる場合は、事前に、著作権者や本人の承諾を得ておいてください。

3) 引用文献

文献を引用する場合、雑誌や単行本は「著者名 (年号)」または「(著者名, 年号)」、ウェブサイトは「サイト作成者名 (年号)」、「(サイト作成者名, 年号)」または「(ウェブサイト名)」と、本文の引用箇所に書き、文末に引用文献をまとめて記載してください。引用文献の記載方法は、以下の例を参考にしてください。

- ・雑誌を引用する場合

(例 1) 福岡誠行・黒崎史平・高橋晃, 2000. 兵庫県産維管束植物 2. 人と自然, 11: 85 - 104.

(例 2) 石原誠一, 1959a. トビイロスズメの生活史 (I). 新昆虫, 12 (2): 36 - 39.

(例 3) 石原誠一, 1959b. トビイロスズメの生活史 (II). 新昆虫, 12 (7&8): 37 - 39.

(例 4) Hardy, D. E., and M. Takahashi. 1960. Revision of the Japanese Bibionidae (Diptera, Namatocera). Pacific Insects, 2(4): 383-449.

- ・単行本を引用する場合

(例 5) 安永智秀・高井幹夫・中谷至伸, 2001. 日本原色カメムシ図鑑－陸生カメムシ類 Terrestrial Heteropterans－第2巻 (安永智秀・高井幹夫・川澤哲夫 編). 全国農村教育協会, 東京. 350pp.

- ・ウェブサイトを引用する場合

(例 6) 神戸市, 2015. 神戸の希少な野生動植物－神戸版レッドデータ 2015－, (<http://www.city.kobe.lg.jp/life/recycle/biodiversity/rd/img/rdb2015.pdf>).

(例 7) Web 東奥 (東奥日報), 2020 年 8 月 25 日, 青森県初確認? 深浦町にアカギカメムシ, <https://www.toonippo.co.jp/articles/-/399599> (参照 2020 年 11 月 26 日) .

7. 原稿送付先

きべりはむし編集委員会 kiberihamushi@konchukan.net

〒657-8501 神戸市灘区六甲台町 1-1 神戸大学農学部昆虫多様性生態学研究室

NPO 法人こどもとむしの会 事務局気付

8. 原稿の修正, 採否等

編集委員会は、内容や文言の修正を著者に求めることがあります。また趣旨に合わない原稿は掲載をお断りすることがあります。

9. 投稿者, 原稿内容に関する問い合わせ

個人情報保護の観点から、投稿者個人の連絡先は明記しておりません。お問い合わせ等につきましてはきべりはむし編集委員会メールアドレス kiberihamushi@konchukan.net までお願いいたします。

10. ISSN について

きべりはむしは第 32 巻第 2 号からオンラインジャーナルの PDF 版が正式版となりました。これに伴い、ISSN (国際標準逐次刊行物番号: International Standard Serial Number) を取得しました。ISSN とは、雑誌などの逐次刊行物の情報を識別するための国際的なコード番号です。

- ・参考 web サイト

ISSN 日本センター: <http://www.ndl.go.jp/jp/aboutus/issn.html>

きべりはむし 第45巻 第2号

2022年12月25日 発行

編 集 きべりはむし編集委員会

発 行 兵庫昆虫同好会・NPO 法人こどもとむしの会

事務局 きべりはむし編集委員会 kiberihamushi@konchukan.net
〒657-8501 神戸市灘区六甲台町 1-1 神戸大学農学部昆虫多様性生態
科学研究室 NPO 法人こどもとむしの会 事務局気付

きべりはむし web サイト：<http://www.konchukan.net/kiberihamushi>

きべりはむし 第45巻 第2号 目次

【報 文】

三田市における蝶類の記録	谷野温	1-7
ツマグロキチョウの阪神間での確認記録	神吉正雄	8-15
みんなでつなぐ 初蝶リレー	久保弘幸	16-25
神戸市摩耶山における2021年度のアサギマダラの標識個体の移動結果	宮武頼夫・一井弘行・徳増 実事	26-33
兵庫県におけるシルビアシジミの吸蜜植物—第5報	島崎正美・島崎能子	34-35
2021年～2022年に西播磨地域で採集・撮影した注目すべき蛾類の記録	高橋弘樹	36-40
相生市「羅漢の里」公園で確認された蛾類の記録(1) - 相生市三濃山麓の蛾 2020 - 2022 -	高橋弘樹	41-51
ベニイカリモンガの兵庫県からの記録と大阪府での追加記録	植田義輔	52-53
兵庫県のムシヒキアブ(Diptera: Asilidae) 相の解明に向けて—上郡町で記録したムシヒキアブ、ならびにオタネガワイシアブの記録—	大貝秀雄	54-58
兵庫播磨地域の4ヶ所でベニトンボを確認	植田義輔	59-60
『兵庫県赤穂郡上郡町の住宅団地内1区画における昆虫相』の正誤リストならびに、この昆虫相に新たに追加される種名一覧	大貝秀雄	61-65

【短 報】

兵庫県におけるモンキセダカマルカスミカメの記録	宇野宏樹	66
ウラナミジャノメによるケネザサ葉上での吸汁と雨露の吸汁を観察	島崎正美・島崎能子	66-67
姫路市におけるメスアカムラサキの記録	広畑政巳	68
兵庫県におけるオオムラサキクチャバの記録	杉本圭悟	68
兵庫県におけるツシマキモンチラシの記録	安岡拓郎	69
兵庫県内におけるオオシロシタバの追加記録	谷野温・内田隼人・杉本圭悟	70
チャイロチビヒラタカミキリ, その後	小西和夫	71
但馬のハラアカコブカミキリ(続報)	小西和夫	72
姫路市からマゴジャクシミゾキノコシバンムシの記録	檀野将平	73
兵庫県におけるオチバアナアキゾウムシの記録	脇村涼太郎	74
兵庫県におけるウミズカメムシの記録	脇村涼太郎	74
兵庫県初記録のヒコサンジュウジアトキリゴミムシ	森正人	75
兵庫県におけるマルチビガムシとゴマダラチビゲンゴロウの記録	森正人・西野洋樹	75-76
キバラハキリバチの神戸市垂水区からの記録	吉田浩史	76
兵庫県の播磨地域東部におけるアカハネオンブバッタの確認情報	柴田剛	77
兵庫県からのシミ目記録	市川顕彦・井藤将大	78
2022年の兵庫県産昆虫採集記録	市川顕彦	78

【書 評】

【新刊紹介】山根爽一ら編『坂上昭一の昆虫比較社会学』(海游舎)／西村玲子『ハチのいない蜂飼い』(天夢人)	前藤薫	79
【新刊紹介】ヒメバチ・コマユバチとハナバチの検索図説	前藤薫	80

投稿案内		81-82
------	--	-------